

第 58 回神戸市環境保全審議会
令和 7 年 7 月 3 日
参 考 資 料 1

神戸市環境保全審議会規則

〔平成 9 年 7 月 30 日〕
規則 第 28 号

（趣旨）

第 1 条 この規則は、神戸市民の環境をまもる条例（平成 6 年 3 月条例第 52 号）第 53 条第 4 項の規定に基づき、神戸市環境保全審議会（以下「審議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第 2 条 審議会は、40 人以内の委員で組織する。

2 委員は、学識経験者その他市長が必要があると認める者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

3 前項に規定する委員のほか、市長は、特別の事項又は専門の事項を調査審議させるため必要があると認めるときは、当該事項を明示して臨時委員を委嘱し、又は任命することができる。

4 臨時委員は、当該事項が議題として審議されるときに限り会議に出席する。

（任期）

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 臨時委員は、当該特別の事項又は専門の事項の調査審議が終了したときは、解嘱され、又は解任されるものとする。

（会長及び副会長）

第 4 条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、審議会に関する事務を処理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第 5 条 審議会は、会長が招集し、会長が、その議長となる。

2 審議会は、委員及び議事に関係のある臨時委員の総数の過半数の者が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第6条 審議会の庶務は、環境局において処理する。

(施行細目の委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の際現に神戸市環境保全審議会規則（昭和47年8月^市規則
教育委員会

第2号）の規定に基づき市長により委員に委嘱され、又は任命されている者は、この規則の規定に基づき委嘱され、又は任命された者とみなす。

3 前項の規定により委員とみなされた者の任期は、第3条第1項本文の規定にかかわらず、1年3月27日とする。

(平成22年11月25日に審議会の委員である者の任期に関する特例)

4 平成22年11月25日に審議会の委員である者の任期は、第3条第1項本文の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

附 則（平成22年11月11日神戸市規則第17号）

この規則は、公布の日から施行する。

神戸市環境保全審議会委員名簿

(50 音順、敬称略)

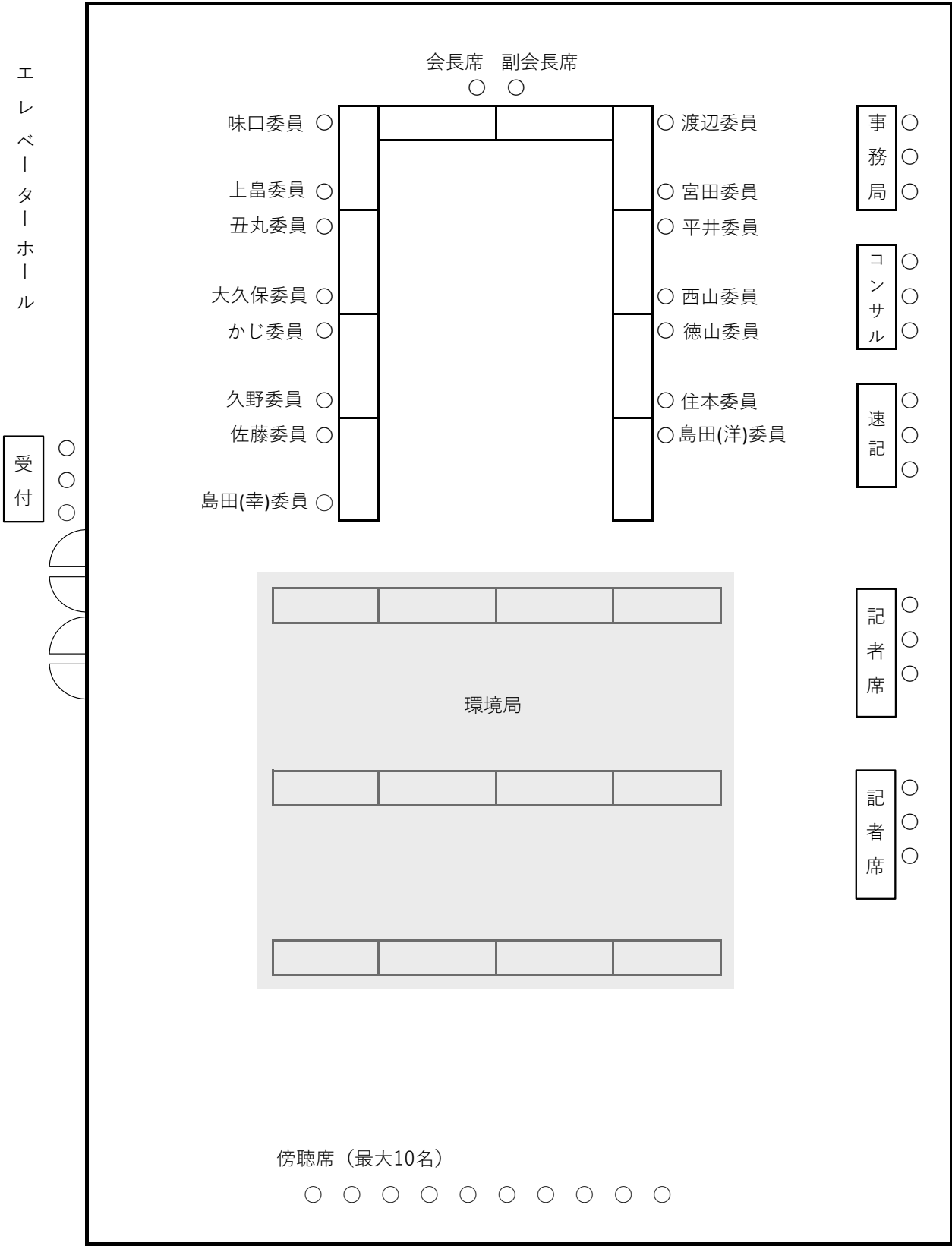
	氏名	所属および肩書	備考
○	あじぐち 味口 としゆき	神戸市会議員（日本共産党）	
	うえはた のりひろ 上畠 寛 弘	神戸市会議員（自由民主党）	
	うしまる あつし 丑丸 敦史	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授	
	うたか やすひろ 宇高 康弘	連合神戸地域協議会	欠席
	おおくぼ のりこ 大久保 規子	大阪大学大学院法学研究科 教授	
○	ゆきお かじ 幸夫	神戸市会議員（こうべ未来）	
	くの ひろき 久野 洋貴	兵庫県環境部次長	
	こじま りさ 小島 理沙	京都経済短期大学経営情報学科 教授	欠席
○	さとう まさゆき 佐藤 真 行	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授	
	しまだ こうじ 島田 幸司	立命館大学経済学部 教授	
	しまだ ようこ 島田 洋子	京都大学大学院工学研究科 教授	
○	すみもと 住本 かずのり	神戸市会議員（日本維新の会）	
	たかお 高尾 ひろ子	神戸市婦人団体協議会	欠席
○	とくやま まさはる 徳山 雅 治	生活協同組合コープこうべ	
	にしやま ともよ 西山 友世	兵庫県環境保全管理者協会	
○	ひらい かつゆき 平井 克 幸	神戸商工会議所	
○	ほんだ ともみ 本田 智美	神戸市自治会連絡協議会	欠席
○	みやた きみこ 宮田 公子	神戸市会議員（公明党）	
○	やつもと あや 八元 綾	環境省近畿地方環境事務所 環境対策課長	欠席
	わたなべ のぶひさ 渡辺 信 久	大阪工業大学工学部 教授	

○＝新任委員

合計 20 名

座席表

(50音順)



第 58 回神戸市環境保全審議会
令和 7 年 7 月 3 日
参 考 資 料 4

令和 7 年 5 月～6 月 神戸市環境局記者提供資料（抜粋）

	表題	ページ
1	自然環境保全活動を行う団体への補助を行います（5 月 23 日）	1
2	神戸空港にペロブスカイト太陽電池を設置～全国初の実証実験～（6 月 12 日）	4
3	「こうべ油回収チャレンジ」の回収拠点が市内全区に拡大（6 月 27 日）	6
4	資源回収ステーションがオープン！「エコノバみなとじま・つきがおか・こづかやま」（6 月 27 日）	8
5	夏休み限定企画！クリーンセンター見学×好日山荘防災講座（6 月 30 日）	13

記者提供資料（2025 年 5 月 23 日）

環境局自然環境課 岡田、山本

TEL：078-595-6216 FAX：078-595-6254

E-mail: biodiversity@city.kobe.lg.jp

環境保全課 梶原、中崎

TEL：078-595-6215 FAX：078-595-6256

E-mail: suisitu_monitoring@city.kobe.lg.jp

自然環境保全活動を行う団体への補助を行います

神戸市では、自然環境保全活動に対する市民理解を深め、保全活動への市民参加を促進するため、市内で自然環境保全活動を行う団体の活動に関する経費について補助する「神戸市自然環境保全活動支援事業」を実施します。

この事業が対象としているのは次の3つの活動です。

- ① 生物多様性保全活動
- ② アカミミガメ防除活動
- ③ 水辺清掃活動

また、アカミミガメ防除活動を行う団体のうち、捕獲数が多い上位3団体について、表彰及び副賞最大10万円を交付します。

支援制度の詳細については要綱・募集要領をご参照ください。

1. 生物多様性保全活動

（1）対象活動

- ① 生態系に悪影響を及ぼす動植物を防除する活動
- ② 「神戸版レッドデータ2020」に記載の希少種のうち、Cランク以上の野生動植物等の保全・保護活動
- ③ 活動地域における在来の生態系の保全に関する活動
- ④ 生物多様性の普及啓発に関する活動

（2）補助金額

1団体につき100,000円を限度とします。

（3）募集団体数

先着10団体程度（予算の上限に達し次第、募集を締め切ります。）

（4）活動の対象期間

2025年4月1日（火曜） ～ 2026年2月28日（土曜）

2. アカミミガメ防除活動

(1) 対象活動

以下の要件を全て満たす、アカミミガメ防除のための活動とします。

- ① 5名以上の団体の活動であること
- ② 神戸市内の河川、ため池等で行われる防除活動であること（河川の指定はありません。）
- ③ 3名以上の会員が参加するアカミミガメの防除に関する講習会を、原則としてアカミミガメを捕獲する場所で開催すること

(2) 補助金額

捕獲数	補助額
0～9 匹	10,000 円
10～24 匹	20,000 円
25～49 匹	30,000 円
50～74 匹	40,000 円
75 匹以上	50,000 円

※神戸市が引き取りを行った個体数をもって捕獲数とします。

(3) 募集团体数

先着 20 団体程度（予算の上限に達し次第、募集を締め切ります。）

(4) 活動の対象期間

交付決定日 ～ 2025 年 12 月 26 日（金曜）

(5) 表彰制度

補助団体のうち、捕獲数が多い上位 3 団体について表彰し、捕獲数に応じて下表に掲げる金額を副賞として交付します。

捕獲数	副賞	捕獲数	副賞
100 匹～199 匹	+10,000 円	600 匹～699 匹	+60,000 円
200 匹～299 匹	+20,000 円	700 匹～799 匹	+70,000 円
300 匹～399 匹	+30,000 円	800 匹～899 匹	+80,000 円
400 匹～499 匹	+40,000 円	900 匹～999 匹	+90,000 円
500 匹～599 匹	+50,000 円	1,000 匹以上	+100,000 円

※上位 3 団体であっても捕獲数が 100 匹未満の場合、副賞はありません。

3. 水辺清掃活動

(1) 対象活動

河川、海岸及びその周辺水域の清掃活動

(2) 補助金額

1 活動につき 30,000 円を限度とする。

(3) 募集团体数

先着 5 団体程度（予算の上限に達し次第、募集を締め切ります。）

(4) 活動の対象期間

2025 年 4 月 1 日（火曜） ～ 2026 年 1 月 31 日（土曜）

4. 要綱、募集要領、申請書について

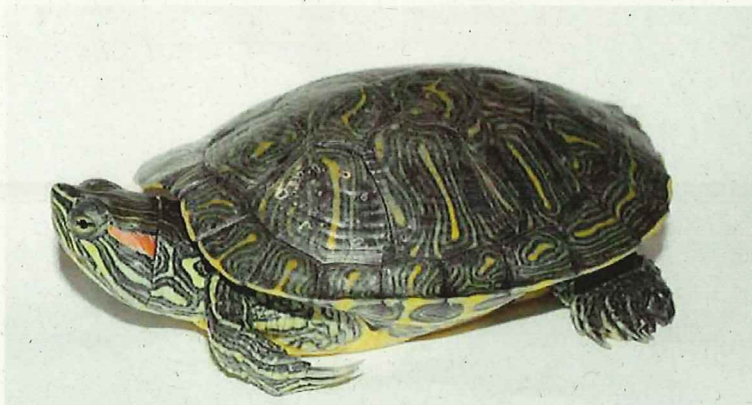
神戸市環境局のホームページからダウンロードできます。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a66324/kurashi/recycle/biodiversity/hojokin.html>

支援制度の詳細・申請方法については、要綱・募集要領をご参照ください。

(参考) アカミミガメとは

アカミミガメは北米原産の淡水ガメで、全国各地に定着し、在来カメ類の日光浴の場所や食物を奪うなどの影響を及ぼしています。また、雑食性で水草や様々な水生生物を捕食するため、在来生物群集に大きな影響を与えられます。2023 年 6 月には外来生物法に基づき、条件付特定外来生物に指定され、ペットとしての飼育は可能ですが、野外への放流などは法律により禁止されています。



記者資料提供（2025 年 6 月 12 日）

神戸市環境局脱炭素推進課 青位・白川

TEL：078-595-6088 E-mail: energy@city.kobe.lg.jp

神戸空港にペロブスカイト太陽電池を設置 ～全国初の実証実験～

神戸市は、積水化学工業株式会社および積水ソーラーフィルム株式会社、関西エアポート神戸株式会社と連携し、神戸空港の制限区域内でペロブスカイト太陽電池の実証実験を開始します。

なお、空港制限区域内におけるペロブスカイト太陽電池の設置は、国内初の取組です。

1. 背景

2050 年のカーボンニュートラル実現に向けて、再生可能エネルギー（以下、「再エネ」）の導入拡大が求められている中、本市を含む都市部においては再エネ導入の適地が限られており、従来技術では設置が困難であった場所でも導入が期待されるペロブスカイト太陽電池が注目されています。

また、国においては「空港の再エネ拠点化」が掲げられており、今後、既存製品では設置できなかった空港施設（耐荷重上設置が困難とされる格納庫、着陸帯など）に、技術的検証を踏まえた太陽電池の導入拡大が期待されています。

本実証は、空港制限区域内の緑地帯に地上設置するものであり、軽量・薄型で柔軟性を有するペロブスカイト太陽電池の特性を活かし、空港機能を維持・確保しながら将来的な再エネ導入の拡大を見据えた取組です。

○参考：国土交通省「空港脱炭素化事業促進のためのマニュアル」（概要）

https://www.mlit.go.jp/koku/koku_fr9_000040.html

2. 概要

- ・使用電池：フィルム型ペロブスカイト太陽電池（防草シート上に設置）
- ・実証場所：神戸空港制限区域内
- ・実証期間：2025 年 6 月～2027 年 3 月（予定）
- ・実証内容：空港特有の耐風性能など安全性検証、施工方法の検証、耐久性・発電効率の検証など



ペロブスカイト太陽電池の設置状況

3. 関係者との役割分担

- ・ 神戸市：全体調整、広報など
- ・ 積水ソーラーフィルム株式会社：ペロブスカイト太陽電池の設計・施工、実証成果分析など
- ・ 関西エアポート神戸株式会社：フィールド提供

4. 導入拡大に向けた方針

本実証を通して得られた知見等も活用しながら、ペロブスカイト太陽電池の市域への更なる導入拡大に向けて、引き続き、関連事業者さまとの協議・連携を進めていく予定です。

【参考】ペロブスカイト太陽電池とは

重量がある一般的な太陽電池「シリコン系太陽電池」に対し、「ペロブスカイト太陽電池」は、軽量・薄い・柔軟であるなど、既存の太陽電池には無い特性を有しており、従来の技術では設置が困難であった場所にも導入が期待される日本発の技術です。一部企業では 2025 年度から事業化が開始される予定です。

また、ペロブスカイト太陽電池は、材料をフィルムなどに塗布・印刷して作ることができ、製造工程が少なく、大量生産が可能なため、将来的な低コスト化が見込まれています。さらに、主な原料であるヨウ素は、我が国の生産量が世界シェアの約3割を占めており、原材料を含めた安定的なサプライチェーン構築にも寄与するとされています。

本市のような都市部においては再エネの適地が限られており、2050 年カーボンニュートラルの実現を牽引する次世代型技術として期待されています。



ペロブスカイト太陽電池（出典：積水化学工業）

「こうべ油回収チャレンジ」の回収拠点が市内全区に拡大

神戸市では、家庭から排出される廃食用油を貴重な資源として活用し、脱炭素・資源循環の取組を推進するため、2024 年 10 月から家庭系廃食用油の回収実証事業「こうべ油回収チャレンジ」（以下、「本事業」）を実施しています。

この度、市民の皆様の利便性向上と回収量の更なる拡大を目的に、回収拠点を市内 12 か所へと拡充し（従来は 4 か所）、市内全区に回収拠点を設置することとなりました。

ぜひ、お気軽に最寄りの回収拠点にお立ち寄りいただき、本事業へのご協力をお願いします。

1. 追加設置した回収拠点 8 か所について

追加設置した回収拠点は下表のとおりです。回収日・時間をご確認のうえご利用ください。

施設名	所在地	回収場所	回収日	回収時間
灘区役所	灘区桜口町 4-2-1	1 階玄関	月～金	8 時 45 分～17 時 15 分
コムスタこうべ	中央区吾妻通 4-1-6	1 階受付前	毎日 ※年末年始は除く	9 時～21 時（月曜～土曜） 9 時～17 時（日曜・祝日）
北神区役所	北区藤原台中町 1-2-1	北神中央ビル 6 階会議室前付近	月～金	8 時 45 分～17 時 15 分
ふたば学舎	長田区二葉町 7-1-18	2 階エコノバふ たば内	火・木～日 ※年末年始は除く	10 時～12 時 13 時～17 時
垂水区役所	垂水区日向 1-5-1	1 階北口	月～金	8 時 45 分～17 時 15 分
須磨パティオ	須磨区中落合 2-2-1	3 番館 2 階駐車 場精算機付近	毎日 ※1/1 は除く	10 時～20 時
キャンパススクエア	西区学園西町 1-4	本館西出入口ト イレ前	毎日 ※毎月第 3 火曜日は除く	9 時～22 時
プレンティ	西区糺台 5-2-3	二番館 1 階のエ レベーター付近	毎日 ※1/1、2 月第 3 水曜日は除く	10 時～20 時

※詳細な回収場所は、本市 HP をご確認ください。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a73498/energy/20240923.html>

※既に設置済みの回収拠点（東灘区役所・兵庫区役所・須磨区役所・神戸空港）も、引き続きご利用いただけます。

2. こうべ油回収チャレンジとは

神戸市では、2024 年 10 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までを実証期間と位置づけ、市内 12 か所に専用ボックスを設置し、家庭から排出される廃食用油の回収実証を実施しています。回収した油は、持続可能な航空燃料（SAF : Sustainable Aviation Fuel）やバイオディーゼルなどのサステナブルな燃料へとリサイクルされており、事業開始から 2025 年 5 月までの間で、計 1,255 リットルの廃食用油を

回収しています。

本事業は、市民一人一人が気軽に脱炭素・資源循環型社会の実現に貢献できる活動でもあり、本市においては、この一連の取組を「こうべ油回収チャレンジ～Kobe FRY to FLY Project～」として、今後も普及啓発に取り組んでいきます。

【参考】廃食用油の回収促進に向けた連携協定

本市は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、2024年6月、日揮ホールディングス株式会社、株式会社レボインターナショナル、NPO法人Blue Earth Project、関西エアポート神戸株式会社と、持続可能な航空燃料であるSAFの原料となる廃食用油回収の取組を拡大することを目的に連携協定を締結しました。

※<https://www.city.kobe.lg.jp/a73498/energy/20240628.html>



廃食用油回収の取組イメージ

【参考】持続可能な航空燃料（SAF）の国産化について

SAFは、廃食用油や植物・動物油脂、木質バイオマスなどから製造される航空燃料であり、従来の原油から製造される燃料に比べ、温室効果ガスの排出量を最大約80%削減することができます。

世界的には欧米を中心にSAFの製造が始まっているなか、日揮ホールディングス、コスモ石油、レボインターナショナルの3社は、国内初のSAF供給を目指し、2022年11月に国産SAFの製造事業会社SAFFAIRE SKY ENERGYを設立しました。

国内で発生する廃食用油のみを原料とした年産約3万キロリットルの国産SAF供給に向け、2024年12月にはSAF製造設備が完工し、2025年4月から供給が開始されています。なお、当該事業はNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）より採択※を受けた助成事業です。

※https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100312.html



SAF製造装置
(提供 合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY)

記者提供資料（2025 年 6 月 27 日）

神戸市環境局資源循環課 井関・川上

TEL：078-595-6091 FAX：078-595-6244

資源回収ステーションがオープン！ 「エコノバみなとじま・つきがおか・こづかやま」

神戸市は、プラスチックのリサイクルと、地域交流の場づくりを目的として、エコノバ（資源回収ステーション）の開設を進めています。

この度、7月5日に「エコノバみなとじま」（50 か所目）、7月13日に「エコノバつきがおか」（51 か所目）、7月19日に「エコノバこづかやま」（52 か所目）がそれぞれオープンします。

エコノバは、市民の皆さんが身近な場所で気軽に立ち寄れるようにするため、小学校区に1から2か所の設置を目標としています。今後も市内に順次拡大していきます。



1. エコノバのオープンについて

(1) 50 か所目の拠点！「エコノバみなとじま」

開設日：2025 年 7 月 5 日（土曜）

開設場所：港島地域福祉センター（中央区港島中町 2-3-3（港島ふれあいセンター内））

開設時間：13 時 00 分～16 時 00 分（土曜・日曜・祝日休館）

回収品目：ペットボトルキャップ、つめかえパック、歯ブラシ、プチプチ®

(2) 51 か所目の拠点！「エコノバつきがおか」

開設日：2025 年 7 月 13 日（日曜）

開設場所：月が丘地域福祉センター（西区月が丘 5-1-12）

開設時間：9 時 00 分～13 時 00 分（定休日なし）

回収品目：豆腐容器、ペットボトルキャップ、つめかえパック、歯ブラシ

(3) 52 か所目の拠点！「エコノバこづかやま」

開設日：2025 年 7 月 19 日（土曜）

開設場所：小東山地域福祉センター（垂水区学が丘 7-1-29）

開設時間：9 時 00 分～17 時 00 分（月曜・祝日休館）

回収品目：ペットボトル、ペットボトルキャップ、歯ブラシ、プチプチ®

2. エコノバ（資源回収ステーション）とは

プラスチックを資源として回収し、「まわり続けるリサイクル」を実践するとともに、誰もが関わるごみ出しをきっかけに地域交流が生まれるコミュニティ拠点です。

【特徴】

- ・回収品目ごとに「何にリサイクルされるのか」「どのように分別すればよいか」を“見える化”
- ・資源循環への市民の意識を高め、高品質なプラスチックごみ（資源）を回収し、開館時間ならいつでも持込可能
- ・資源の持ち込みついでに、友人や知り合いとおしゃべりを楽しむことができる交流スペースも設置

3. 既設のエコノバ（資源回収ステーション）一覧

以下のホームページにおいて、各拠点のエコノバを紹介しています。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a25748/kurashi/recycle/recovery-of-plastic-resources.html>



エコノバ

みなとじま
資源回収ステーション

2025 (令和7年)

7/5±OPEN

※「エコノバ」は資源回収ステーションの愛称です。

家庭から出た資源が生まれ変わるよ! ぜひ持って来てね!

ペットボトルキャップ



ペットボトルキャップは
プラスチック製日用品に

つめかえパック



つめかえパックは
新しいつめかえパックへの
リサイクルに挑戦中

歯ブラシ



歯ブラシは
プラスチック製日用品に

プチプチ®



プチプチ®は
再びプチプチ®に

利用方法



家庭で資源を
水洗いして乾かします!



指定ごみ袋に入れずに
資源回収ステーションへ!



開設時間内に
それぞれの回収ボックスに
入れてください!



資源出しをきっかけにして地域交流!

[みなとじま資源回収ステーションの場所・回収時間]

港島地域福祉センター

神戸市中央区港島中町2-3-3 (港島ふれあいセンター内)



13:00-16:00
(土曜・日曜・祝日休館)



※これまで通り、クリーンステーションでの「缶・びん・ペットボトル」
「容器包装プラスチック」の分別回収も継続しています。

※家庭からの資源のみ回収します。事業者 (店舗等) の方はご遠慮ください。

LINEアプリのお楽しみ機能

友だち追加して楽しんでね!

1

「MEGLOOP」を
LINEで友だち追加

「MEGURU」に利用者登録



2

資源を持ち込んだときに
二次元バーコードを
読み込んでポイントゲット!

3

ポイントをためると
画面のシロクマくんになかまが増えていくよ!





エコノバ

つきがおか
資源回収ステーション

2025 (令和7年)

7/13日 OPEN

※「エコノバ」は資源回収ステーションの愛称です。

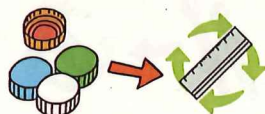
家庭から出た資源が生まれ変わるよ! ぜひ持って来てね!

豆腐容器



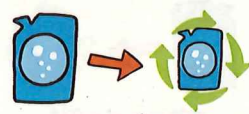
豆腐容器は
自動車部品へのリサイクルを
目指して挑戦中

ペットボトルキャップ



ペットボトルキャップは
プラスチック製日用品に

つめかえパック



つめかえパックは
新しいつめかえパックへの
リサイクルに挑戦中

歯ブラシ



歯ブラシは
プラスチック製日用品に

利用方法



家庭で資源を
水洗いして乾かします!



指定ごみ袋に入れずに
資源回収ステーションへ!



開設時間内に
それぞれの回収ボックスに
入れてください!



資源を出した後は「地域交流おしゃべりコーナー」をご利用ください!

資源出しのついでにご近所の方とおしゃべり! ネスレ日本(株)提供の無料コーヒーサービスを利用できます!

[つきがおか資源回収ステーションの場所・回収時間]

月が丘地域福祉センター

神戸市西区月が丘5-1-12



9:00-13:00
(定休日なし)



※これまで通り、クリーンステーションでの「缶・びん・ペットボトル」
「容器包装プラスチック」の分別回収も継続しています。

※家庭からの資源のみ回収します。事業者(店舗等)の方はご遠慮ください。

LINEアプリのお楽しみ機能

友だち追加して楽しんでね!

1

「MEGLOOP」を
LINEで友だち追加

「MEGURU」に利用者登録



2

資源を持ち込んだときに
二次元バーコードを
読み込んでポイントゲット!

3

ポイントをためると
画面のシロクマくんになかまが増えていくよ!





エコノバ

こづかやま
資源回収ステーション

2025 (令和7年)

7/19土 OPEN

※「エコノバ」は資源回収ステーションの愛称です。

家庭から出た資源が生まれ変わるよ! ぜひ持って来てね!

ペットボトル



ペットボトルは
再びペットボトルに

ペットボトルキャップ



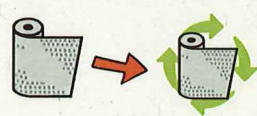
ペットボトルキャップは
プラスチック製日用品に

歯ブラシ



歯ブラシは
プラスチック製日用品に

プチプチ[®]



プチプチ[®]は
再びプチプチ[®]に

利用方法



家庭で資源を
水洗いして乾かします!



指定ごみ袋に入れずに
資源回収ステーションへ!



開設時間内に
それぞれの回収ボックスに
入れてください!



資源を出した後は「地域交流おしゃべりコーナー」をご利用ください!

資源出しのついでにご近所の方とおしゃべり! ネスレ日本(株)提供の無料コーヒーサービスを利用できます!

[こづかやま資源回収ステーションの場所・回収時間]

小束山地域福祉センター

神戸市垂水区学が丘7-1-29



9:00-17:00
(月曜・祝日休館)



※これまで通り、クリーンステーションでの「缶・びん・ペットボトル」

「容器包装プラスチック」の分別回収も継続しています。

※家庭からの資源のみ回収します。事業者(店舗等)の方はご遠慮ください。

LINEアプリのお楽しみ機能

友だち追加して楽しんでね!

1

「MEGLOOP」を
LINEで友だち追加

「MEGURU」に利用者登録



2

資源を持ち込んだときに
二次元バーコードを
読み込んでポイントゲット!

3

ポイントをためると
画面のシロクマくん
になかまが増えていくよ!



夏休み限定企画！ クリーンセンター見学×好日山荘防災講座

環境局では、海・山・川など、神戸の豊かな自然環境を活かした野外活動中心のイベントや、ワークショップなどの教室型のイベント、市内のクリーンセンターで施設見学と環境学習を組み合わせたプログラムなど、小学生と大人と一緒に学べる環境学習講座として「こうべエコちゃれゼミ」を開催しています。

夏休み限定企画として、「迫力ある機械が盛りだくさんのクリーンセンター見学」と「楽しく学ぶ！災害時にも役立つアウトドアグッズを使った好日山荘の防災講座」を一度に体験できるイベントを開催します。ぜひご参加ください。



1. 開催日時・場所

- 2025 年 7 月 24 日（木曜） 9 時 30 分～11 時 30 分 東クリーンセンター
7 月 31 日（木曜） 9 時 30 分～11 時 30 分 港島クリーンセンター
8 月 20 日（水曜） 13 時 30 分～15 時 30 分 西クリーンセンター
8 月 21 日（木曜） 9 時 30 分～11 時 30 分 港島クリーンセンター

2. 会場へのアクセス

・ 港島クリーンセンター

住所：中央区港島 9 丁目 12 番 1

アクセス：ポートライナー「計算科学センター駅」より東へ徒歩 24 分

・ 西クリーンセンター

住所：西区伊川谷町井吹字三番園

アクセス：神姫バス「永井谷」より南へ徒歩 5 分

・ 東クリーンセンター

住所：東灘区魚崎浜町 1 番地 7

アクセス：阪神電鉄「魚崎駅」より南東へ徒歩 15 分

3. プログラム

- ・クリーンセンターの見学（約1時間）
- ・株式会社好日山荘による防災講座
泥水ろ過体験（実際に泥水を作ってもらい、携帯浄水器で浄水する体験）
登山用品の防災活用（災害時に役立つアウトドアグッズの紹介）
- ・ワークショップの振り返り

4. 講師

株式会社好日山荘

5. 対象・定員

神戸市内在住・在学の小学生とその保護者 各回 50 名（要事前申込）

6. 参加費

無料

7. 申込方法

- ・こうべエコちゃれゼミのホームページから申込み（募集人数を超えた場合は抽選）
<https://www.city.kobe.lg.jp/a36643/kurashi/recycle/education/kobeekocharezemi.html>
- ・受付期間
7月開催分：6月30日（月曜）10時00分～7月18日（金曜）17時00分
8月開催分：6月30日（月曜）10時00分～8月13日（水曜）17時00分

8. お問い合わせ先

株式会社ベイエリア

電話：078-265-6080（受付時間 平日 10時00分～17時00分）

メール：kobe.cc.kengaku@bayarea.jp

9. 主催

神戸市

10. 関連資料

- ・イベントチラシ

クリーンセンター見学



神戸市内
在住または在学
小学生と
その保護者
対象

好日山荘 防災講座

ごみ処理場たんけん&どろ水ろ過にチャレンジ！
アウトドアグッズでそなえる、ぼうさい体験！



3つのクリーンセンターで各日開催します！

2025

募集期間 6/30(月)~7/18(金)

申込フォーム
二次元コード

7/24(木) 9:30
▽
11:30 東クリーンセンター



31(木) 9:30
▽
11:30 港島クリーンセンター



募集期間 6/30(月)~8/13(水)

申込フォーム
二次元コード

8/20(水) 13:30
▽
15:30 西クリーンセンター



21(木) 9:30
▽
11:30 港島クリーンセンター



東クリーンセンター



東灘区魚崎浜町1番地7



読み取り
で地図が
開きます。

港島クリーンセンター



中央区港島9丁目12番1



読み取り
で地図が
開きます。

西クリーンセンター



西区伊川谷町井吹字三番岡(くじ)
74番地の1



読み取り
で地図が
開きます。

「エコちゃれゼミ」参加には、事前申込が必要です。 各回：定員50名・事前申し込み／参加費無料

各回の二次元コードを読み取り、申し込みフォームよりお申し込みください。お申し込みの前に、必ず注意事項をご確認いただき、申込フォームに必要事項をご記入ください。
登録のメールアドレスは、株式会社ベイエリア(@bayarea.jp)からのメールを受信できるよう、あらかじめ設定をお願いします。 ※ いただいた個人情報は適切に管理します。

- ・定員を超える場合は抽選となります。当選 / 落選についてはメールでご連絡いたします。
- ・やむを得ず、講座の内容を変更または中止する場合があります。
- その際は、事務局からの一斉メールをもってお知らせいたします。



楽しい講座がいっぱい！
こうべエコちゃれゼミ



主催

神戸市環境局

KOBE
CITY OF DESIGN

<https://www.city.kobe.lg.jp/a36643/kurashi/recycle/education/kobeekochareze.html>

お問合せ・企画・運営

株式会社 ベイエリア
担当：振角

mail:kobe.cc.kengaku@bayarea.jp

TEL:078-265-6080

平日のみ 10:00 ~ 17:00

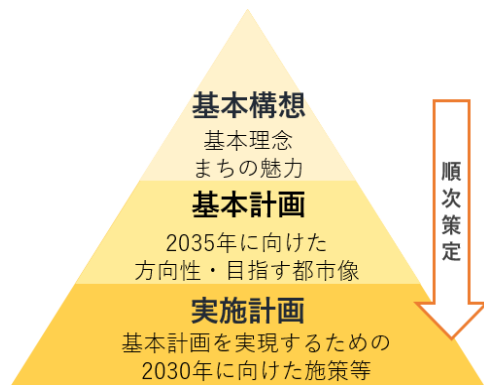
次期・神戸市総合基本計画 策定の進め方

本市の総合基本計画（「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つの計画で構成）が令和7年度末（2025年度末）に終期を迎えることから、次期総合基本計画の策定作業を進めている。

令和6年度は、最上位計画である「基本構想」について、幅広い市民・関係者から頂いた多数のご意見をもとに、審議会において議論を積み上げ、約30年ぶりに新たな基本構想を策定した。

今年度は、下位計画である「基本計画」及び「実施計画」を策定する。

1 次期総合基本計画



○基本構想（令和6年度に策定済み）

- ・いつの時代も変わることのない神戸の基本理念

○基本計画（令和7年度に策定）

- ・基本構想の実現に向けた今後10年間の方向性と目指すべき10年後の都市像を明確にする計画

○実施計画（令和7年度に策定）

- ・10年計画である基本計画を実現するための前半5年間に取り組むべき施策等を集約した計画

2 次期「基本計画」（計画期間：令和8年（2026年）度～令和17年（2035年）度）

- ・幅広い市民と意見交換・議論を行いながら、共に策定する。
- ・令和6年度に収集した市民意見を取りまとめて作成した「基本計画のたたき台」を用いて、市民・関係者と意見交換等（フォーラム、ワークショップ、オープンミーティング等）を行いながら修正を加え、審議会での議論を経て「基本計画案」を作成し、議会の議決を得て策定する。

（参考）次期「基本計画」（たたき台）～第6次 神戸市基本計画～ …参考資料のとおり

3 次期「実施計画」（計画期間：令和8年（2026年）度～令和12年（2030年）度）

- ・基本計画を実現するための施策等を集約した計画として本市で取りまとめ、適宜、有識者会議での議論、パブリックコメント、総務財政委員会での報告を経て策定する。

4 想定スケジュール

		令和7年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本計画	審議会		第1回 (5/8)			第2回 (8/5)			第3回 (10/28)		第4回 (1/15)	答申	
	市民からの意見収集		フォーラム、ワークショップ、高校・大学等の出前授業 出前講座、オープンミーティング、アンケート、はじめての市政参画							パブコメ 12月上旬～1月上旬			
実施計画	有識者会議							第1回 (10月～11月上旬)			第2回 (1月下旬)		第3回 (3月上旬)
	市民からの意見収集											パブコメ 2月上旬～3月上旬	
市会関連				【今回】総務財政委員会報告 (策定の進め方)				・総務財政委員会報告 (基本計画の素案)			・総務財政委員会報告 (実施計画の最終案)		
								・議案上程(基本計画案) ・総務財政委員会報告(実施計画の素案)					

次期「基本計画」(たたき台)

～第6次 神戸市基本計画～

神 戸 市

(目次・構成)

1 次期基本計画の策定にあたって

2 神戸市基本構想

神戸らしさと未来への方向性

3 神戸のこれまでと今

(1) 神戸の経済発展

①開港とともに発展したまち ②時代の変化に伴う産業の転換

(2) 神戸の人口推移

①これまでの人口推移 ②神戸の人口動態の特徴

③今後の人口見通し

(3) 神戸の都市開発

①これまでのまちづくり ②現在の状況

(4) 幾多の災害を乗り越えてきたまち

①災害の歴史 ②市民の誇り

(5) これまでの取り組みにより見込まれるまちの変化

①神戸空港の国際化 ②都心三宮・WFの再開発

③駅周辺のリノベーション ④森林・里山の再生

4 基本構想を実現するための方向性

⇒市民と議論して作成

基本姿勢 未来を見据えた都市の持続可能性を最重視します

方向性① 世界と繋がる2つの港 「新たな時代の国際都市」へ

方向性② 個性豊かで多様な地域の融合「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

方向性③ とともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

5 目標値 (KGI) (案)

6 10年後の神戸の都市像 (仮)

⇒市民と議論して作成

1 次期基本計画の策定にあたって

神戸市の総合基本計画である「新・神戸市基本構想（1993 年策定）」、「第 5 次神戸市基本計画（2011 年策定）」及び「神戸 2025 ビジョン（2021 年策定）」は、いずれも 2026 年 3 月に計画終期を迎えます。

全国的に人口減少や少子・高齢化が進む中、未来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくためには、市民と行政が目指すべき神戸の姿や方向性を明確化し、長期的な視点をもって、ともに運営していくことが求められます。

そのため、本市においては、新たな総合基本計画の策定を、市民の市政参画への機運醸成と、行政内部で共通の価値観を持ち、部局が連携を図りながら一貫性のある施策を展開していく契機として活用することとしました。

新たな基本構想の策定にあたっては、多くの市民から、「これから神戸が大切にし、未来に紡いでいくべきこと」について様々なご意見を頂きながら、審議会において議論を積み上げ、いつの時代でも変わることのない神戸の“基本理念”として取りまとめました。

基本構想の下位となる新たな基本計画については、神戸のこれまでの歴史や現状、多様化・複雑化する社会課題を踏まえながら、基本構想の実現に向けた方向性と、その先にある 2035 年の神戸の姿について、多くの市民や関係者とともに議論を行い、今後の 10 年間の指針として策定しました。

2 神戸市基本構想

神戸は、海と山に囲まれた美しいみなとまちです。開港以来、海外との交流を重ね文化や流行を日本に生みだしてきました。神戸は、多彩な表情を見せるまちです。都会と里山の共存。洗練されたまち並みと下町の活気。まちに溶け込む坂道も。毎日違う風景を見せてくれます。神戸は、人間らしい。あたたかみのあるまちです。ともに困難を乗り越えていく絆。多様性があふれる開かれた気風。いつでも神戸は。すべてのひとをやさしく包み込みます。これまで神戸には多くのものが受け継がれてきました。これからも神戸は。世代や立場を超えた繋がりの中で。広く内外に貢献し。未来に向けて進んでいきます。培ってきた技術と知の集積により。時代を彩る産業とひとが育つまちへ。世界を臨む海や空からひとが集い。新たな価値の創造を実現するまちへ。誰もがひとに寄り添い、助け合いながら。それぞれの夢に挑戦できるまちへ。豊かな自然とひとの営みが織りなす。一人ひとりが幸せを感じられるまちへ。神戸は、いつまでもまちの誇りを育み。次代に紡いでいきます。

神戸市基本構想の前段には、神戸の歴史や都市のなりたちに触れながら、「海と山に囲まれた美しいみなとまち」、「多彩な表情を見せるまち」、「人間らしいあたたかみのあるまち」という3つの神戸らしさが描かれています。

神戸は大都市でありながら海と山といった自然に恵まれ、古くから「進取の気風」に富む、国際色豊かな港町として発展し、新たな流行や文化を生み出してきました。人の手が入り続けることによって緑滴る山になった六甲山、茅葺民家が点在する里山、古来からの景勝地、須磨や垂水の海岸、外国風の建物が残るまち並みや、多くの人で賑わう市場、風情あふれる下町、身近にある坂道からの眺望も、先人たちが守り育ててきたものです。また、神戸は、戦災や水害、震災など多くの試練に直面する度に、まちを愛する人たちが、国籍や人種を超え、それぞれを尊重しながら支え合い、乗り越えてきました。この絆があるからこそ、神戸には多様な主体が互いに認め合い、助け合う優しさを感じることができます。

中段には、先人たちが育み、受け継がれてきたこれらの神戸らしさを、これからも守り、活かし、高めながら、世代や立場を超えたつながりの中で広く内外に貢献し続けていくことが謳われています。

そして、後段には、多くの市民の方々からいただいたご意見・メッセージが凝縮され、未来に向けて神戸のありたい姿として描かれています。「時代を彩る産業とひとが育つまち」、「新たな価値の創造を実現するまち」、「それぞれの夢に挑戦できるまち」、「一人ひとりが幸せを感じられるまち」。これらは、いずれも先人から受け継いだ神戸らしさを活かし、さらなる歩みを進めるにあたっての指針です。市民の皆様とともに作り上げた神戸のありたい姿を追い求めていくことで、まちを愛する心が生まれ、まちの誇りが育まれます。

神戸市基本構想には、このような、いつまでも、神戸らしさを磨き、まちの誇りを育み、次代に紡いでいきたいという市民の想いが込められています。

3 神戸のこれまでと今

(1) 神戸の経済発展

① 開港とともに発展したまち

神戸は、1868 年の開港をきっかけに、外国人の居住や商売が認められた居留地が設けられ、西洋風でお洒落な建築物が次々と建てられました。欧米の商社が進出し、綿花や鉄などの輸入、茶や生糸の輸出が活発となることで、日本屈指の貿易港として急成長しました。開港当初は、軽工業が中心だった貿易は、明治政府の政策のもとで重工業化が進められ、国全体の産業の近代化と重なり、造船業や製鉄業、電気機械などの重厚長大型の産業が神戸経済を大きく発展させ、神戸には優秀な人材と優れた技術力が集まりました。

明治 30 年代後半から 40 年代にかけて、西洋文化の流入とともにパンや洋菓子等の需要が高まると、西洋からパン職人の技術や製菓技術が持ち込まれ、多くのパン屋や洋菓子店が立ち並びました。また、居留地周辺では、洋服や靴の製造が盛んになり、「神戸洋服」「神戸靴」といったブランドが確立されるとともに、真珠加工やケミカルシューズなどの産業も発展し、神戸は国内でもファッションの中心地として知られるようになりました。ジャズやゴルフ等のスポーツも神戸を通じて国内に広がり、港町の神戸が持つ独特の開放的な空気は、さまざまな異文化を自然に取り込み、国内に新しいカルチャーを生み出す土壌となりました。

また、日本に訪れる外国人が増加したことで、居留地以外の北野エリアや塩屋にも異人館が建てられ、外国人が共生する街が生まれ、異国情緒あふれるハイカラでモダンな街として発展してきました。戦後の復興期には、長田区に鉄工業や靴製造業の町工場が軒を連ね、人情味あふれる下町が形成され、商店街も活気に満ち、地元の人々が集う場となりました。

現在では、市内に国際学校、多様な宗教施設、外国人クラブ、世界各国の料理が楽しめるレストランなど、グローバルな人材が安心して暮らせる生活環境が整い、世界的に有名な外資系企業が日本法人拠点を設置するなど、グローバルな人材が活躍し、また、グローバルな感性を磨いた人材が羽ばたくまちとなっています。

このように、神戸は開港をきっかけに、多くの外国人が移り住み、常に海外からの多様な文化や新しい気風を取り入れながら、国際都市・神戸として個性豊かな発展を遂げ、日本の経済や文化の成長を支えてきました。

② 時代の変化に伴う産業の転換

神戸の産業構造は、二度にわたるオイルショックや、海外の造船・鉄鋼業の台頭を踏まえ、開港以来、築いてきた重厚長大産業への偏重を脱し、時代の変化とともに転換を遂げてきました。ホテル・アパレル・真珠等のファッション産業や、異国情緒あふれる街並みや豊かな自然を活かしたコンベンション産業の推進に取り組み、ポートアイランドの完成を記念して開催された「ポートピア '81」では、1600万人もの集客を達成しました。また、既存産業の高度化や多角化を図るため、電子機器や精密工業をはじめ、震災以降、医療・バイオ産業の誘致を進めるとともに、さらなる経済活性化と競争力強化に向け、飛躍的な成長が期待されるスタートアップへの投資をはじめ、成長企業や優秀な人材の誘致にも力を入れてきました。

その結果、京都、大阪の経済圏と隣接しながらも、神戸単独で地域経済循環率は100%超を維持し、独自の経済圏を形成してきました。今後、東京一極集中が進む中においても、神戸の経済圏を引き続き維持・成長させていくとともに、伝統産業・観光を中心とする京都や、ビジネス・金融を中心とする大阪と連携を図り、経済的シナジーを生み出すことで、関西を東京と並ぶ経済圏へと成長させていく一翼を担っていく視点も重要です。

(2) 神戸の人口推移

① これまでの人口推移

第二次世界大戦後、日本は復興とともに第一次ベビーブームを迎え、出生率の急上昇とともに人口が増加しました。さらに、1960年代から高度経済成長期を迎え、地方から都市部への人口集中が活発化し、本市でも1992年には人口が150万人に到達しました。1995年の阪神・淡路大震災では、戦後初の人口減をもたらし、一時は人口が142万人まで減少しましたが、震災の復興が進むにつれ、人口は回復し、2004年には震災前の人口を超えました。

しかしながら、日本全体で、女性の社会進出等に伴う晩婚化や未婚化、医療技術の発達による寿命の延伸により、少子高齢化が進展し、2008年の1億2,808万人をピークに人口減少が始まり、本市においても同様の傾向によって2011年の154万人をピークに人口減少が続いています。

② 神戸の人口動態の特徴

市内には高等教育機関が充実しており、全国各地から学生が集まることから、18歳から23歳の若年層においては転入超過の傾向がみられます。特に、県内の他都市や近畿圏内からの転入が多く、神戸市の学術・研究環境の充実が影響していることが要因と考えられます。しかしながら、就職期を迎える23歳以降では転出超過の傾向が顕著で、特に東京圏への人口流出が大きく、これらが市内の労働力人口の減少にもつながっており、地域経済への影響が懸念されています。一方で、40代～60代の中老年層では転入超過が見られます。神戸市の都市機能や交通アクセスの良さ等を求めて、西日本や兵庫県西部からの転入者が多く、特に、西区や垂水区では周辺都市からの転入者が多い傾向にあります。

③ 今後の人口見通し

2024年の日本の出生数は約72万人と、9年連続で過去最少が続いており、近い将来、東京圏でも人口が減少に転じ、日本全体で人口減少がさらに加速していくことが見込まれ、経済や暮らしに大きな影響を及ぼすことが予想されます。

2024年時点で約7,000万人だった労働力人口は、2050年には6,300万人程度まで減少すると予測されており、企業の生産性低下や経済成長の鈍化が懸念されます。特に介護分野では2050年に120万人を超える介護人材不足が見込まれています。

これらに対応するためには、AI、自動化技術の導入など、新たなテクノロジーの活用も含めて、持続可能性の視点が重要です。

(3) 神戸の都市開発

① これまでのまちづくり

神戸市の都市の発展は鉄道の敷設とともに進んできました。神戸は、六甲山系が聳える地形特性から、明治・大正時代に平坦な海側に鉄道が敷かれ、沿線を中心に都市が発展してきました。戦後、日本全体では都市部への人口流入が加速し、神戸市も例外ではありませんでした。特に高度経済成長期には、工業化の進展とともに人口が急増し、住宅地の拡大が求められました。しかし、神戸市は海と山に挟まれた地形のため、平地の面積が限られており、六甲山の山麓部にまで開発が進むこととなりました。この結果、無秩序な開発が進み、環境破壊や土砂災害のリスクが高まるなどの問題が発生し、人口の受け皿確保が喫緊の課題となりました。こうした状況を受け、六甲山系北側に大規模ニュータウンを開発するため、交通インフラの整備が進められました。市営地下鉄の開通や神戸電鉄の延伸により、郊外から都心へのアクセスが向上し、居住環境が大きく改善され、西神や北区の沿線にも人口が広がってきました。当時、山を切り開き、その土砂を用いて臨海部を埋め立て、広大な宅地と産業団地を確保してきた神戸方式の開発手法が、「山、海へ行く」と言われる神戸特有のまちづくりです。

② 現在の状況

現在、全国的な人口減少に伴い、ニュータウンのオールドタウン化や、空き家・空き地の増加等による都市のスポンジ化が全国共通の課題となっています。神戸市では、これまで計画的に開発されたニュータウンにおいて、広い道路や公園が整備され、住みやすい環境を提供してきましたが、開発から一定年数が経過し、住民の高齢化や若年層の流出、住宅や公共施設の老朽化が顕著になっています。また、六甲山の山麓部では、過去の乱開発された住宅が空き家となって放置され、景観や環境面での悪影響が懸念されています。さらに、ポートアイランドや六甲アイランドにおいても、オフィスや商業施設の空室率が上昇し、都市機能の維持が課題となっています。これらは、過去の都市開発や地理的背景と密接に関係しており、神戸特有の様相を見せています。

(4) 幾多の災害を乗り越えてきたまち

① 災害の歴史

神戸市は六甲山系の急峻な地形と瀬戸内海に面した立地のため、過去に何度も水害に見舞われてきました。特に 1938 年の阪神大水害では、集中豪雨により河川が氾濫し、市街地が壊滅的な被害を受けました。この災害を契機に、六甲山系の砂防工事が進められ、現在では 500 基以上の砂防ダムが整備されています。

第二次世界大戦中、神戸市は空襲による甚大な被害を受けました。特に、1945 年の神戸大空襲では、市街地の約 6 割が焼失し、人口は約 38 万人まで減少しました。しかし、戦後の復興計画により、都市の再建が進められ、神戸は再び国際貿易都市としての地位を確立しました。

1995 年の阪神・淡路大震災は、日本で初めての近代的な大都市における直下型地震であり、神戸に未曾有の被害をもたらしました。人口は震災前の約 152 万人から約 142 万人に減少し、復興に向けて厳しい財政運営を余儀なくされました。しかしながら、震災後の救援活動には、震災後 5 か月を経過した時点で延べ 122 万人以上ものボランティアが全国各地はもとより世界各地から駆け付け、災害ボランティアは社会現象となり、平成 7 年は「ボランティア元年」とも呼ばれました。大幅な行財政改革に取り組むことで、財政危機からの脱却を図り、2004 年には人口が震災前の水準を上回りました。また、特に被害の大きかった地域で行われた土地区画整理や再開発事業も、2024 年 11 月に新長田南地区が完了し、すべての復興事業が終了しました。このように、神戸は様々な災害に見舞われながらも、そのたびに復興への強い意志を示し、市民が団結することで、再生を果たしてきました。

② 市民の誇り

神戸は、古くから「進取の気風」に富む、国際色豊かな港町として発展してきました。かつてはげ山だった六甲山は、多くの人々の長年にわたる植林によって、見事に再生し、現在は、災害から市民生活を守り、多くの人々に親しまれ、神戸を象徴する憩いの空間を創出しています。また、これまで戦災や水害、震災など多くの試練に直面するたびに、ともに手を携え、苦難を乗り越えてきました。このように、市民が手を取り合って、新たなことに挑戦し、様々な困難を乗り越えてきた経験こそが、神戸市民のまちを愛する気持ちの根幹であり、市民の誇りです。

震災 20 年を機に、市民によって生まれたシビックプライド・メッセージ「BE KOBE」は、まさにその象徴であり、神戸市民であることを誇りに思う気持ちや、神戸の魅力は人であるという思いが込められています。

(5) これまでの取り組みにより見込まれるまちの変化

① 神戸空港の国際化

2025 年 4 月には、国際チャーター便の運用開始や国内便の発着枠が拡大され、2030 年頃には、国際定期便の運用が開始されています。国際定期航路を持つ神戸港に加え、神戸空港が国際空港となる「第 2 の開港」により、観光やビジネスで海外から多くの人々が神戸を訪れるとともに、神戸から人材や情報のパイプが世界とつながることになります。

② 都心三宮・ウォーターフロントの再開発

神戸は戦前から鉄道沿線や駅を中心に都市開発が進められてきました。しかしながら、震災以降、復旧・復興が最優先となり、都市開発によるまちの魅力向上は手付かずの状態が続きました。震災から 20 年が経過し、復興にも一定の目途が立ち、また、絶え間ない行財政改革によって政令市上位の財政力まで回復したことをきっかけに、駅前を便利で快適な空間にしていくため、都心・三宮再整備が始まりました。2021 年 4 月の神戸三宮阪急ビル開業を皮切りに、2022 年 7 月には新中央区総合庁舎、2023 年 4 月には東遊園地がリニューアルオープンしました。また、JR 三ノ宮駅新駅ビルや雲井通 5 丁目地区の新バスターミナルビル、三宮クロススクエア、市役所 2 号館などの整備も着実に進んでおり、2030 年頃までに三宮は劇的な変化を遂げます。さらに、ウォーターフロントでは、2021 年 10 月に神戸ポートミュージアムが開業して以降、2024 年春に神戸ポートタワーのリニューアルが完了し、2025 年 4 月にはジューライオン神戸アリーナが開業しました。今後、新港突堤西地区でのマリーナ整備、京橋船溜まりの埋立による回遊性向上、中突堤周辺エリアの再整備が進み、見違える姿を現す予定です。

③ 駅周辺のリノベーション

郊外では、戦前から先人たちが築き上げてきた鉄道網などの既存インフラを有効活用し、まちの佇まいや雰囲気印象づける「まちの顔」となる駅や駅前空間のリノベーションに取り組んできました。「名谷駅」「西神中央駅」「垂水駅」をはじめ、エリアの拠点となる駅を中心に、駅前広場のリニューアルやライトアップ、憩いの空間の創出に取り組んでおり、区役所や図書館など公共施設の再配置や商業施設のリニューアル、子育て・文化環境の充実、職住近接の取り組みなど、まちや暮らしの質を高める取り組みを進めています。今後も市内各所でのリノベーションが計画されており、民間投資の誘発と相まって、次々と新たな「まちの顔」が生まれていく予定です。

④ 森林・里山の再生

神戸は、三宮から直径 5 km 圏内に、雄大な六甲山系があり、美しい里山や田園風景が広がっています。中世時代は燃料材や肥料を確保するために、六甲山の森林伐採が繰り返され、江戸時代にはげ山となった結果、土砂災害を頻発させてきました。その後、市民の手によって植林が行われ、今では木々が生い茂り、豊かな山に再生しました。しかし、短期間に一斉に植林されたため、樹種や樹齢が偏っており、十分な世代交代ができておらず、また、生活様式の変化や、担い手不足、自然環境の管理不全等から、一部で荒廃が進むエリアも見られます。神戸の森林・里山を美しく健全な状態で次世代にも引き継いでいくため、現在、森林を適切に伐採し、伐採により発生する木材の活用までを一つのサイクルとして捉え、森林整備、木材の流通・加工や活用などに関わる様々な主体と繋がる「こうべ森と木のプラットフォーム」を立ち上げ、木材の需給のマッチング、神戸市産材の普及、森林所有者への支援、人材育成などに取り組んでおり、森林整備と木材活用の資源循環の仕組みが構築される予定です。

4 基本構想を実現するための方向性

⇒以下の内容を市民と議論して作成

今後、人口減少や東京一極集中をはじめ、神戸を取り巻く様々な課題に直面する中、先人たちが築いてきた「神戸らしさ」を守り育てながら、いつまでもまちの誇りを未来へ引き継いでいきます。その実現に向けた、今後 10 年間の「基本姿勢」と「3つの方向性」を以下の通り、取りまとめました。

【基本姿勢】 未来を見据えた都市の持続可能性を最重視します

今後 10 年間、神戸だけでなく、東京をはじめ全国の都市で人口が減少し、さらに加速していくことが見込まれます。この時代の流れを冷静に捉え、短期的効果ではなく、長期的な視点に立ち、持続可能な都市を実現することで、まちの誇りを育み、次代に引き継いでいくことを基本姿勢とします。

方向性① 世界と繋がる 2つの港 「新たな時代の国際都市」へ

神戸は、古くから外国との交流によって、多様な文化や気風を取り入れることで、まちを発展させてきました。空港の国際化によって、神戸は、さらに世界に開かれたまちになります。国内外から多様な人材や技術、文化を取り入れ、神戸の強みと融合を図ることで、人やまち、しごとの魅力を大きく成長させ、いつまでも「海と山に囲まれた美しいみなとまち」を守り育てていきます。

国内外から集まる多様な人材や企業と、市内の大学や企業、行政等が組織を超えてつながり、イノベーションを創出することで、独立した経済圏を支える「ものづくり」、「港湾」、「観光」、「医療・バイオ」等の既存産業の発展、新たな成長産業の創出を加速させ、東京一極集中が進む中においても、関西圏ひいては日本全体の経済成長をリードしていきます。

また、海と山が織りなす美しい風景や都心・ウォーターフロント再開発との相乗効果を活かした魅力発信を強化することで、これまで培ってきたグローバル人材の受入機能や輩出機能を強化し、グローバル市場における神戸の存在感を高めていきます。

方向性② 個性豊かで多様な地域の融合 「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

神戸の地理的特性や歴史の中で形作られた個性豊かなまちなみや、豊かな自然は、神戸ならではの魅力です。今後、全国的に人口減少が進む中でも、先人たちがこれまでの歴史の中で築いてきた貴重な財産を最大限に活かし、磨いていくことで、将来世代が充実したライフスタイルを送れるよう、いつまでも「多彩な表情を見せるまち」を守り育てていきます。

三宮など都心の中心部では居住機能を一定抑制しながら、商業・業務機能を集め、国内外から多くの人が集まり、買い物やアート、食事など非日常の体験や、魅力的なビジネス環境を提供する場を目指していきます。

また、既成市街地やニュータウンでは、まちの顔である駅を中心に、生活利便施設のリニューアルや、職住近接の取り組みなどにより、暮らしの質を高めます。さらに、六甲山等の森林や、農村・里山地域の豊かな自然を守りながら、郊外とニュータウンの交流を進め、郊外のライフスタイルをより魅力的なものにするとともに、多彩なまちなみをつなぐ公共交通網を維持することで、市民の満足度を高め、ひいては内外の人や社会から選ばれる都市を目指します。

方向性③ とともに乗り越え育んだ絆 「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

これまでの歴史によって培われた進取の気風や、ともに災害を乗り越えてきた絆は、神戸のまちと人に受け継がれてきました。今後、先行きが不透明な変化の激しい時代においても、誰もが寄り添って助け合い、そして、新たな挑戦を続けていくことで、いつまでも「人間らしいあたたかみのあるまち」を守り育てていきます。

神戸の未来を担う子どもたちをはじめ、性別、年齢、障害の有無、民族、国籍に関わらず多様な主体や団体が、地域の中でつながり、支え合いながら、誰もが安心して、それぞれの夢に向かって自由に挑戦できるまちを目指していきます。

また、子育て・教育環境の充実や、健康・福祉の増進、安全なすまい・住環境の提供などにより、誰もが安心して暮らせる環境をつくるとともに、新たなテクノロジーや技術を積極的に取り入れながら、次代をリードする防災力の強化や地球環境に貢献する質の高い暮らしを実現させます。さらに、それらの取り組みを世界に発信することで、震災で頂いた多くの支援に、いつまでも感謝の気持ちを忘れることなく、内外に貢献していくまちを目指します。

5 目標値 (KGI) (案)

上記の方向性について、今後の 10 年間で達成度を評価するため、以下の目標値 (KGI) を設定します。

方向性① 世界と繋がる 2 つの港 「新たな時代の国際都市」へ

新たな時代の国際都市として、神戸の経済圏を維持・成長させていくことにより、2025 年以降の地域経済循環率について、100%以上を維持する。

(参考) 他都市の地域経済循環率※

横浜市 : 80.7%、川崎市 : 85.1%、明石市 : 92.6%、芦屋市 : 55.7%、西宮市 : 73.1%

大阪市 : 142.5%、福岡市 : 105.8%

※市内総生産÷市民総所得

出典 : RESAS 地域経済分析システム <https://resas.go.jp/region-cycle-diagram/>

方向性② 個性豊かで多様な地域の融合 「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

市民一人ひとりが幸せを実感できるまちを目指すことにより、2025 年以降の人口の社会動態について、プラスを維持する。

方向性③ とともに乗り越え育んだ絆 「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

これからも神戸を愛し、誇りを持ち続けるまちを目指すことで、地域幸福度 (Well-Being) 指標※における「客観指標」の値を相対的に上昇させる。

※地域幸福度 (Well-Being) 指標

国が進めているデジタル田園都市国家構想では、「心豊かな暮らし」(Well-being) と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability) の実現に向け、地域幸福度 (Well-Being) 指標の活用が推奨されています。

この指標は、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-being)」を数値化・可視化したもので、市民アンケートによる主観指標と、オープンデータによる客観指標で構成されています。

この基本計画の目標期間のゴールとなる10年後（2035年）の神戸は、こんなまちになっているはずです。ここには、多くの市民から頂いた、10年後の神戸のありたい姿に対する沢山の想いがあふれています。

○10年後の神戸

自然も都会も、歴史も未来も、仕事も余暇も、安らぎも挑戦も・・・

～すべての望みに手が届くまち・神戸～

神戸空港や神戸港は、世界とつながる玄関口。そこには、絶えず人とモノが集まり、多様な文化と活気が行き交う。

都心には、おしゃれで心地よい雰囲気と、温かなもてなしの心が広がる。周辺には便利で快適な交通網が整い、新たな人々が次々と訪れ、活発な交流が生まれることで、まちの魅力はさらに増していく。

郊外へ足を伸ばせば、魅力的な駅を中心に、それぞれの理想のライフスタイルが形となり、ゆとりと上質な暮らしが広がる。

山から望めば、先人から受け継いだ自然豊かな農村や里山、古くからの景勝地が悠然と広がり、夜には世界に誇れる美しい夜景が街を幻想的に彩る。海に向かえば、港町の歴史と文化を感じながら、ジャズの音色に身をゆだね、贅沢な時間に包まれる。

ビジネスシーンでは、最先端のアイデアと熱意が交差し、新たな価値が次々と芽吹き、未来を切り拓く力がみなぎる。

街のいたるところで、異なる世代や多様な人々が集い、支え合い、こどもの笑顔と人の温もりがまちに安らぎをもたらす。

人々の暮らしは、たくましく築かれたまちの礎によって守られ、それぞれの環境を思いやる行動が、次世代の安心を生み出す。

そして、まちの誇りが、人々に根付く神戸を愛する心によって育まれ、次代に紡がれていく。

神戸市は、このような、海と山に象徴される自然環境や歴史とともにあり続け、人を大切にする都市として、また、震災で頂いた内外からの支援に、感謝の気持ちを忘れることなく、世代や立場を超えた繋がりの中で広く内外に貢献し、いつまでもまちの誇りを育みながら、次代に紡いでいく都市の実現を目指します。

計画改定に係る 市民・市民団体・事業所の意見結果

※第57回審議会資料

意見収集結果の概要

- 市民ワークショップ **91 名**
2024年5月～10月に計4回開催
- 市民アンケート① 環境施策について **4,358 名**
2024年10月1日～10月14日実施（神戸市ネットモニター9,976名に送付、回答率43.7%）
- 市民アンケート② ごみ施策について **4,389 名**
2024年11月15日～11月28日実施（神戸市ネットモニター10,022名に送付、回答率43.8%）
- 市民アンケート③ 神戸市の自然や生きものへの意識調査 **4,248 名**
2024年12月2日～12月15日実施（神戸市ネットモニター10,026名に送付、回答率42.8%）
- 市民団体アンケート **20 団体**
2024年10月28日～11月22日実施（45団体に送付、回答率44.4%）、3団体にヒアリング
- 事業所アンケート **79 社**
2024年10月28日～11月22日実施（219社に送付、回答率36.0%）、5社にヒアリング

市民ワークショップ^o 事前アンケート

暮らしの中で環境について意識していること、
重点を置いていること



今の神戸市の環境で良いところ



今の神戸市の環境の課題

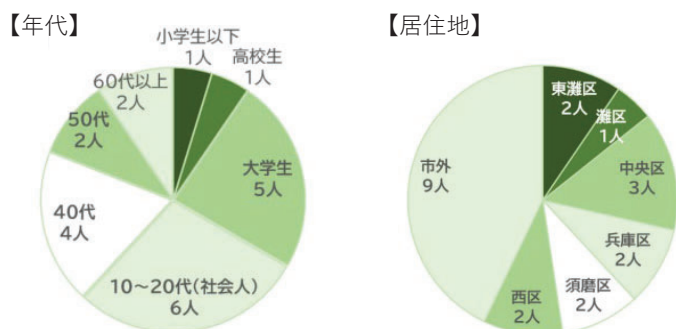


10年後の神戸市の環境をどのようにしたいか



市民ワークショップ① テーマ：ごみ

開催日：2024年6月8日（土）
場 所：東遊園地アーバンピクニック（中央区）
参加者：21名



主な意見・アイデア（抜粋）

①脱温暖化・自然環境との連携について

(キーワード：CO2削減、プラスチック、衣服、おむつ)

- ・ 街に木陰をたくさん作る。
- ・ 公共交通機関の普及・利用促進。
- ・ バイオマスプラスチックの活用。
- ・ 古着のリユースやリサイクルショップ、フリーマーケットの活用。
- ・ 繰り返し使えたり土にかえるおももの開発。
- ・ 自然に触れる機会を増やす、放置竹林や森林の管理。

②循環経済について（キーワード：ごみの減量・資源化、食ロス）

- ・ アップサイクル、リサイクルの推進。
- ・ プラスチック包装や過剰包装をやめる。
- ・ 必要なものを必要な分だけ買う。
- ・ 資源回収ステーションの拡充。
- ・ てまえどりの推進。
- ・ フードドライブやフードシェアの促進。
- ・ 節約しながら経済を回す。

③人口減少、高齢化に対応した処理体制の構築について

- ・ 綺麗な街を保って住みたい人を増やす。
- ・ 分別を分かりやすくする。
- ・ 自治会の活発化、若者と高齢者の繋がりづくり。
- ・ 高齢者にやさしいごみ収集。

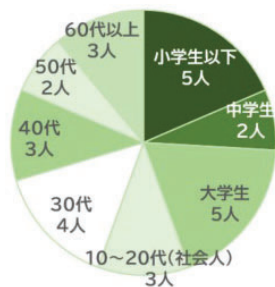
④その他ごみについて気になること

- ・ 分別が難しい。
 - ・ たばこの吸い殻のばい捨てが多い。
 - ・ 意識の高い人と低い人の差が大きい。
 - ・ 供給過剰によってごみの減量より貨幣価値が優先されている。
 - ・ 空き家とごみ。
 - ・ 災害（大雨）が起こって流れるごみ。
- 2

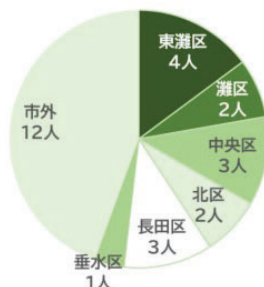
市民ワークショップ② テーマ：いきもの

開催日：2024年8月22日（土）
場 所：王子動物園ホール（灘区）
参加者：27名

【年代】



【居住地】



主な意見・アイデア（抜粋）

① 普段いきものや自然環境に触れる機会

- ・六甲山で生きもの観察
- ・メダカを飼っている
- ・セミの鳴き声を聞く
- ・川で遊ぶ
- ・散歩で山道を歩く
- ・公園で虫を採る
- ・動物園、水族館に行く
- ・農業体験

② 神戸でいきものや自然に親しみを 持つようにするために必要なこと

- ・山・海に行く機会をつくる
- ・生きもの観察会
- ・動物に触れる機会を増やす
- ・街路樹を増やす
- ・ワークショップを開催する
- ・学校の教育などで神戸の生物、自然について学ぶ機会を増やす
- ・活動を行っている団体等をもっと周知する

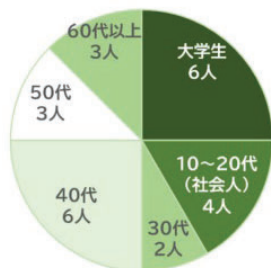
③ いきものや自然を守る育てる活動（イベント等） に多くの人が参加できるアイデア

- ・山から海までつなげたイベント
- ・王子動物園や須磨シーワールドでワークショップ
- ・絶滅危惧種を見る、触るワークショップ
- ・学校で登山授業を行い、自然を体験
- ・デパートに自然を知る一画を作る（水耕栽培）
- ・みんなで（学校等）畑・生き物を育てる
- ・予約なしで出入り自由にする
- ・参加特典（ポイント加算）

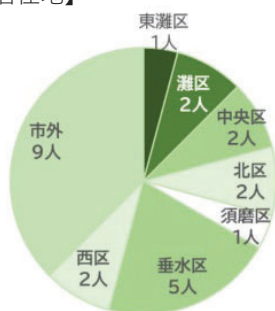
市民ワークショップ③ テーマ：地球温暖化対策

開催日：2024年9月27日（金）
場 所：KOBÉ Co Creation Center（中央区）
参加者：24名

【年代】



【居住地】



主な意見・アイデア（抜粋）

① 普段、身近に温暖化を感じる時

- ・夏の気温が年々上昇している
- ・台風が巨大化している
- ・熱中症の人が増えている
- ・エアコン代が年々上がる
- ・野菜が暑すぎて育たない
- ・虫が異常発生する
- ・六甲山でも夏暑い
- ・兵庫県でスキーができない

② 生活の中でできる脱炭素の取り組み

- ・車移動を減らす
- ・宅配便をなるべく一度で受け取る（置き配も可）
- ・環境に配慮した取り組みをする会社を応援する
- ・森林ボランティアに参加
- ・地元でとれたものを循環させる
- ・野菜を作る（自給自足）
- ・畑を町中につくる
- ・キエーロで生ごみ削減
- ・石油由来のプラスチック素材を選ばない

③ 神戸全体でできる脱炭素の取り組み

- ・ボランティアの人が活動する時の公共交通パスポート
- ・市民が取り組んで目にみえる（数値化）＝貢献感を得られるプロジェクトをする
- ・地域で資源回収イベントをおしゃれに、楽しく開催する
- ・1世帯1キエーロ
- ・森や海のことを大人も学べるツアー
- ・楽しく情報発信！まずは知ること
- ・街路樹の多い市になって木陰を作る
- ・自然が近いので自然の中で遊べる場所を増やす

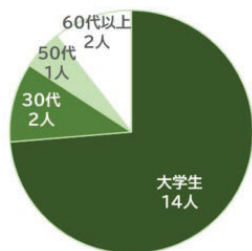
市民ワークショップ④ テーマ：環境保全・環境学習

開催日：2024年10月19日（土）

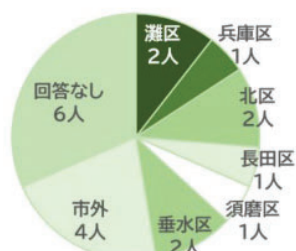
場 所：ふたば学舎（長田区）※こうべ環境博覧会『かんぱく』2024』で開催

参加者：19名

【年代】



【居住地】



主な意見・アイデア（抜粋）

①暮らしの中で「神戸の環境」について感じていること（海や川、山や森、まちなかの環境など）

- ・ 海や湖の色がきれいになった
- ・ 山や公園で竹林が広がっている
- ・ 車の音が静か
- ・ 法制定・整備が進んだ
- ・ 企業の意識が変わってきた
- ・ 繁華街はよくごみが落ちている
- ・ ハトやカラスが多い
- ・ 山の動物が街に来る

②環境にまつわる活動に参加することになった理由

- ・ 子ども達に豊かな環境を引き継いでもらいたい
- ・ 住んでいる須磨の自然を楽しみながら守りたい
- ・ 神戸の街をフィールドワークした時、ぼい捨てされたごみをたくさん目にしたから
- ・ ボランティア大好き
- ・ 祖父が口ずさぶく環境問題について言っていたから
- ・ 大学のゼミ活動

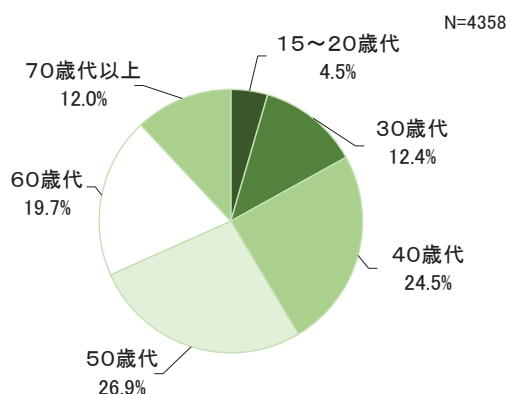
③よりたくさんの人が環境活動に参加するためのアイデア

- ・ 環境にまつわる活動を増やす期間（1週間）を設ける
- ・ お祭り、学祭みたいなイベントにする
- ・ BBQやキャンプ等のイベントで環境にまつわる活動にも参加してもらう
- ・ （イベントで）グッズやお土産をもらえるようにする
- ・ 小学校などで社会問題を取り上げた授業を増やして意識づけする
- ・ もっと人目につくところに広告を出す
- ・ SNSをもっと利用する

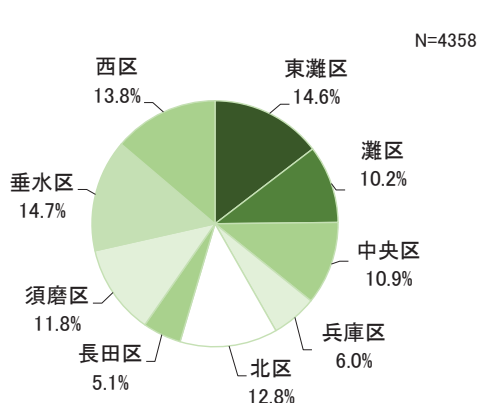
市民アンケート① 環境施策について

調査期間	2024年10月1日（火）～10月14日（月）
設問数	全6問
調査対象	神戸市ネットモニター9,976名
回答者数	4,358人（43.7%）

【年代】

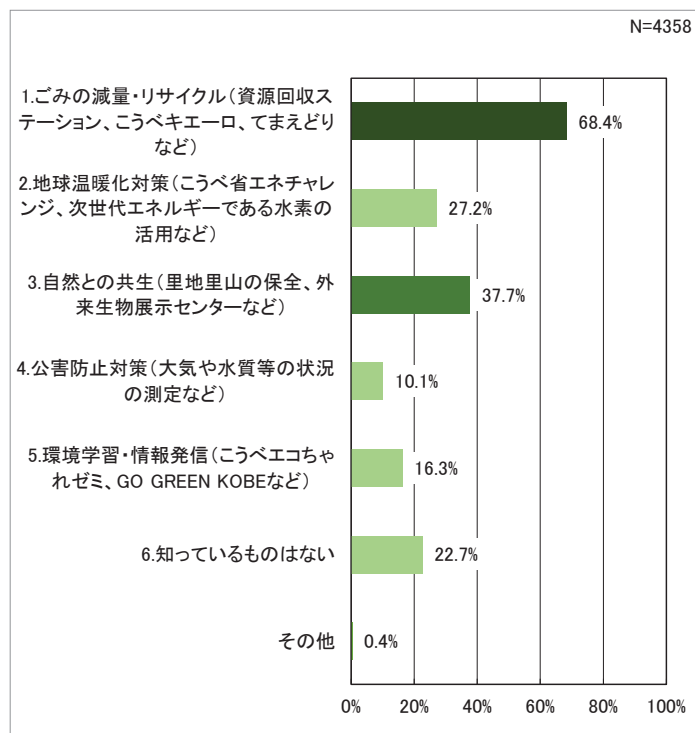


【居住地】

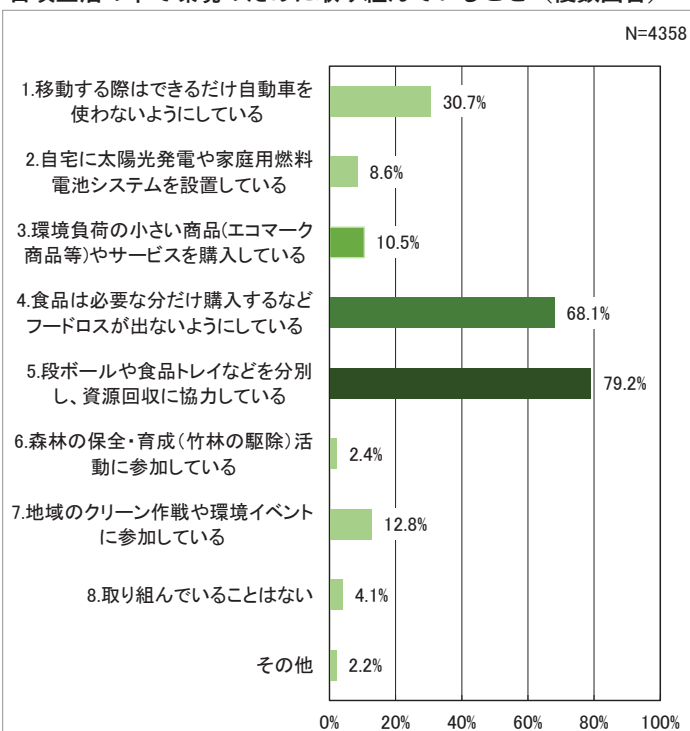


市民アンケート① 環境施策について

問1
神戸市の環境に関する取り組みで知っているもの（複数回答）

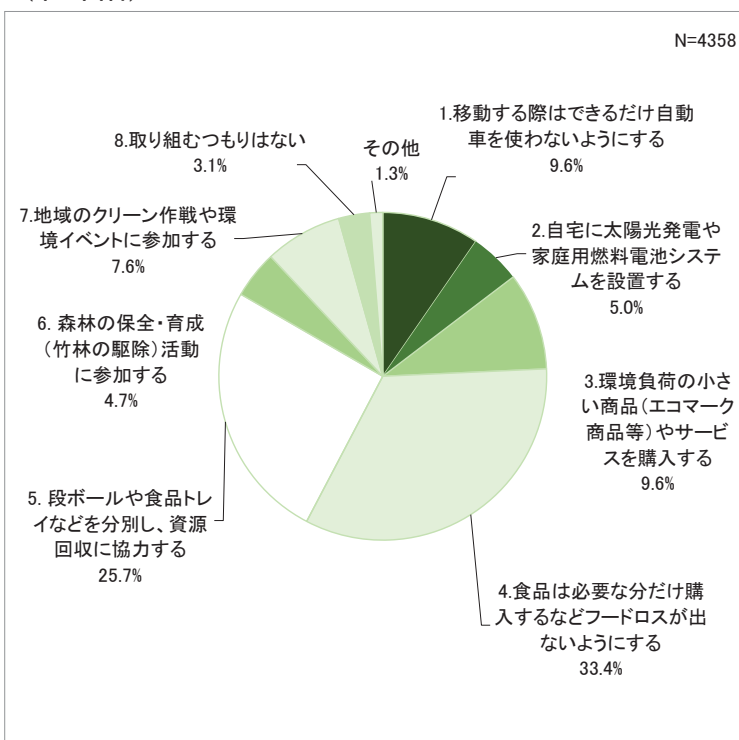


問2
日頃生活の中で環境のために取り組んでいること（複数回答）

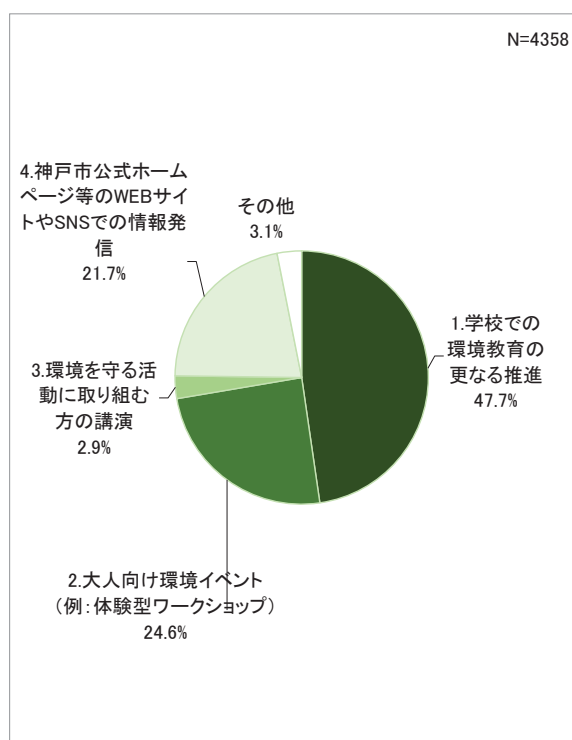


市民アンケート① 環境施策について

問3
今後、生活の中で環境のために最も取り組みたいと思うこと（単一回答）



問4
神戸市の環境を守る活動に取り組む人材を育成するために、最も必要だと思うこと（単一回答）

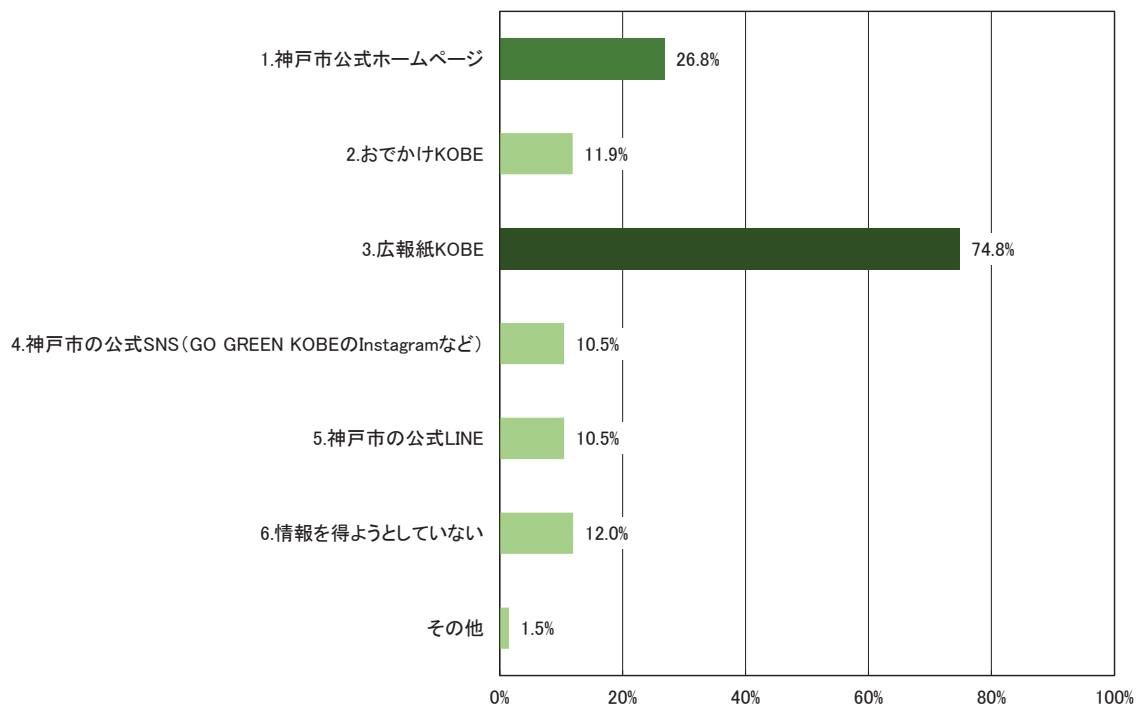


市民アンケート① 環境施策について

問 5

神戸市の環境イベントや環境問題に関する情報をどのように得ているか（複数回答）

N=4358



市民アンケート① 環境施策について

問 6

神戸市の環境における将来像や環境マスタープランについての自由意見（抜粋）

将来像に関するコメントで多かったものを抽出

1. ごみの分別とリサイクルの強化

ごみの分別収集の取組強化と結果の開示、リサイクルしやすい環境の整備

2. 教育と啓発活動の充実

学校教育や広報を通じたごみの出し方や環境教育の充実、子どもたちへの環境教育に力を入れる

3. 公共交通機関の充実

車よりも電車やバスが便利になるような政策、市営地下鉄やバスの価格を下げ路線や本数を増やす

4. 自然災害対策

環境保全と併せて地震や水害などの自然災害へも積極的に取り組む

5. 市民参加型の活動

市民参加型の清掃活動やイベントの実施、ボランティア活動の推進とインセンティブの提供

6. 緑地帯の整備

街中にオアシス的な緑地帯の整備、街路樹や公園の緑化推進

7. 再生可能エネルギーの推進

太陽光発電や風力発電の導入、新エネルギーの開発と普及

8. 環境に優しい交通手段の推進

自転車道の整備やレンタサイクルの支援、電気自動車や水素バスの普及

9. 地域特性を活かした環境保全

海や山の清掃活動の推進、地域ごとの特性を活かしたゼロカーボンの取り組み

10. 受動喫煙防止

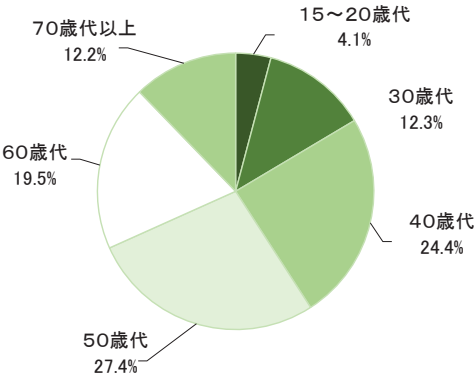
市内全域での歩きタバコ禁止、ポイ捨て防止のための取り組み

市民アンケート② ごみ施策について

調査期間	2024年11月15日（金）～ 11月28日（木）
設問数	全 7 問
調査対象	神戸市ネットモニター10,022名
回答者数	4,389人（43.8%）

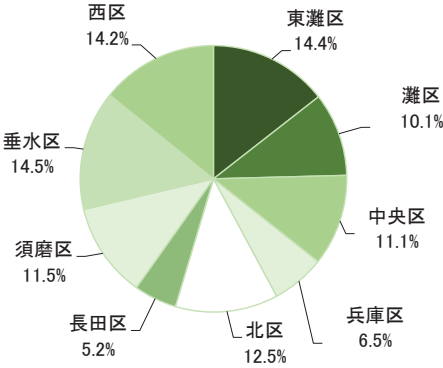
【年代】

N=4389



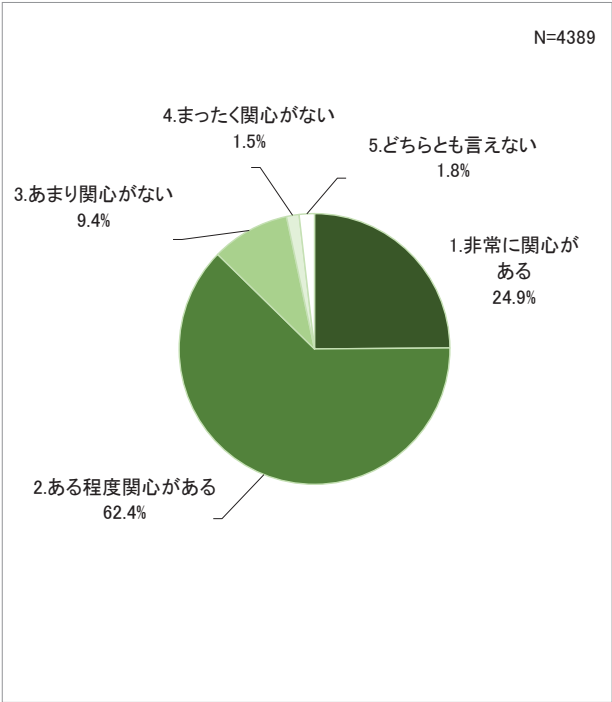
【居住地】

N=4389

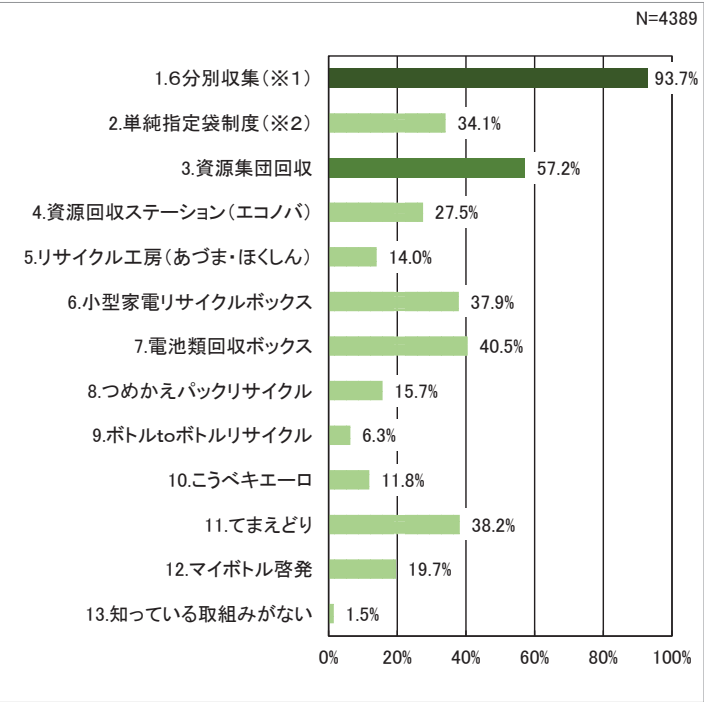


市民アンケート② ごみ施策について

問 1
ごみの減量と資源化の関心について（単一回答）



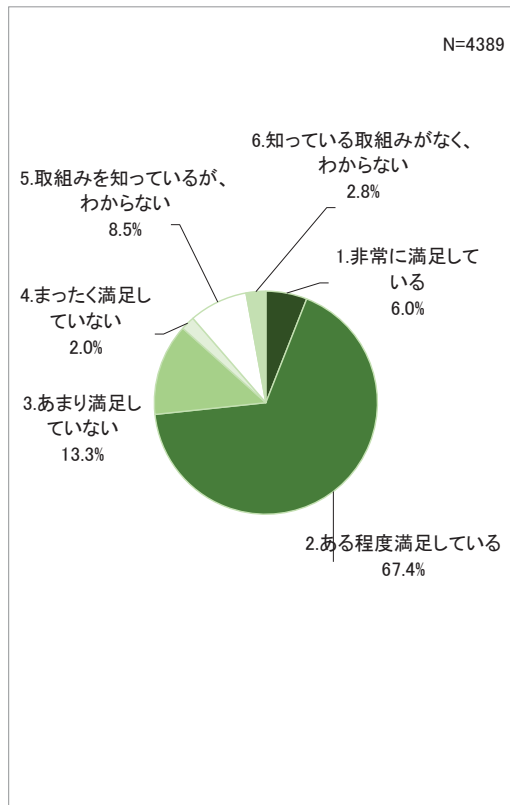
問 2
ごみの減量と資源化について市の取り組みで知っているもの（複数回答）



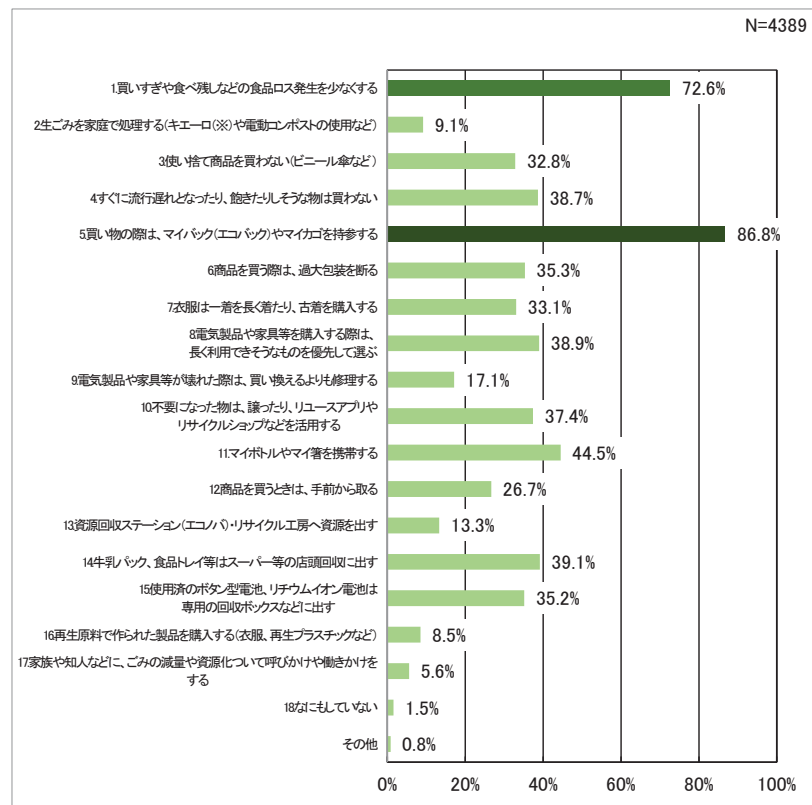
※1 燃えるごみ、燃えないごみ、大型ごみ、容器包装プラスチック、缶びんペットボトル、カセットボンベ・スプレー缶
※2 本市のごみ袋の価格には、ごみ処理費用は含まれておらず、いわゆるごみの有料化ではないこと

市民アンケート② ごみ施策について

問3
神戸市の取り組みへの満足度（単一回答）

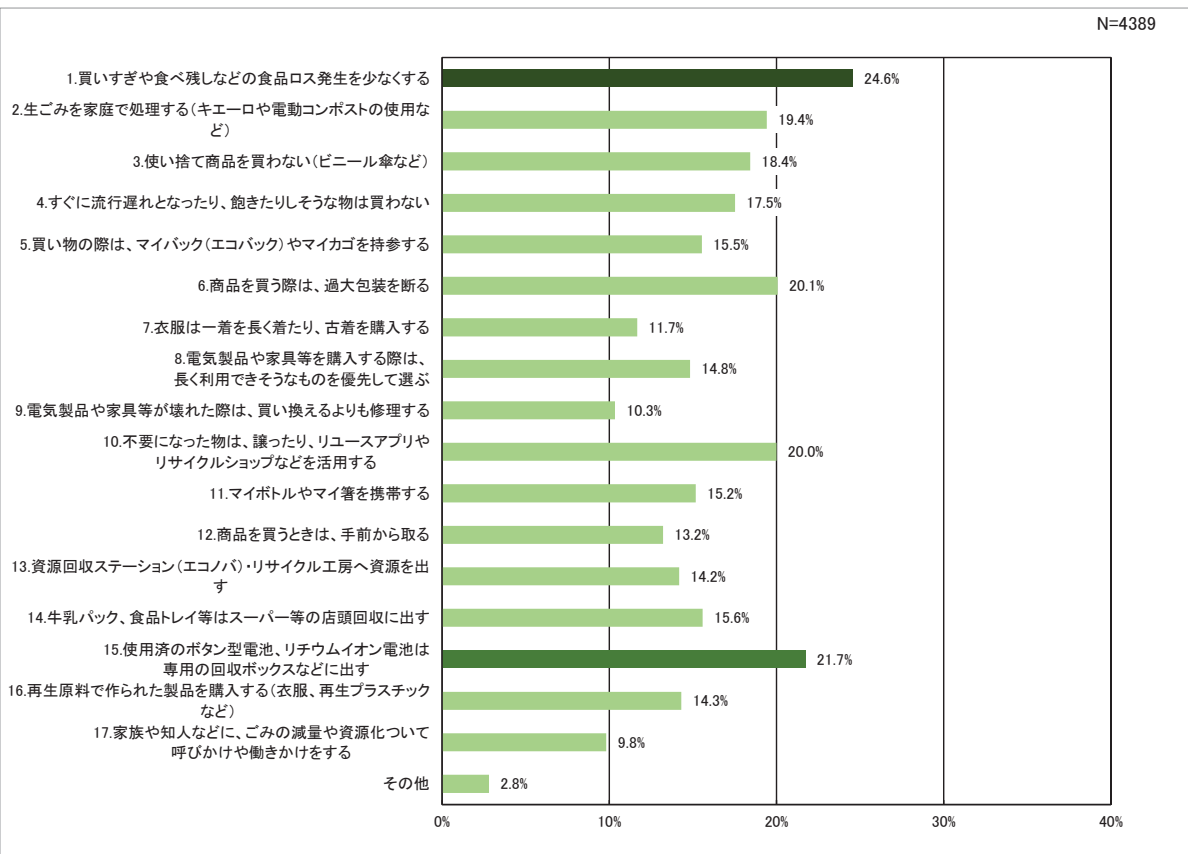


設問4
ごみの減量と資源化について、日常的に取り組んでいること（複数回答）



市民アンケート② ごみ施策について

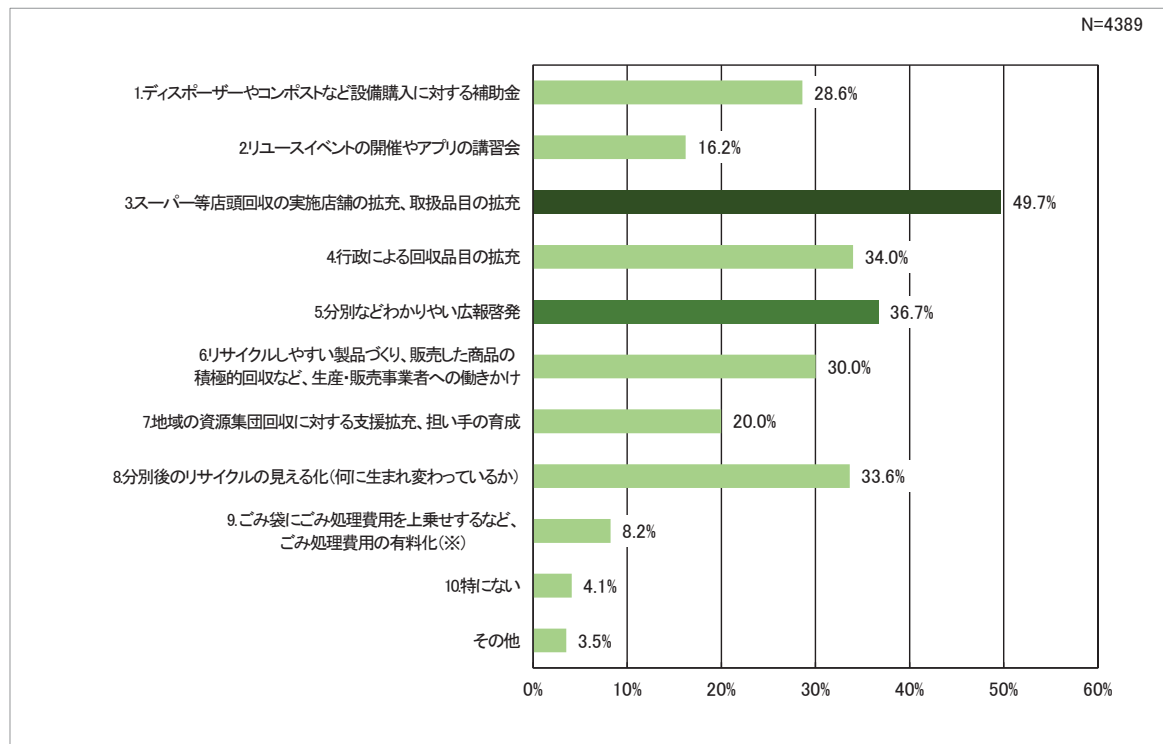
問5
ごみの減量と資源化に今後、取り組みたいと思うもの（複数回答）



市民アンケート② ごみ施策について

問 6

ごみの減量と資源化に、より一層取り組むために必要な行政の取り組み（複数回答）



(※) 神戸市の家庭ごみ袋の代金には、焼却や運搬などの処理費用は含まれていない

市民アンケート② ごみ施策について

問 7

ごみの減量と資源化等についての自由意見（抜粋）

1 回収・分別

- 捨て方が分かりにくいものが多いので、販売店には回収にも積極的に取り組んでほしい。
- 「おいくら」のように市と事業者が連携した使いやすいツールを提供してほしい。
- 資源回収ステーションやリサイクル工房はもっと身近な場所、行きやすい所を作って欲しい。
- 捨てられたベビー用品を修理、清掃し、貸出しするサービスなど、子育て支援の観点から取り組んでほしい。
- 近くのごみステーションは燃えるごみのみなので、その他のごみも同じ場所で回収してほしい。
- 何かを買うと包装プラスチックごみが発生してしまう。どうにかしなければと思うが、個人では解決が難しい。
- 神戸市も容器包装プラスチック以外のプラスチックを回収してリサイクルにまわすなどの働きかけが必要。
- ごみ袋に処理費が乗ることで分別しなくていいのならしたくないと考える自分も納得する施策があれば、ぜひ協力したい。
- 循環型社会の実現のため、ごみをコストではなく資源としてとらえ、ビジネス化していくのが望ましい。市民の意識改革も必要だが、根本的には技術的課題であり、イノベーションを促進するような行政の施策を期待。

2 ごみ袋・有料化

- 市の指定袋は色々種類があるが、袋を買おうとしても、限られた袋（リットル）しか置いていない店が増えている。特に小さな袋を置いてほしい。
- スーパーやコンビニで会計時に販売している持ち帰り袋を、市のごみ袋に使用できるようにしてほしい
- 処理費用も有料となれば、無駄なごみを出さないように気を付けるようになるかもしれない。本当に必要であるならば有料にしても構わない。

3 広報啓発

- このアンケートをきっかけに初めて知った施策がたくさんあった。周知徹底していくことも大事。
- どこまでごみが減ったのか、どれくらい金額がかかっているのか等の達成感や満足感または危機感を感じられるよう、ごみの現状をもっと詳しく知りたい。
- ごみがどうなって、どんなものに生まれ変わるのか、処理されるのかが、わかりやすく知るシステムがほしい。ごみ袋に処理費用がかかっても、次世代に繋ぐ、息の長いシステム作りが必要。

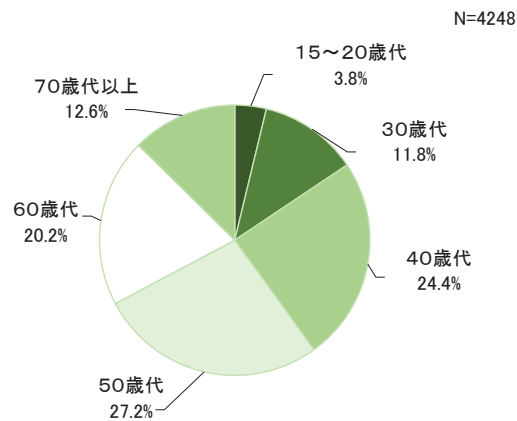
4 その他

- リサイクル・フリーマーケットなどのイベントを企画してほしい。
- 家庭内廃油の回収など、現在回収されていない物で新しく回収できるような企画を立案してほしい。

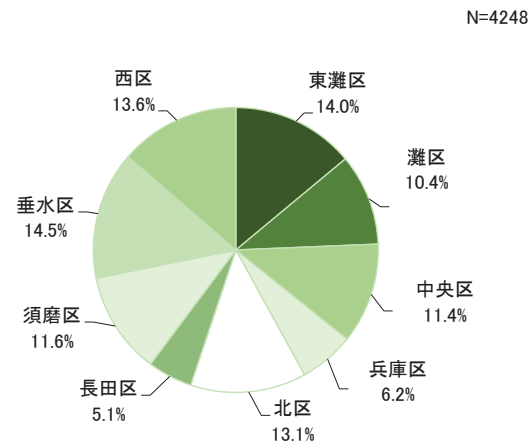
市民アンケート③ 神戸市の自然や生きものへの意識調査

調査期間	2024年11月15日（金）～ 11月28日（木）
設問数	全 8 問（分岐設問除く）
調査対象	神戸市ネットモニター10,026名
回答者数	4,248人（42.8%）

【年代】

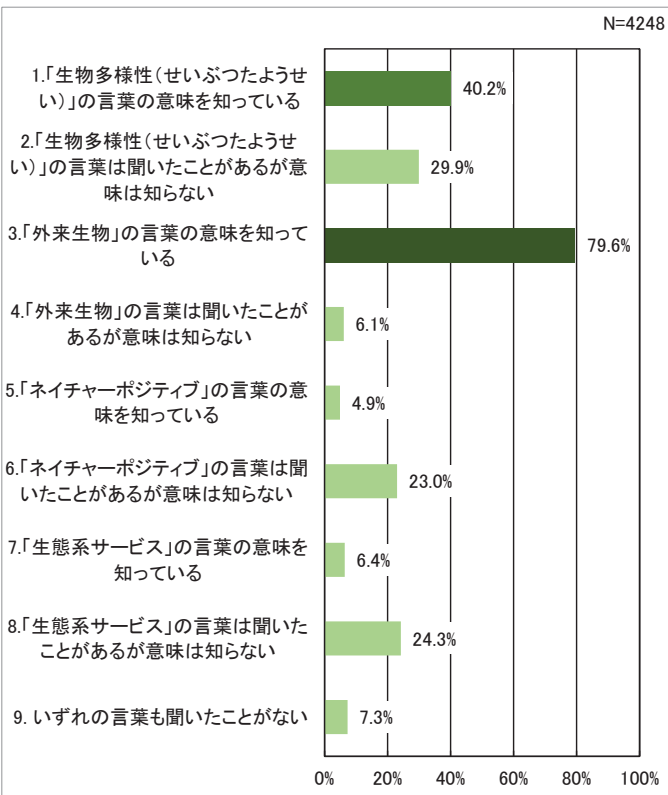


【居住地】

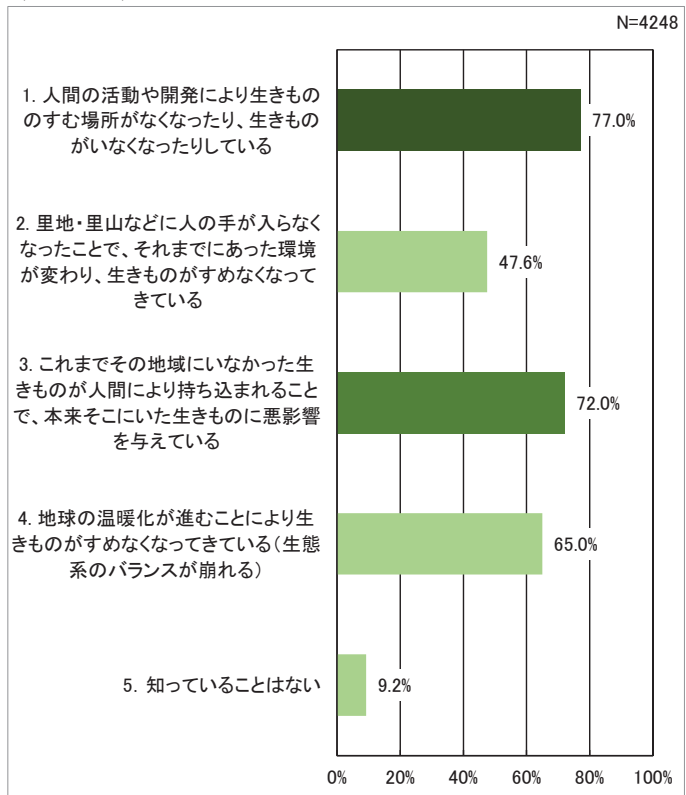


市民アンケート③ 神戸市の自然や生きものへの意識調査

問1
次の言葉を知っていますか（複数回答）



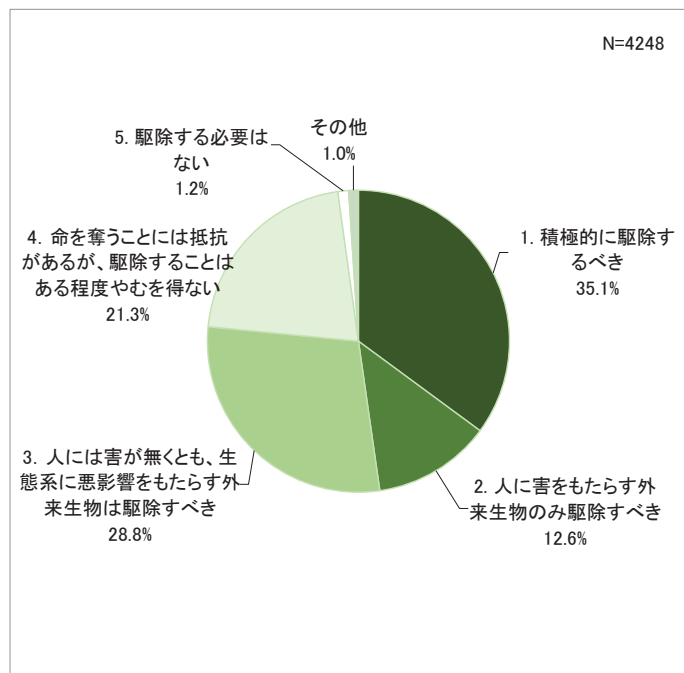
問2
生物多様性の減少原因とされていることについて知っていること（複数回答）



市民アンケート③ 神戸市の自然や生きものへの意識調査

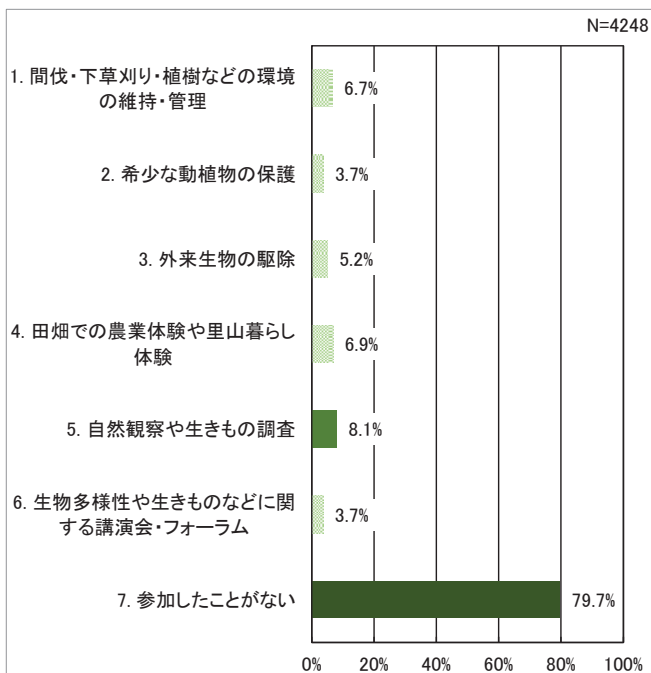
問3

神戸市は外来生物の駆除に取り組んでいます。生態系や人、農作物に被害をもたらす外来種などを駆除することについてどう思いますか（単一回答）



問4

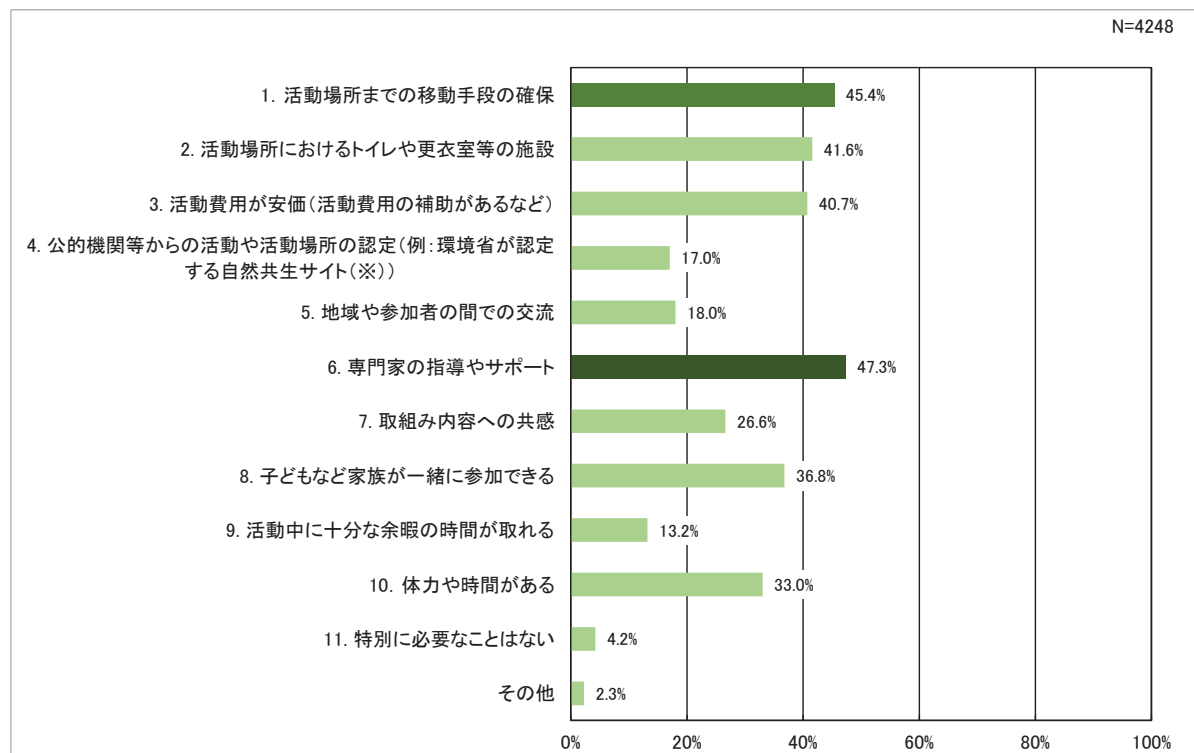
神戸市や市民団体などが企画・募集する、生きものや自然環境を対象にした保全活動またはイベントなどに参加したことがありますか（複数回答）



市民アンケート③ 神戸市の自然や生きものへの意識調査

問5

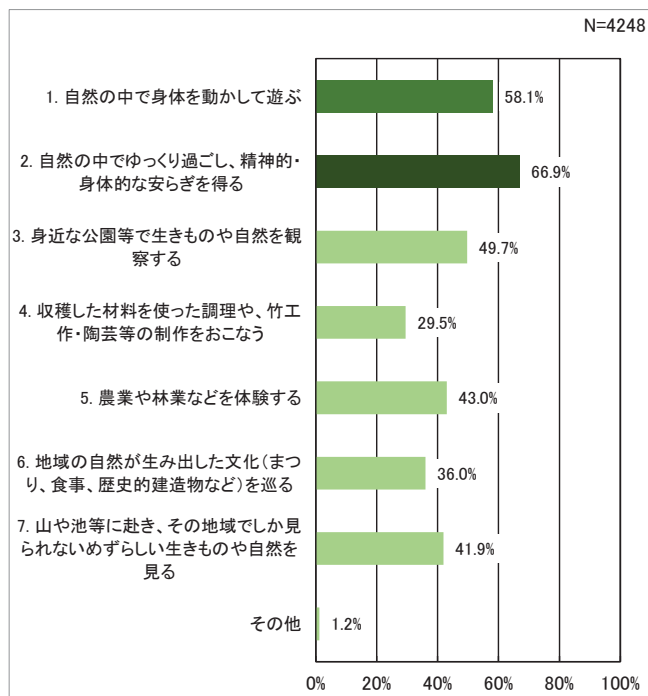
生きものや自然環境を対象にした保全活動を実施（参加）するにあたり、特に何が必要と思いますか（複数回答）



市民アンケート③ 神戸市の自然や生きものへの意識調査

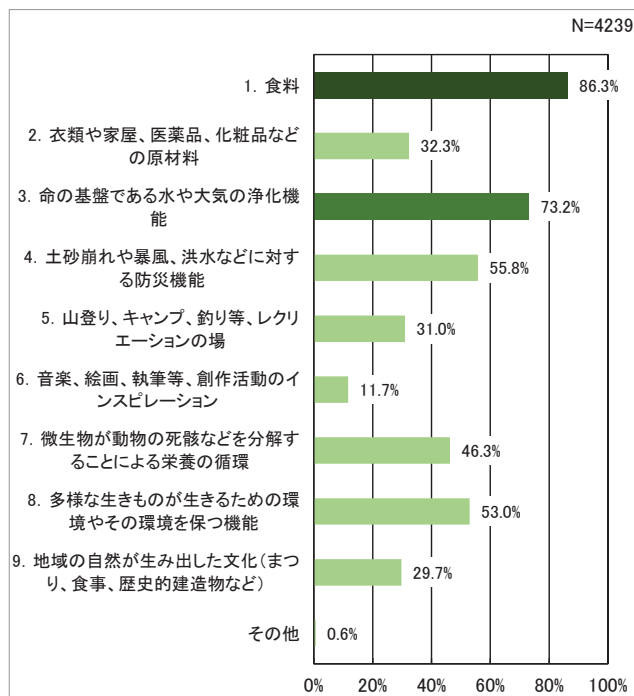
問6

あなた自身や次の世代にとってどのような自然体験が大切だと思いますか（複数回答）



問7

私たちの生活は、自然や生きものから得られるいろいろな自然のめぐみ（自然から得られる恩恵や資源など）で成り立っています。あなたが大切に思う自然のめぐみを教えてください（複数回答）



市民アンケート③ 神戸市の自然や生きものへの意識調査

問8

神戸市の生物多様性の取り組みについての自由意見（抜粋）

1. 神戸市の取り組みの認知

- 神戸市が生物多様性のために行っている活動を全く知りませんでした。
- どんな取り組みをしているのかはよく知りませんでした。
- SNSや街中の案内板などでの積極的な広報をして取り組みを知らせてほしい
- もっと広報をして欲しいです。

2. 自然保護と開発のバランス

- これ以上の開発による自然破壊を抑制してほしいです。
- ソーラーパネル設置によって壊されている自然と、居なくなる固有生物があります。
- 自然を大切にするなら、まず太陽光パネルや風力発電で今ある自然環境を破壊するのをやめるのが先決だと思います。
- 無闇に森林を切り開くようなことが、あってはならないと思います。

3. 市民参加と教育

- 市民も巻き込んで活発に実施すべき。
- 気軽に参加できるイベントや展示などがあると嬉しいです。
- 学校の授業にもっと積極的に取り入れる。
- 生物多様性について、子供達が幼稚園年長さんくらいから、義務教育終了くらいまでの期間、年齢に応じた学べるカリキュラムの整備と教育の実施検討をいただきたい。

4. 外来種の駆除と管理

- 外来種の駆除に力を入れて取り組んで貰いたいものです。
- 捕まえたらクーポンや商品券などの、達成感の味わえるものがあれば、家族みんなで参加できて楽しくできると思います。
- 外来種の命を取らなくても共存できる知恵や施設一般の方が参加しやすい外来種講義とかして欲しい。

5. 自然体験と地域活動

- 自然の中で遊ぶことができにくくなって来ているので遊びから学べることを推奨させた方が良いと思う。
- 地域で放置竹林の整備が出来ると防犯対策になるのではないのでしょうか。
- 地域で取り組めるよう、行政の積極的な助成が必要だと思います。

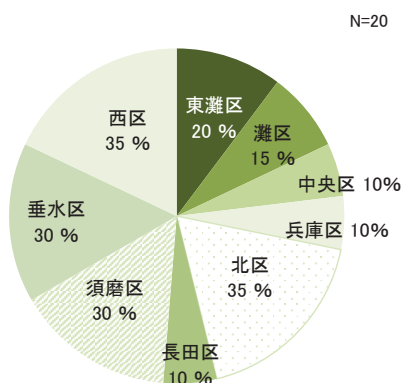
6. その他の意見

- 自然を大切にしてほしい。神鉄沿線でダム設置途中で放置されている場所が気になります。このようなことがある一方で、自然を大切に...と言われても矛盾を感じます。
- 自然を大切にするなら、まず太陽光パネルや風力発電で今ある自然環境を破壊するのをやめるのが先決だと思います。
- 外来種の魚を釣ったら引き受けてくれるお店が協力店として有り、協力店も釣った人もメリットがあるような仕組み。目的は釣った外来種をリリースしないこと。
- 外来生物のクビアカツヤカミキリの駆除のために、地域の住民を巻き込んで協働作業をどんどん推進して欲しいです。

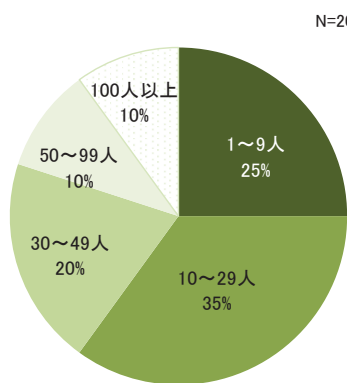
市民団体アンケート

調査期間	2024年10月28日（月）～ 11月22日（金）
設問数	全10問
調査対象	市内で環境活動を行っている45団体
回答数	20団体（44.4%）

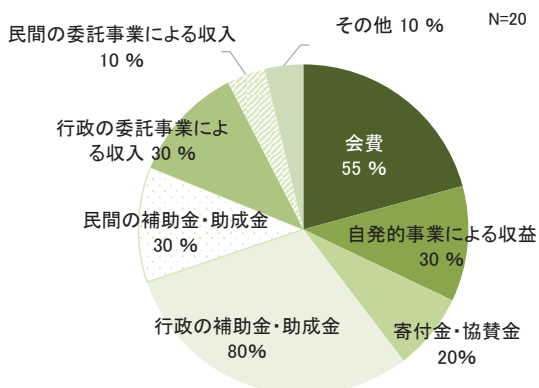
【主な活動エリア】



【会員数】

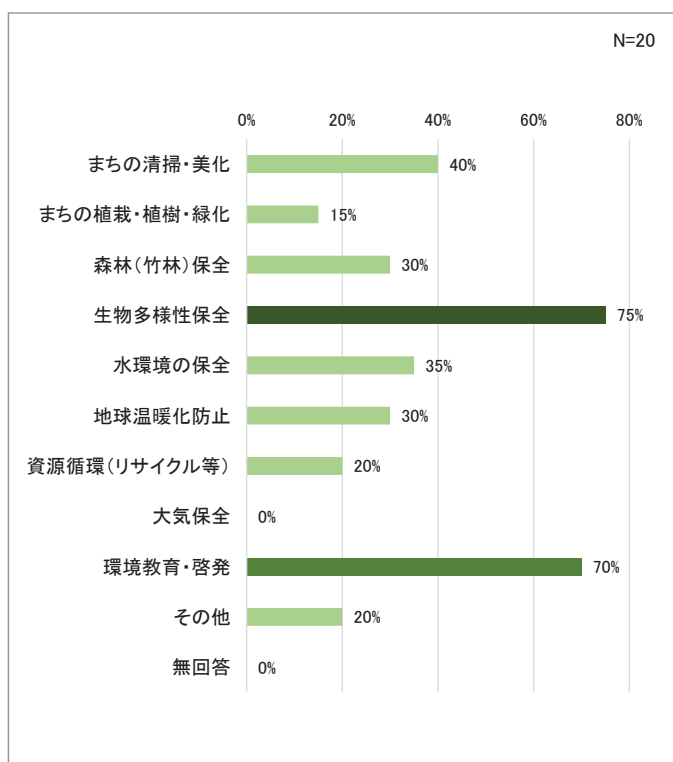


【主な活動資金】

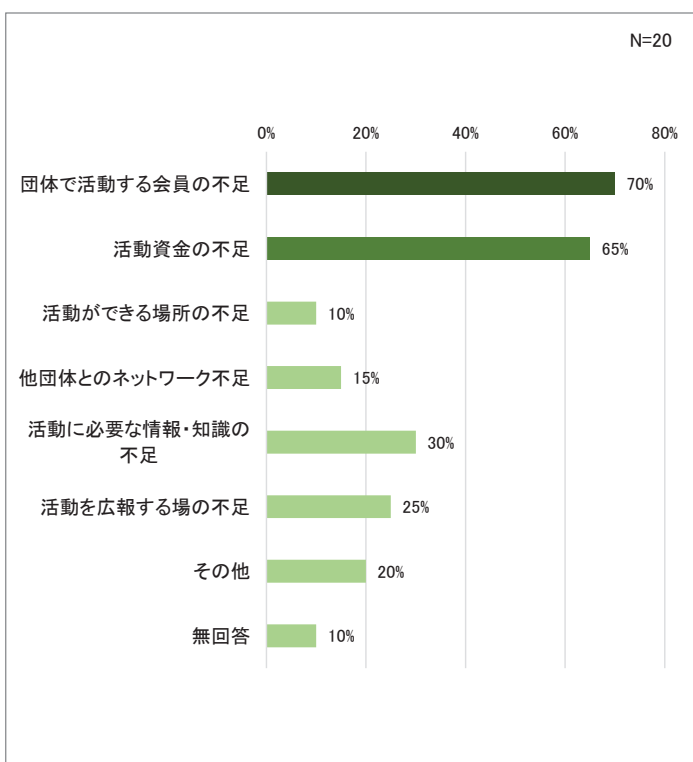


市民団体アンケート

問1
団体の活動内容（複数回答）

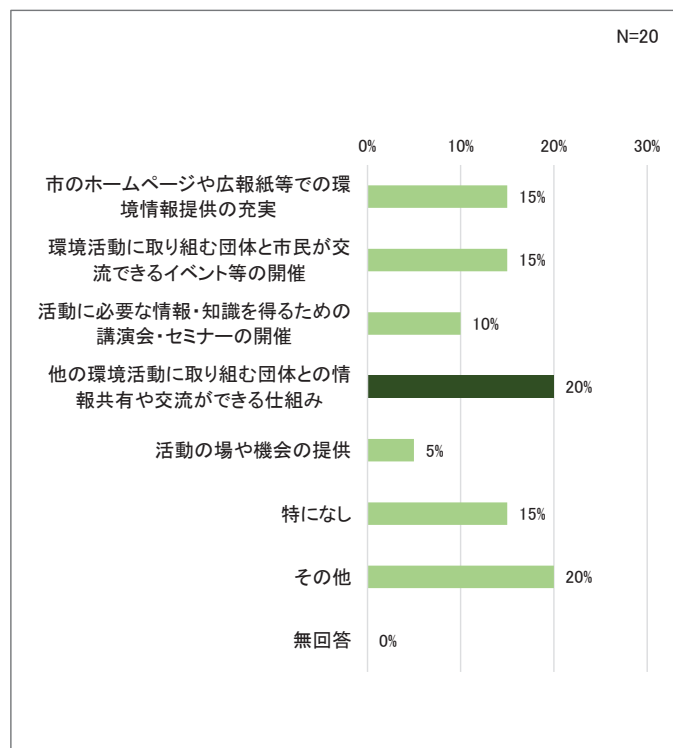


問2
活動における課題（複数回答）

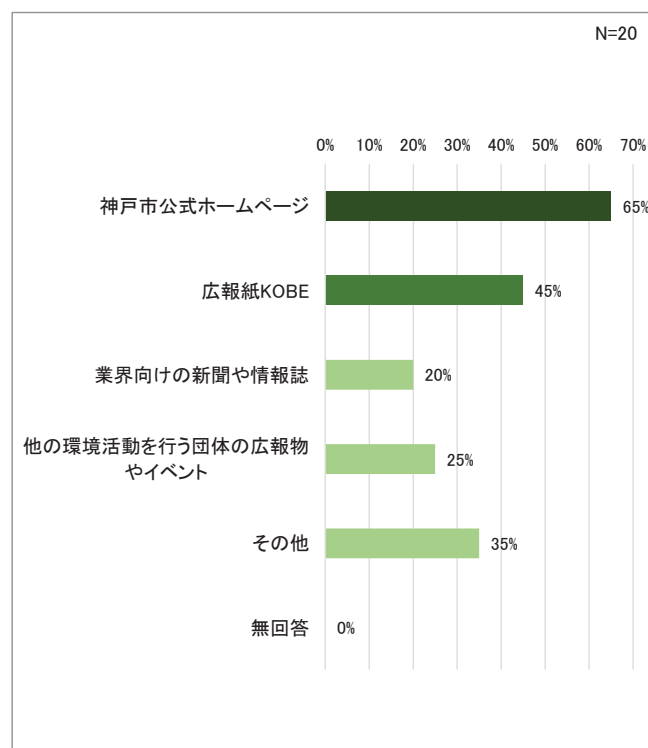


市民団体アンケート

問3 活動に取り組む中で市に求めるもの（単一回答）



問4 環境に関する情報や知識を入手するツール（複数回答）



市民団体アンケート

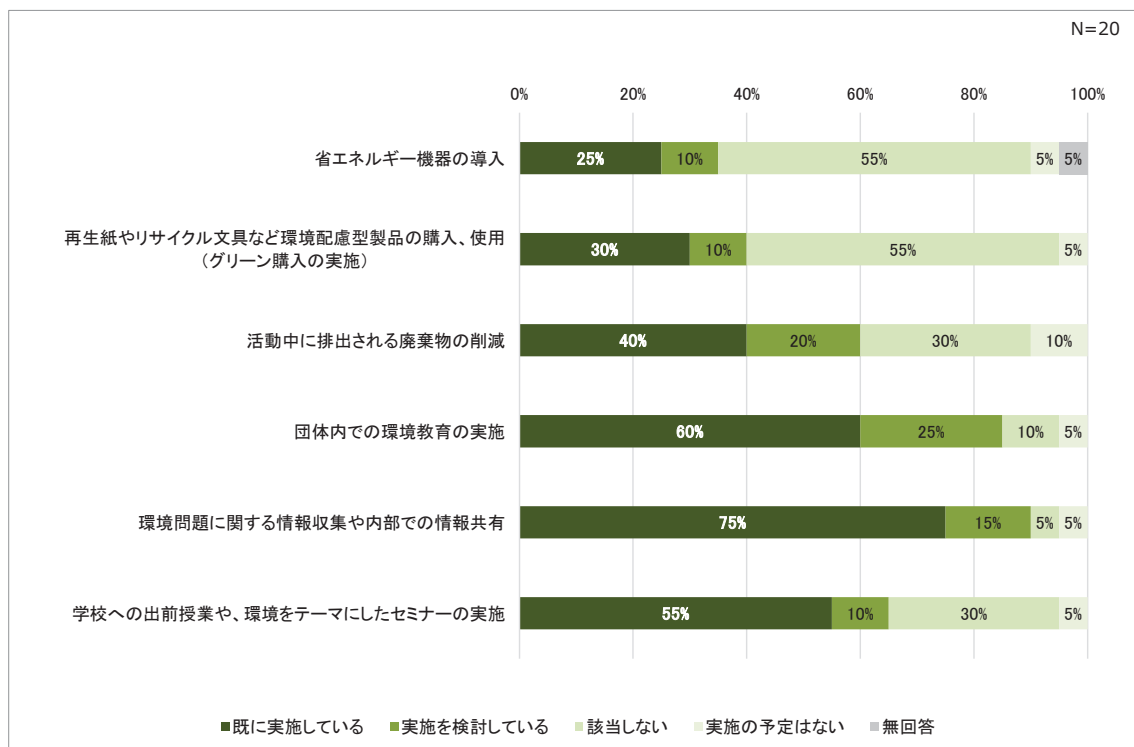
問5 今後の団体活動の中で取り組みたい内容（自由記述）

分類	自由回答（主なものを抜粋）
再エネ	・ PPAモデルを活用し、自家消費型太陽光発電の普及支援 ・ 六甲川水車新田小水力発電所の森内でのグリーンウッドワーク開催 ・ ゼロカーボン事業（事業者ではなく家庭で行える活動）。子育て世代にも普及して、子ども達にも理解してもらえる取り組み。
環境保全	・ ごみ拾い探鳥会 ・ 池で生息する生き物の調査および渡り鳥の調査 ・ ため池等貴重な水辺環境の保全・活用、次世代を担う子ども達の育成を目指した活動 等
環境学習	・ 地元小学校への環境学習支援の拡大 ・ 地域住民の意識向上、啓発活動の充実 ・ 市民の方々に対して団体の活動を周知する活動
その他	・ 活動に関わる仲間作りのための講座、広報活動 ・ 現在取り組んでいる活動の成果を得ることが最優先 ・ ごみについて

市民団体アンケート

問 6

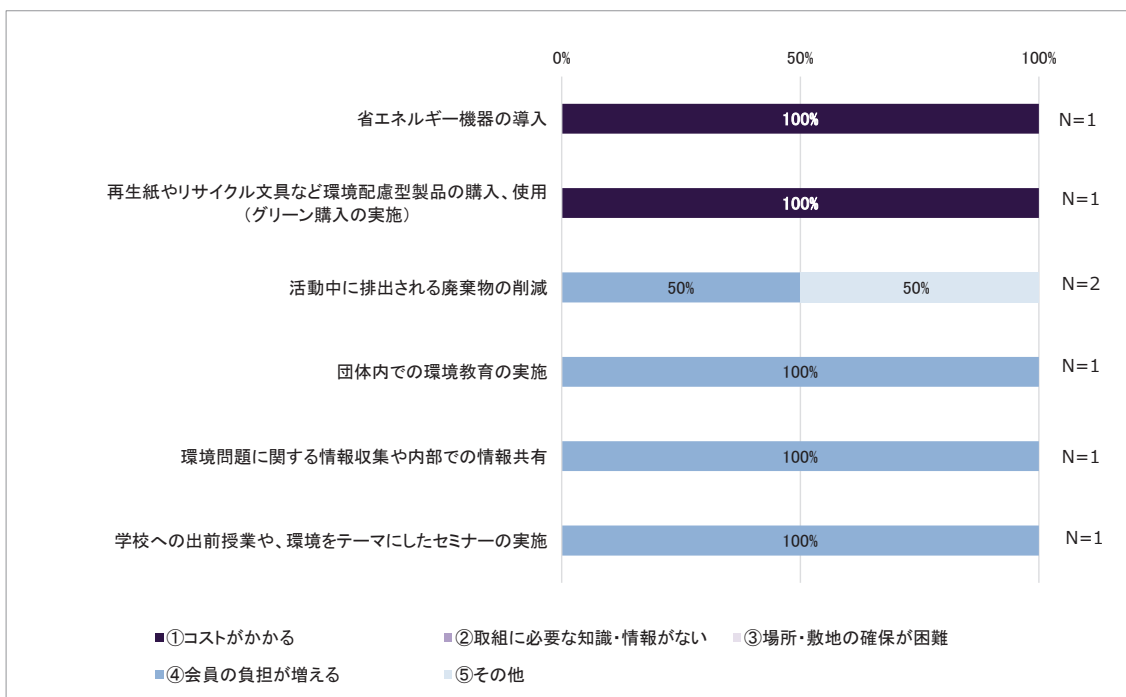
環境に配慮した取り組みの実施状況（単一回答）



市民団体アンケート

問 6

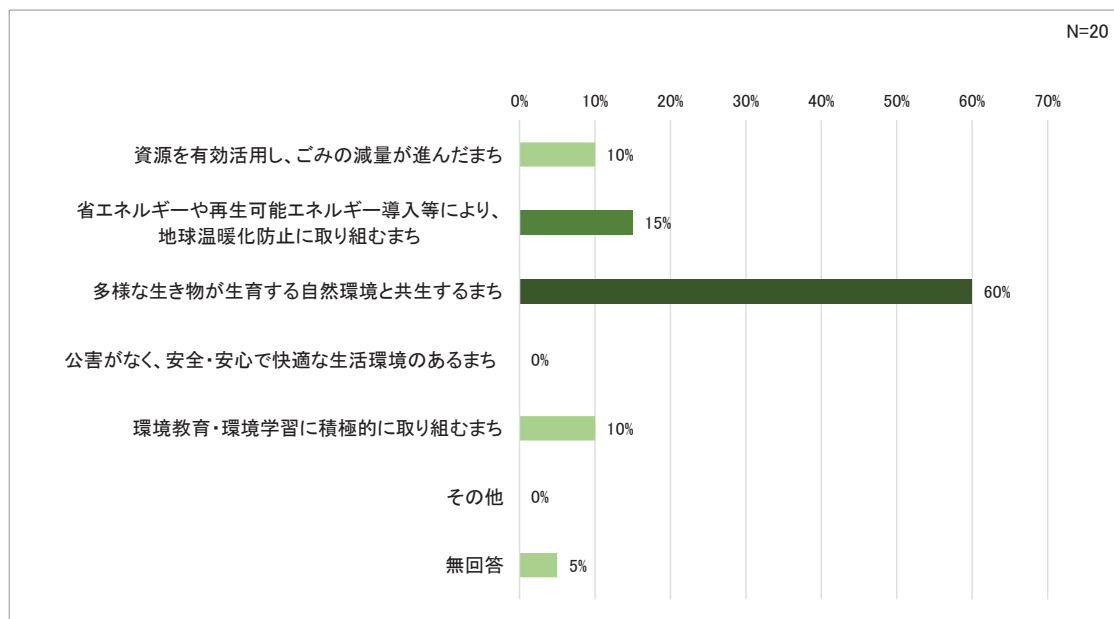
環境に配慮した取り組みの実施状況のうち、実施の予定がない理由（複数回答）



市民団体アンケート

問7

望ましいと思う将来の都市像（単一回答）



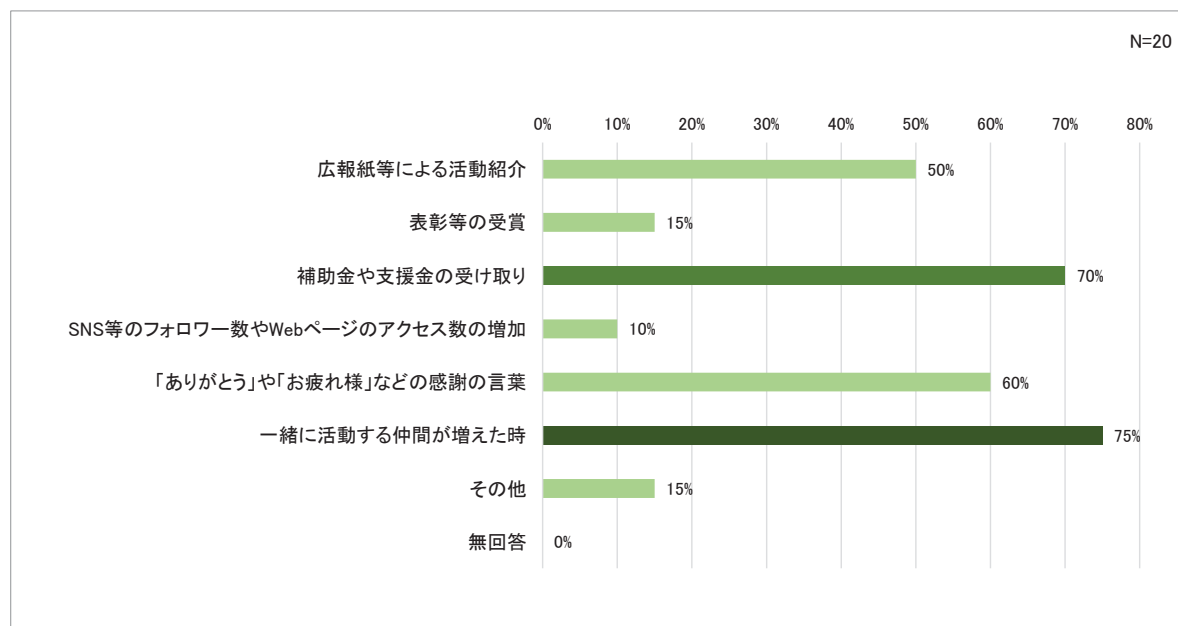
都市像の実現に向け、各団体が貢献できる事業・取り組み



市民団体アンケート

問8

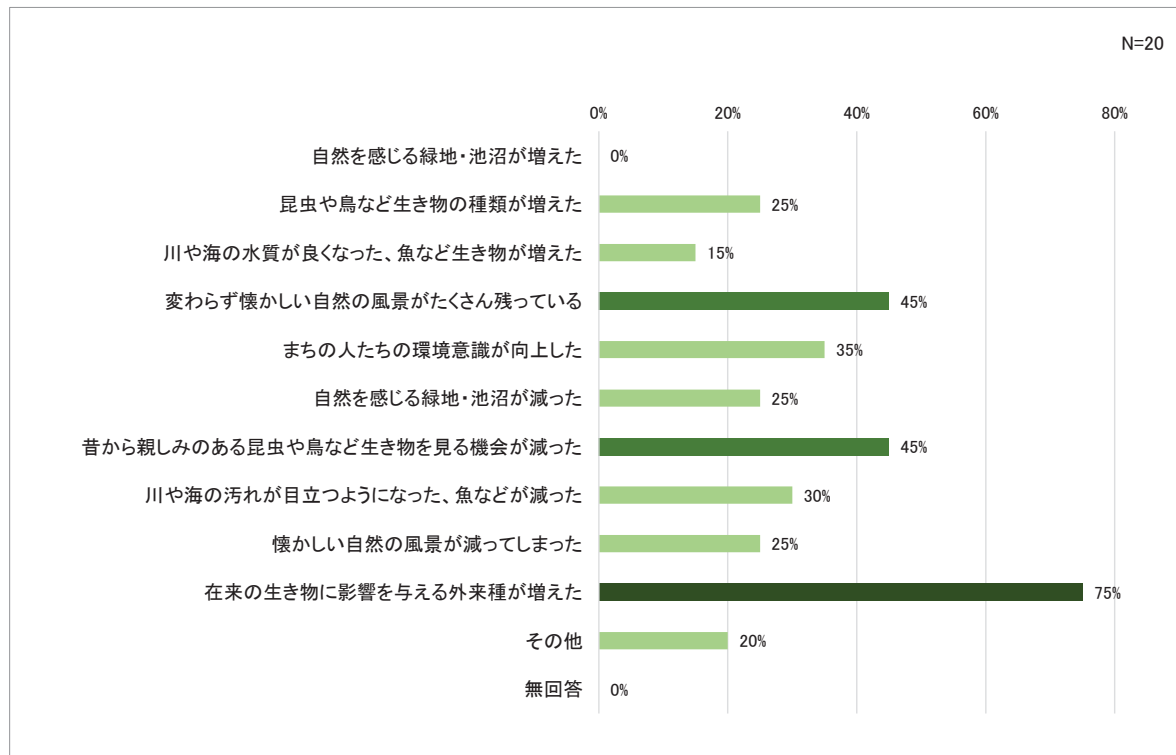
モチベーション（やる気）を上げるきっかけ（3つ回答）



市民団体アンケート

問9

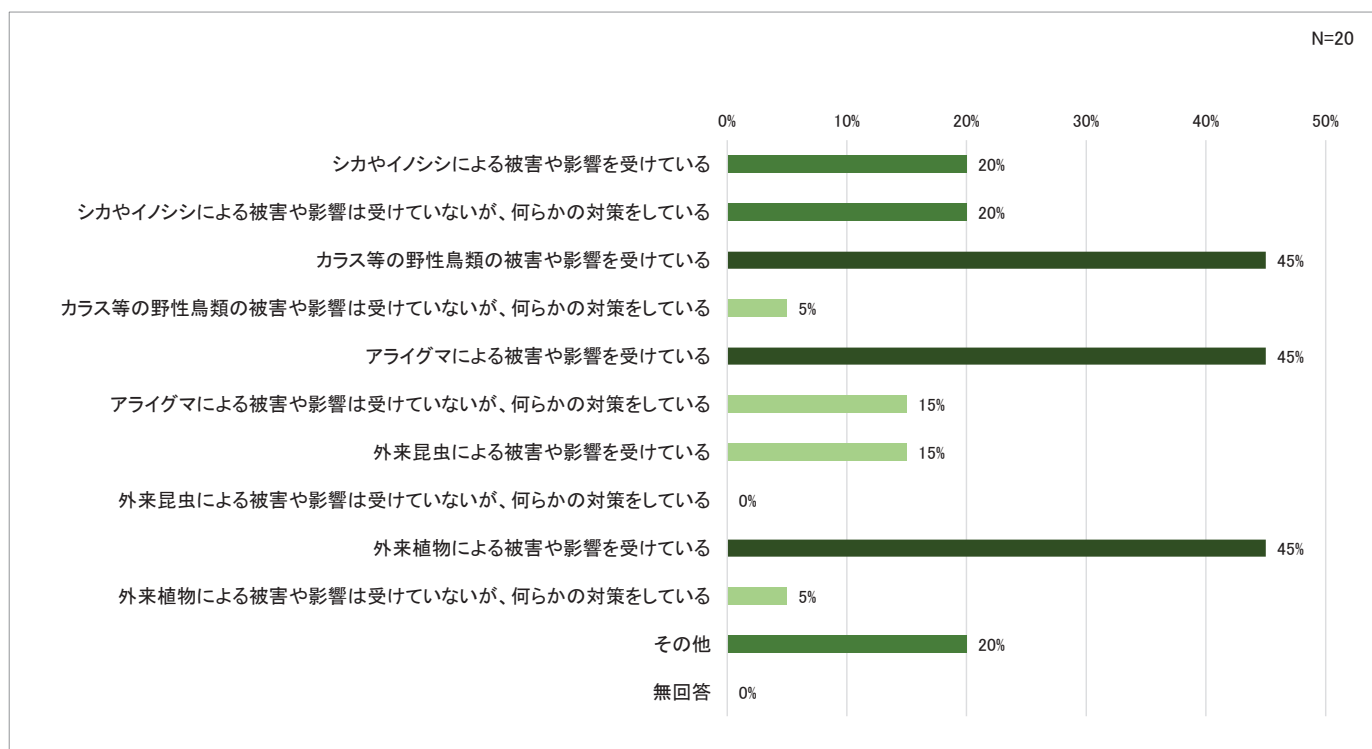
活動中に、自然環境や生き物の多様性などについて変化を感じる（複数回答）



市民団体アンケート

問10

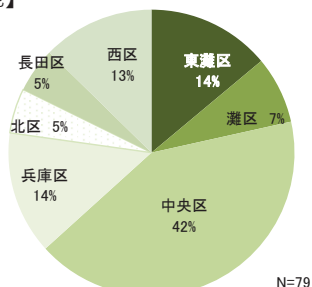
活動地における、外来生物や野生鳥獣による被害や影響（複数回答）



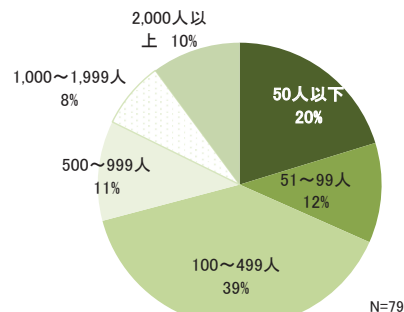
事業所アンケート

調査期間	2024年10月28日（月）～ 11月22日（金）
設問数	①環境全般について：5 問 ②事業系ごみについて：7 問 ③生物多様性について：3 問
調査対象	市内の事業所219社
回答数	79社（36.0%）

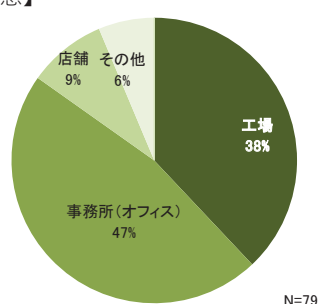
【所在地】



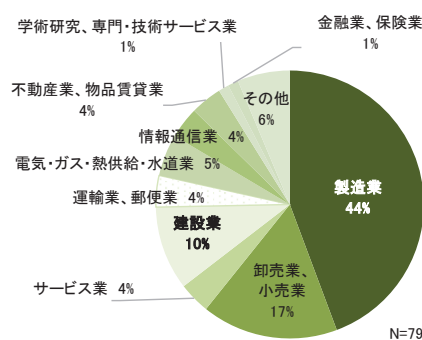
【従業員数】



【事業形態】

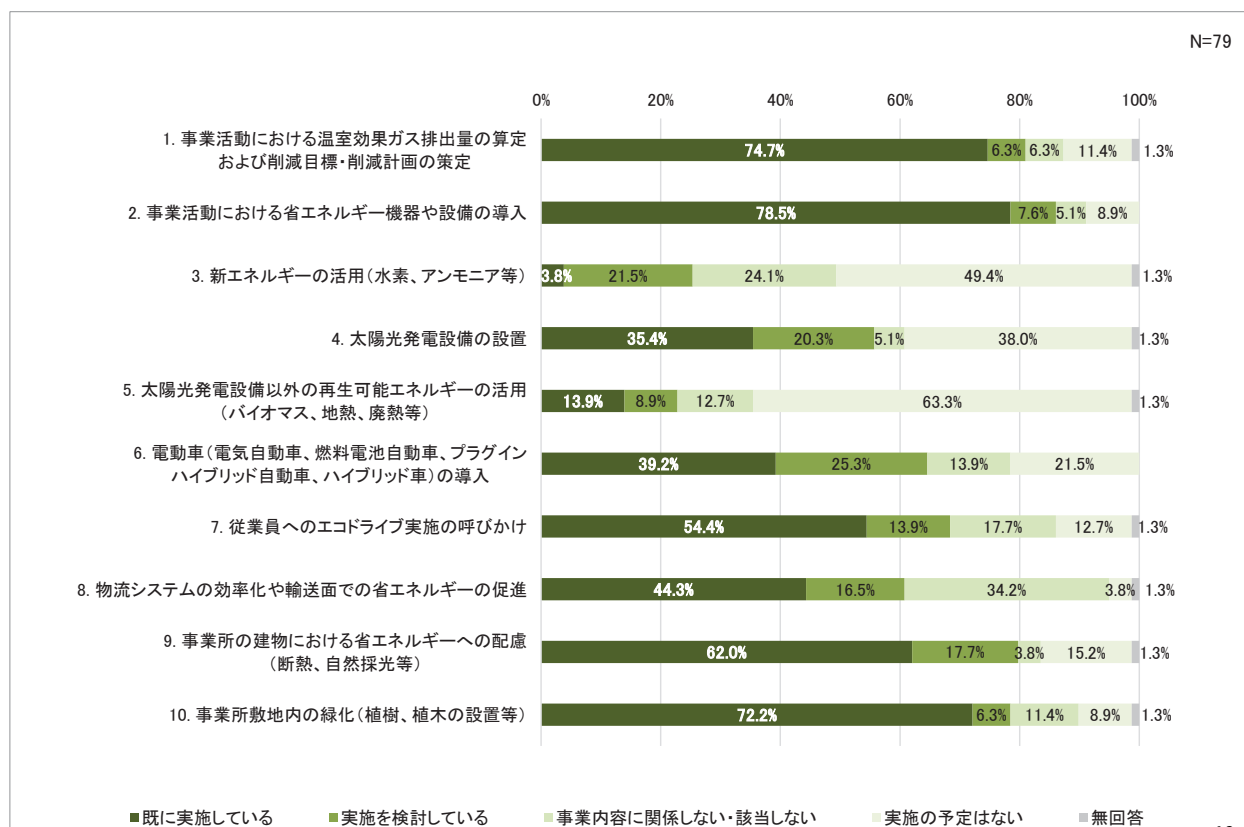


【業種】



事業所アンケート① 環境全般について

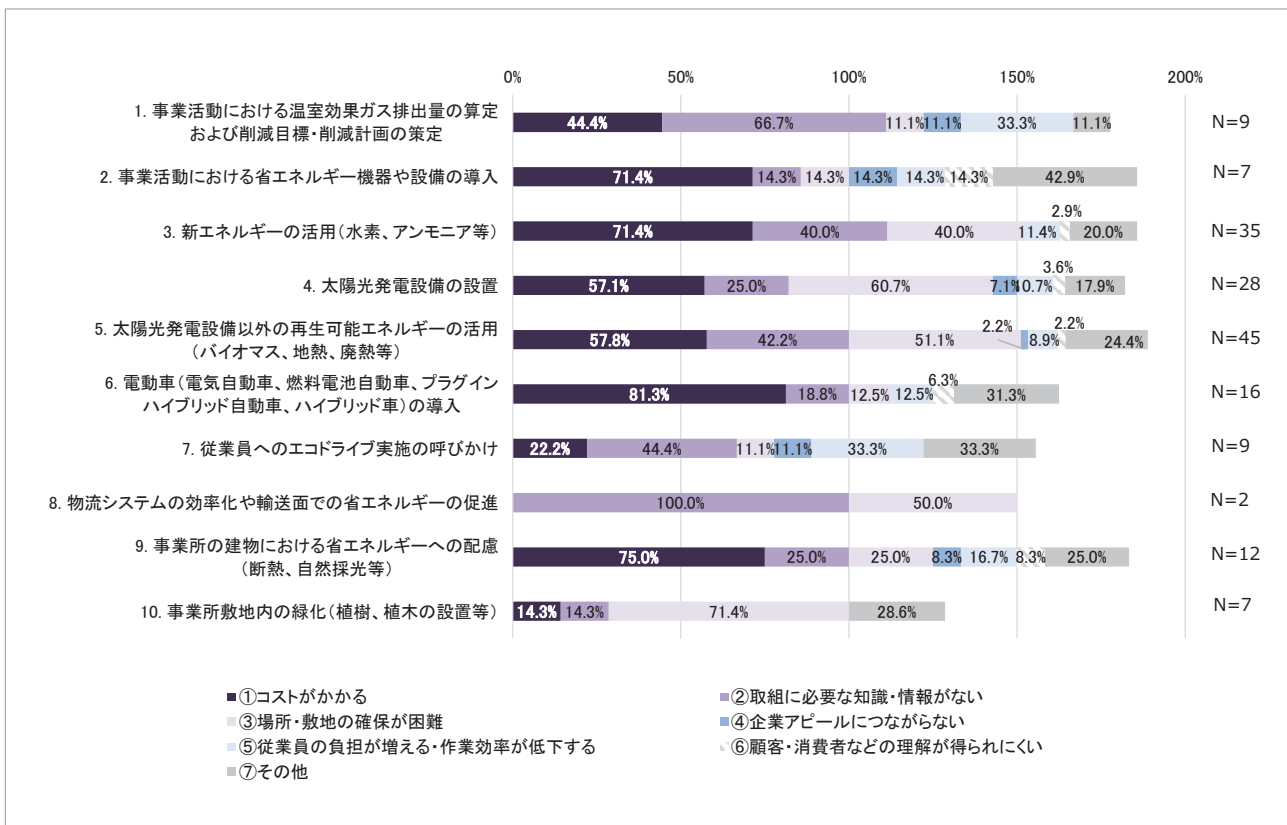
問1
環境に配慮した取り組みの実施状況【地球温暖化対策】（単一回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問 1

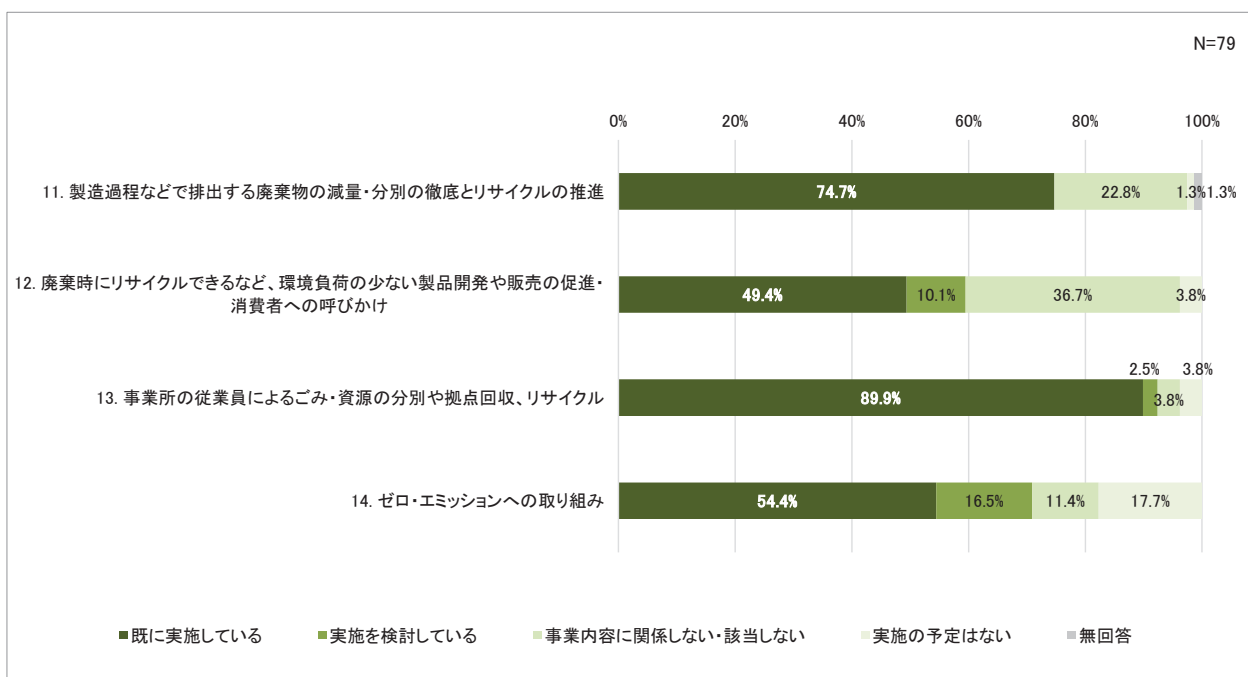
環境に配慮した取り組みの実施状況【地球温暖化対策】
実施の予定がない理由（複数回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問 1

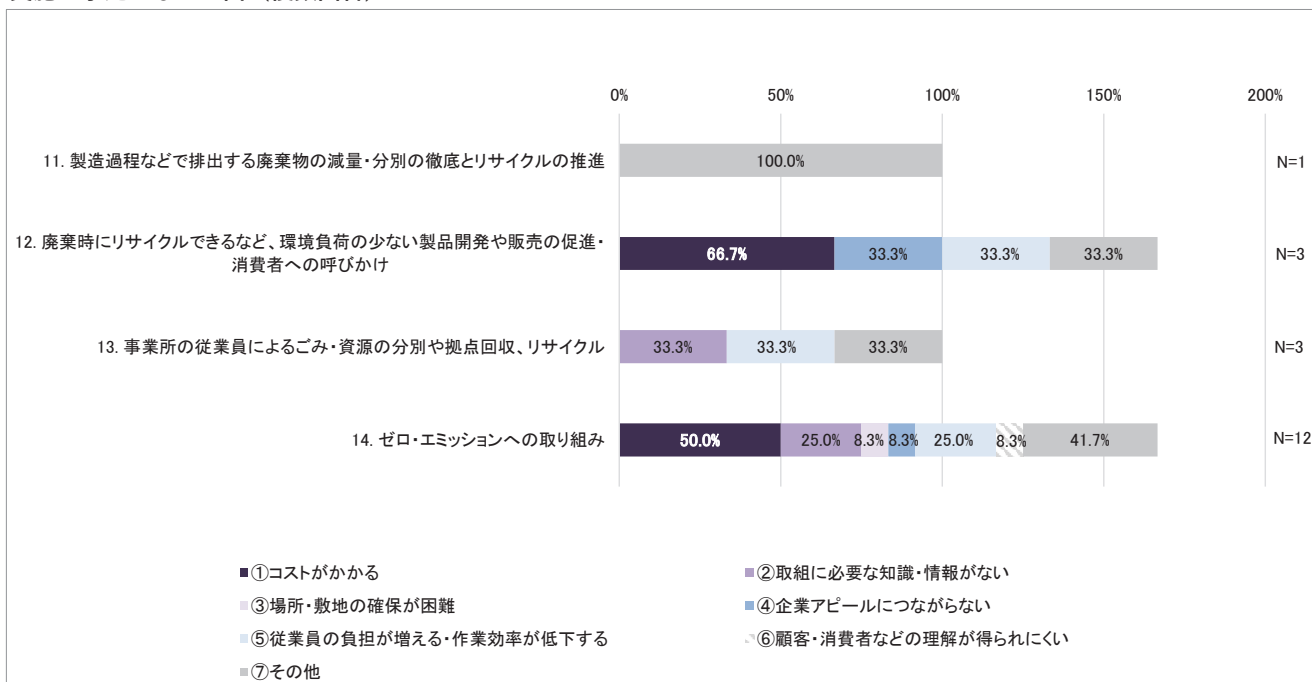
環境に配慮した取り組みの実施状況【廃棄物の減量・リサイクル】（単一回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問 1

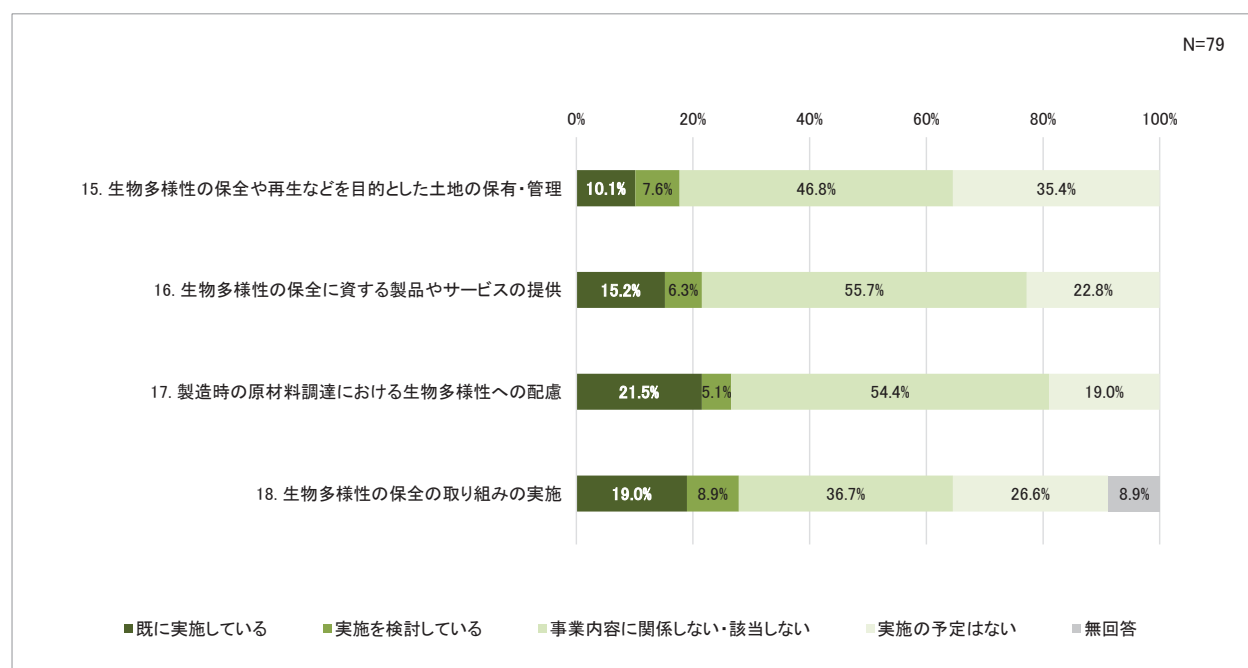
環境に配慮した取り組みの実施状況【廃棄物の減量・リサイクル】
実施の予定がない理由（複数回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問 1

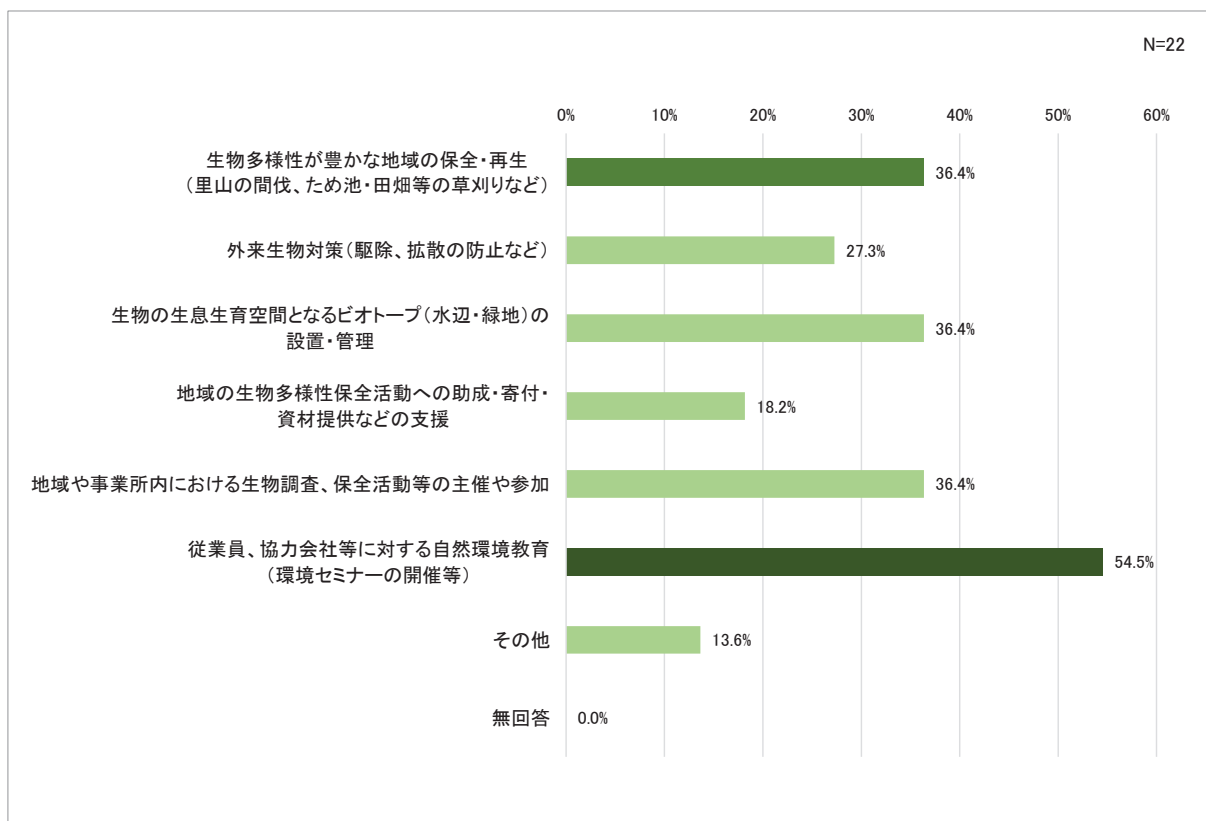
環境に配慮した取り組みの実施状況【生物多様性の保全】（単一回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問1

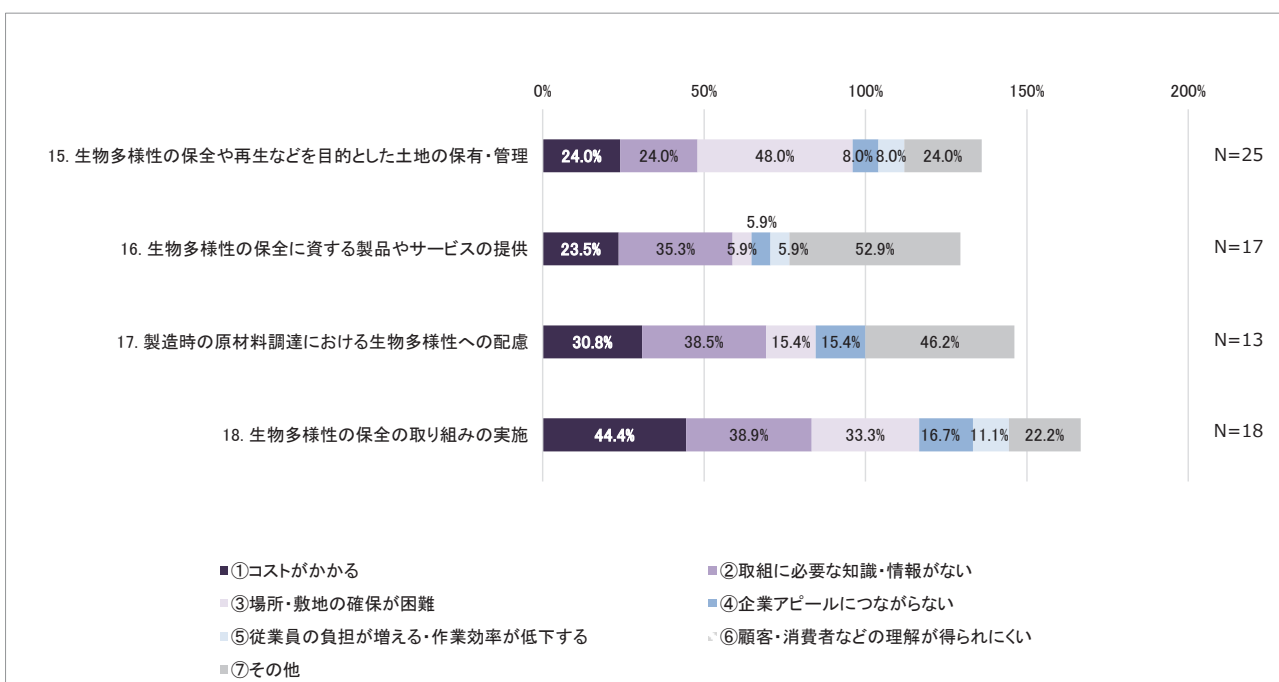
環境に配慮した取り組みの実施状況【生物多様性の保全】
「生物多様性の保全の取り組み」の内容（複数回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問1

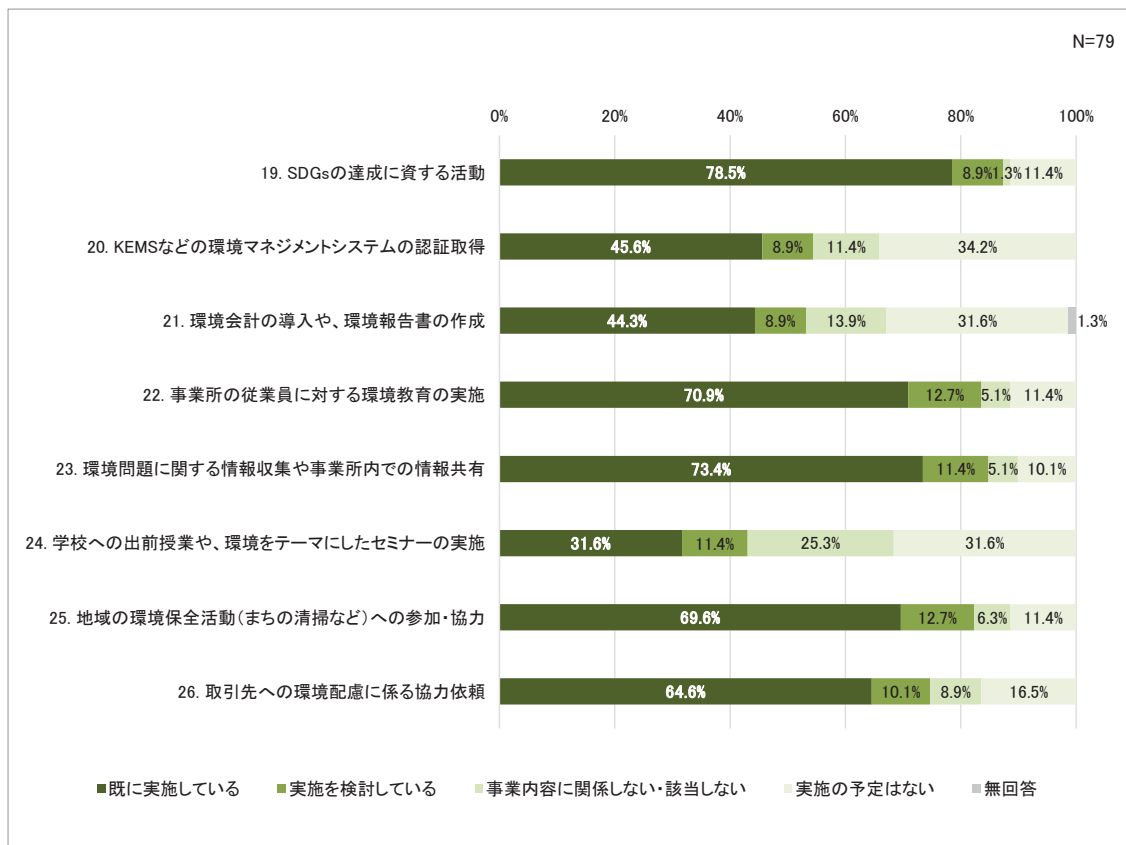
環境に配慮した取り組みの実施状況【生物多様性の保全】
実施の予定がない理由（複数回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問1

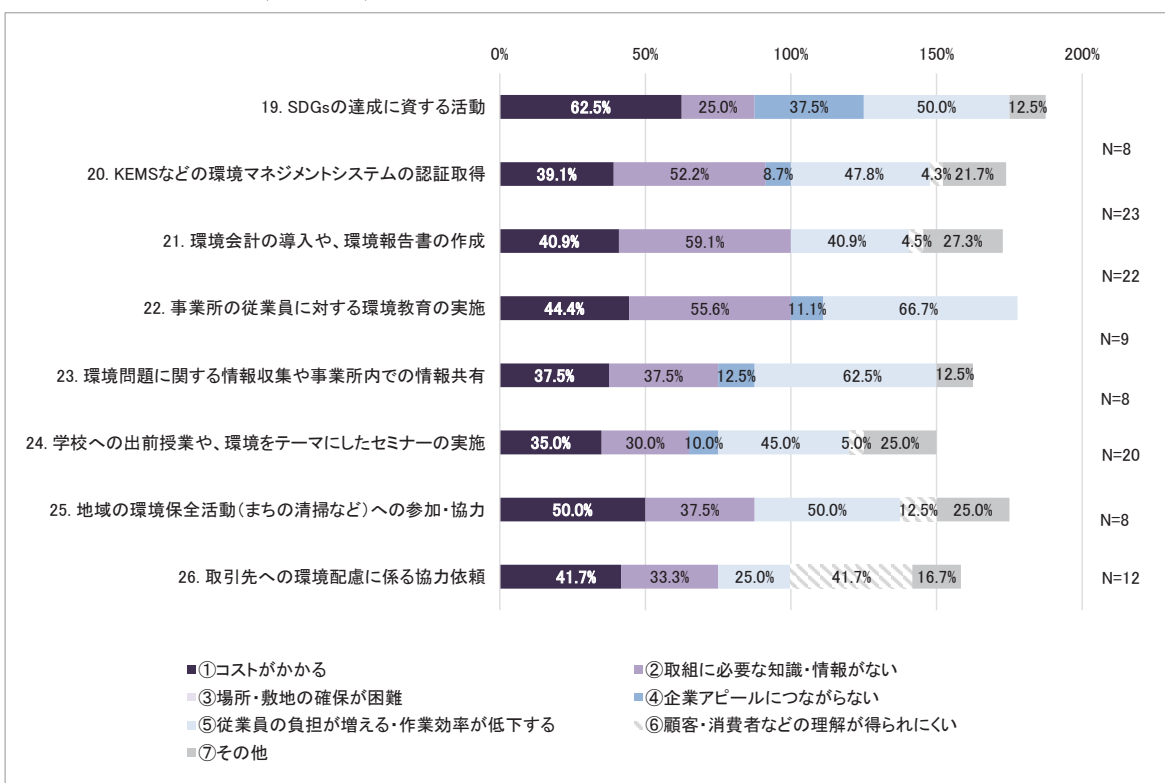
環境に配慮した取り組みの実施状況【環境管理】（単一回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問1

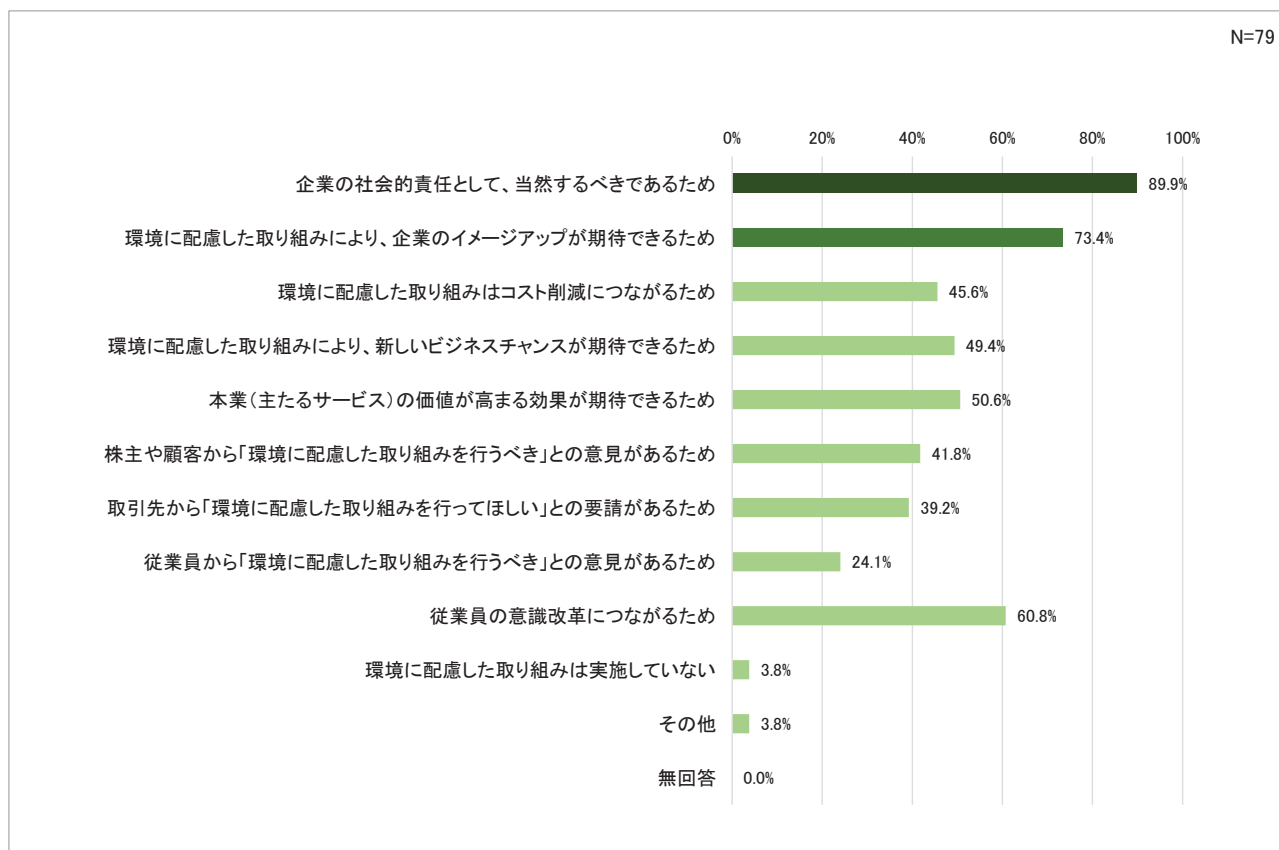
環境に配慮した取り組みの実施状況【環境管理】
実施の予定がない理由（複数回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問2

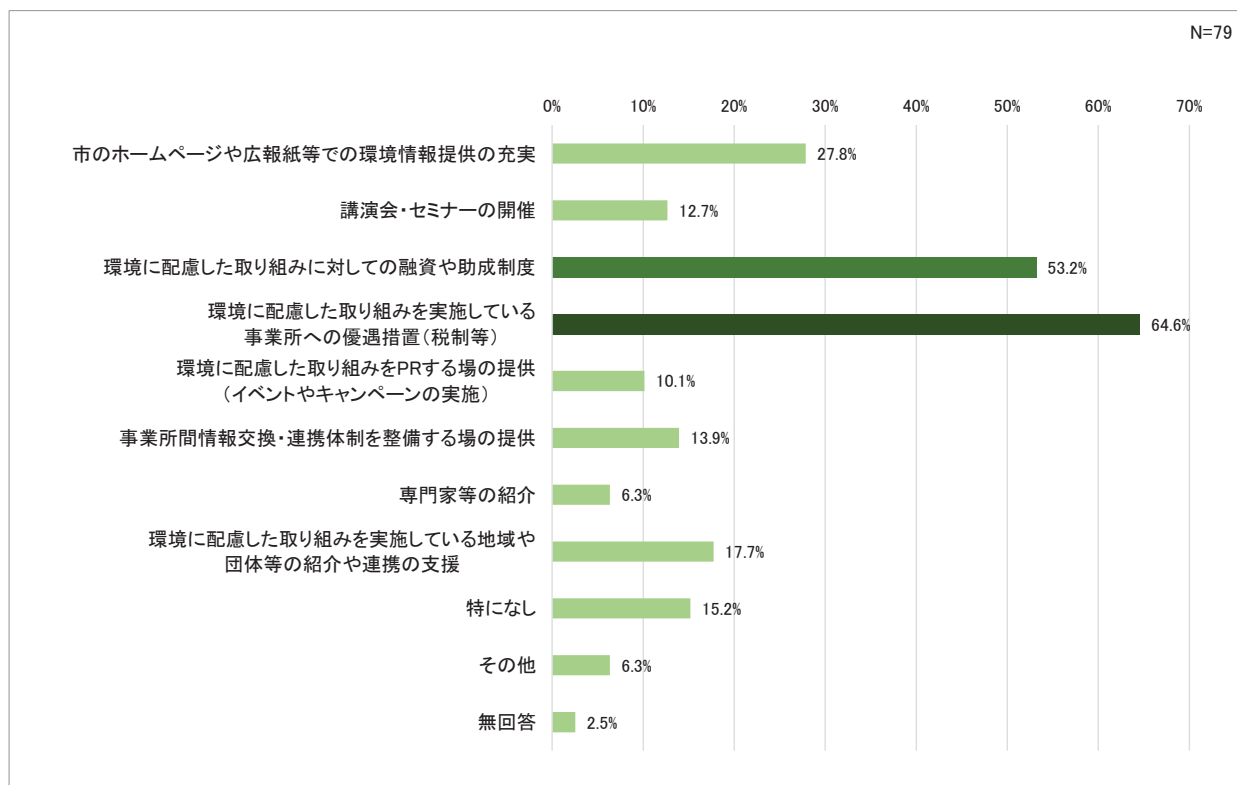
環境に配慮した取り組みを実施する理由（複数回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問3

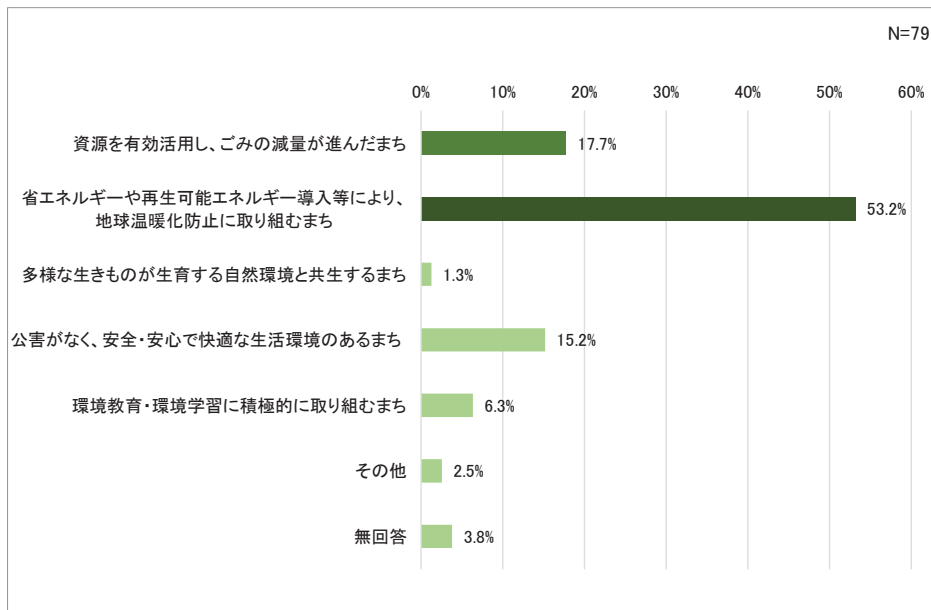
環境に配慮した取り組みを進めるうえで神戸市に求めるもの（3つまで回答）



事業所アンケート① 環境全般について

問4

望ましいと思う将来の都市像（単一回答）



都市像の実現に向け、各団体が貢献できる事業・取り組み



問5

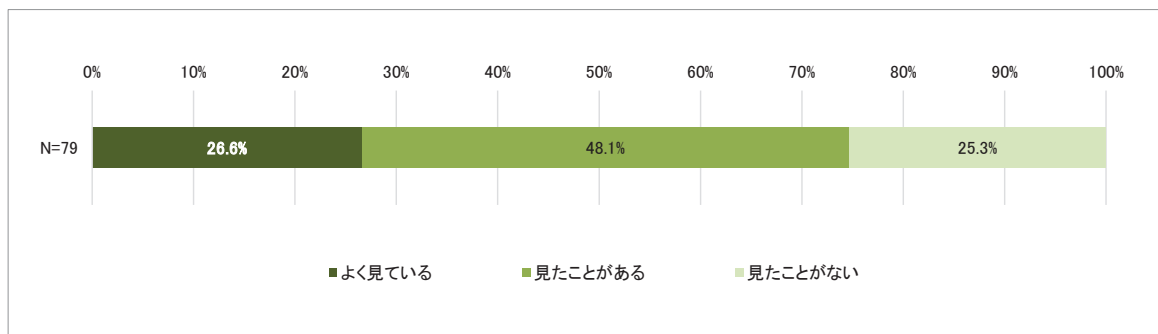
その他、神戸の環境や環境マスタープランについて（自由意見）

回答（2件）
企業の自主的努力を促す為にも、環境活動を行うことが得となる制度構築を更に促進してほしい。
公共工事など、行政による入札の際、環境対策項目などを明確化し、2013年度比の削減量を明示してほしい。

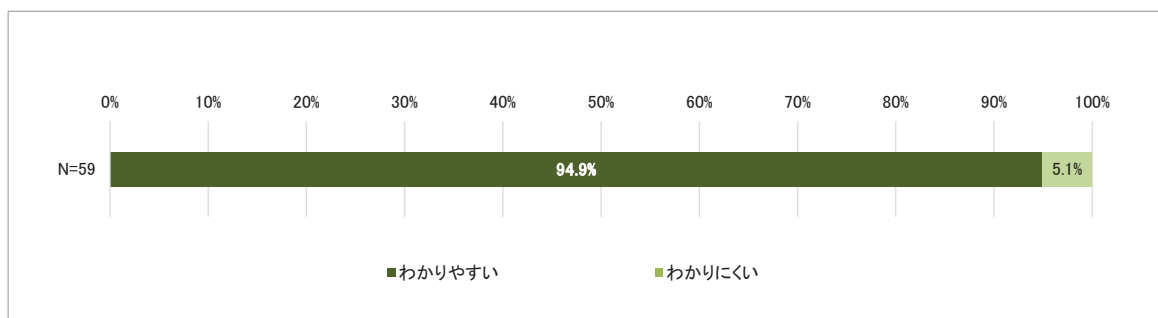
事業所アンケート② 事業系ごみについて

問1

「事業系ごみの出し方ルールブック」の認知度（単一回答）



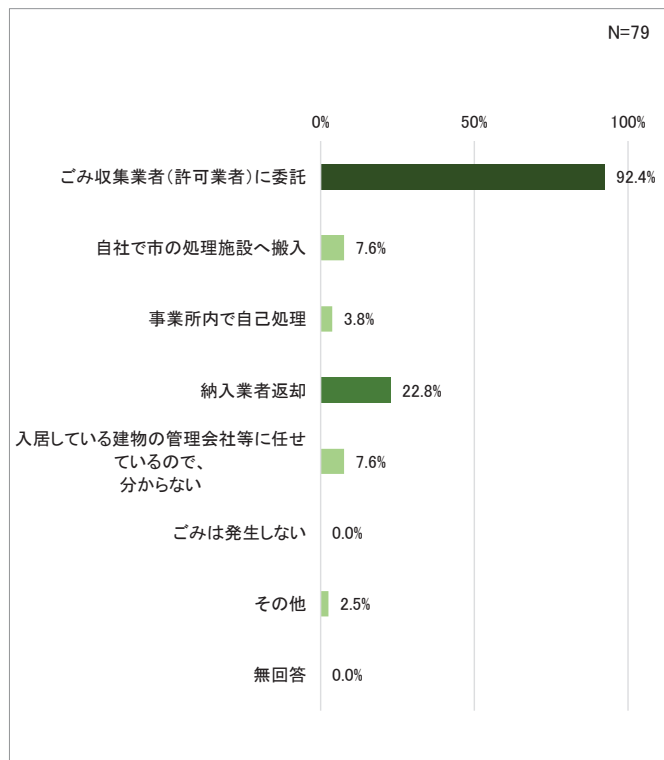
問1で「よく知っている」「見たことがある」と回答した事業所について
ルールブックの分かりやすさ（単一回答）



事業所アンケート② 事業系ごみについて

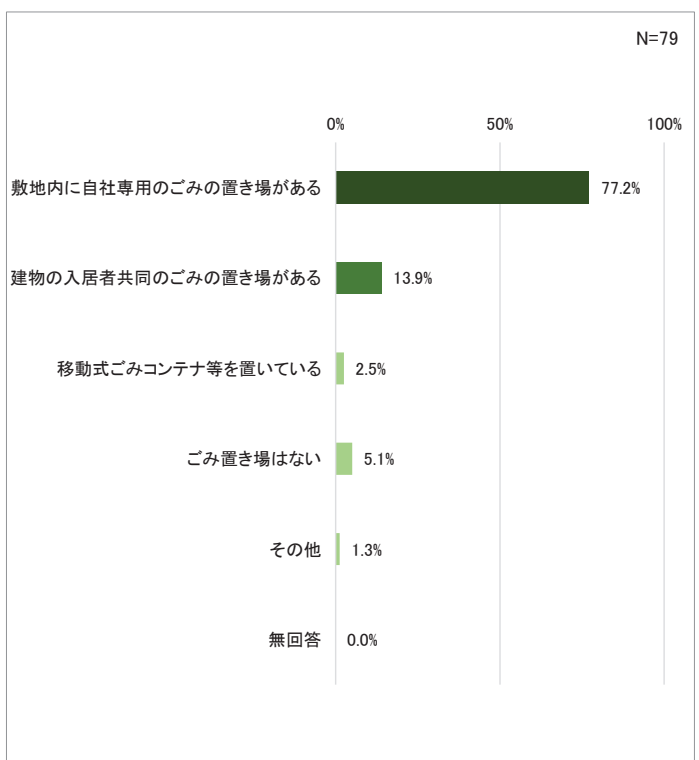
問2

ごみ処理（排出）の方法（複数回答）



問3

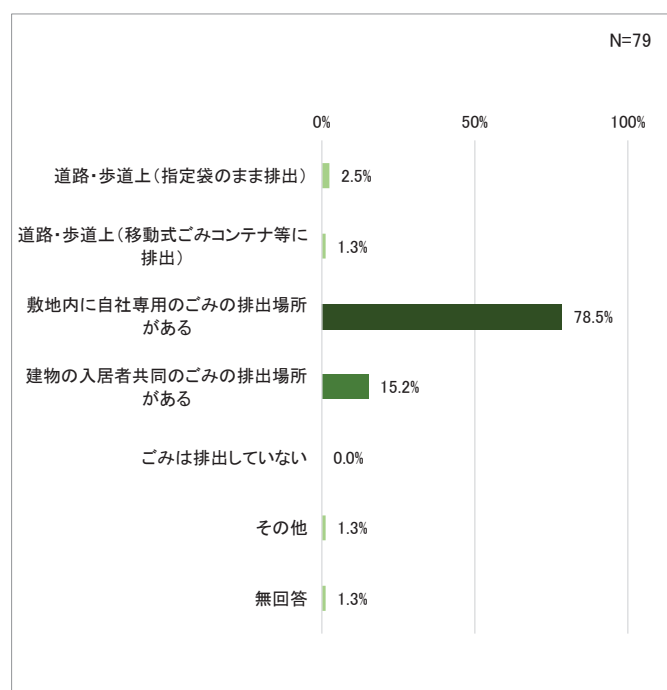
ごみ置き場（ごみ出しをするまで保管する場所）の有無（単一回答）



事業所アンケート② 事業系ごみについて

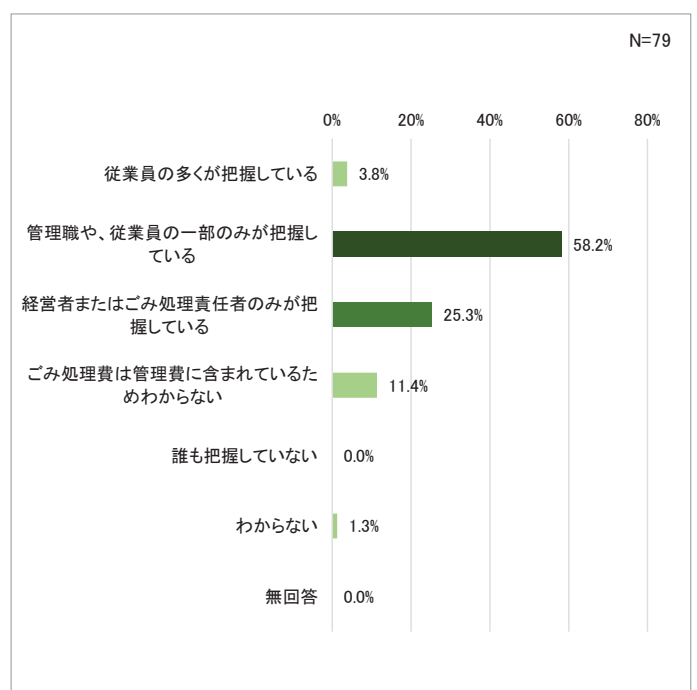
問4

ごみの排出場所（どこでごみを回収してもらっているか）（単一回答）



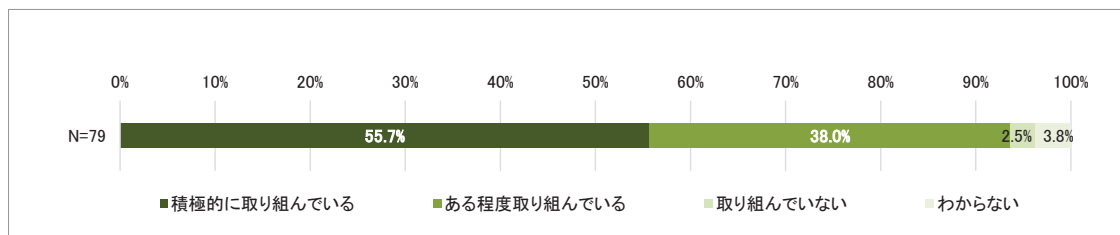
問5（1）

年間ごみ処理費用の把握状況（単一回答）

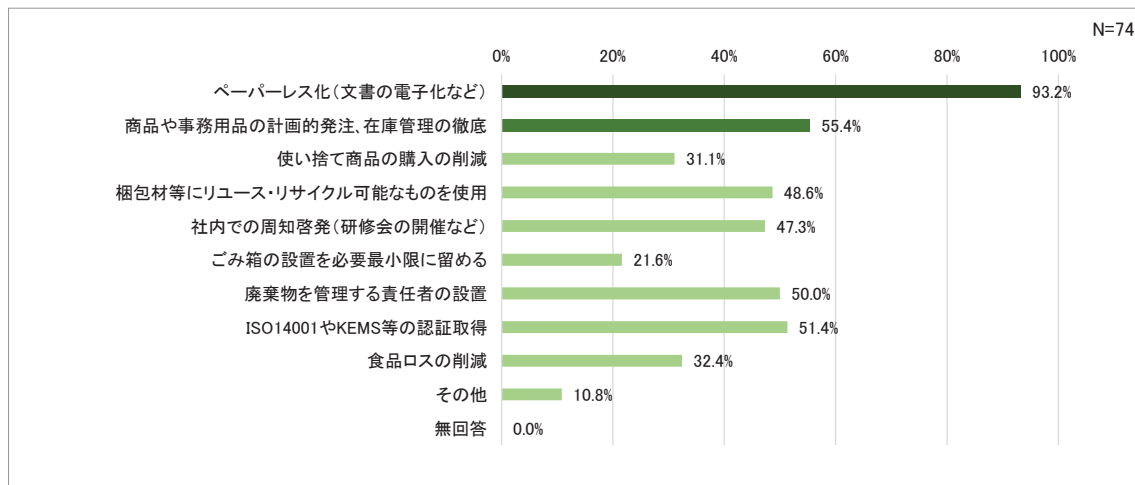


事業所アンケート② 事業系ごみについて

問5 (2) ごみの減量・資源化の取り組み状況（単一回答）

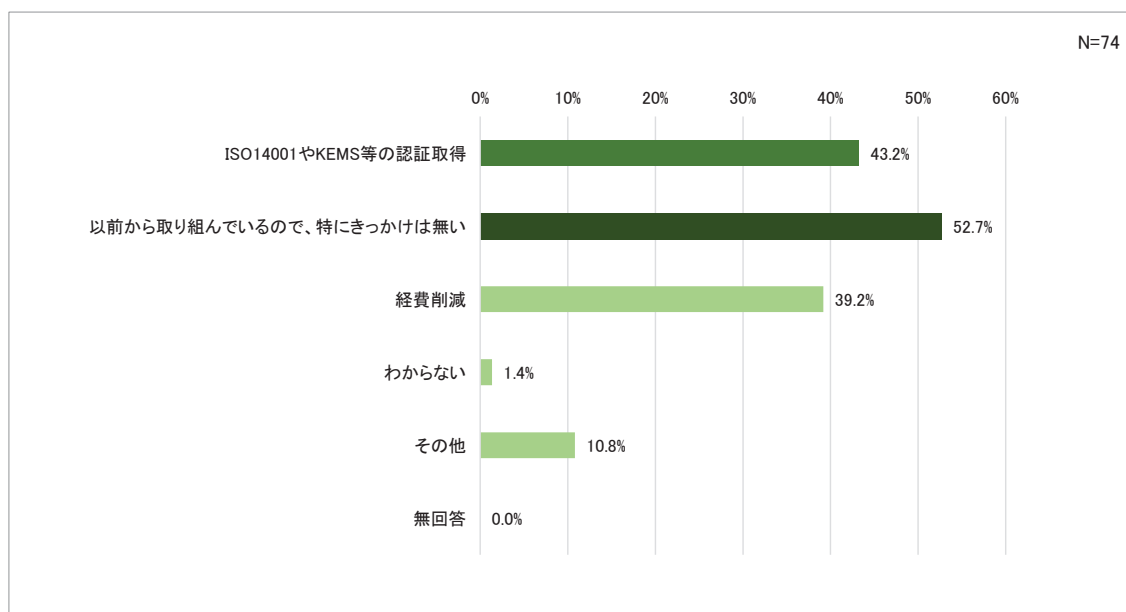


問5 (2) 「積極的に取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」事業所 取り組み内容（複数回答）



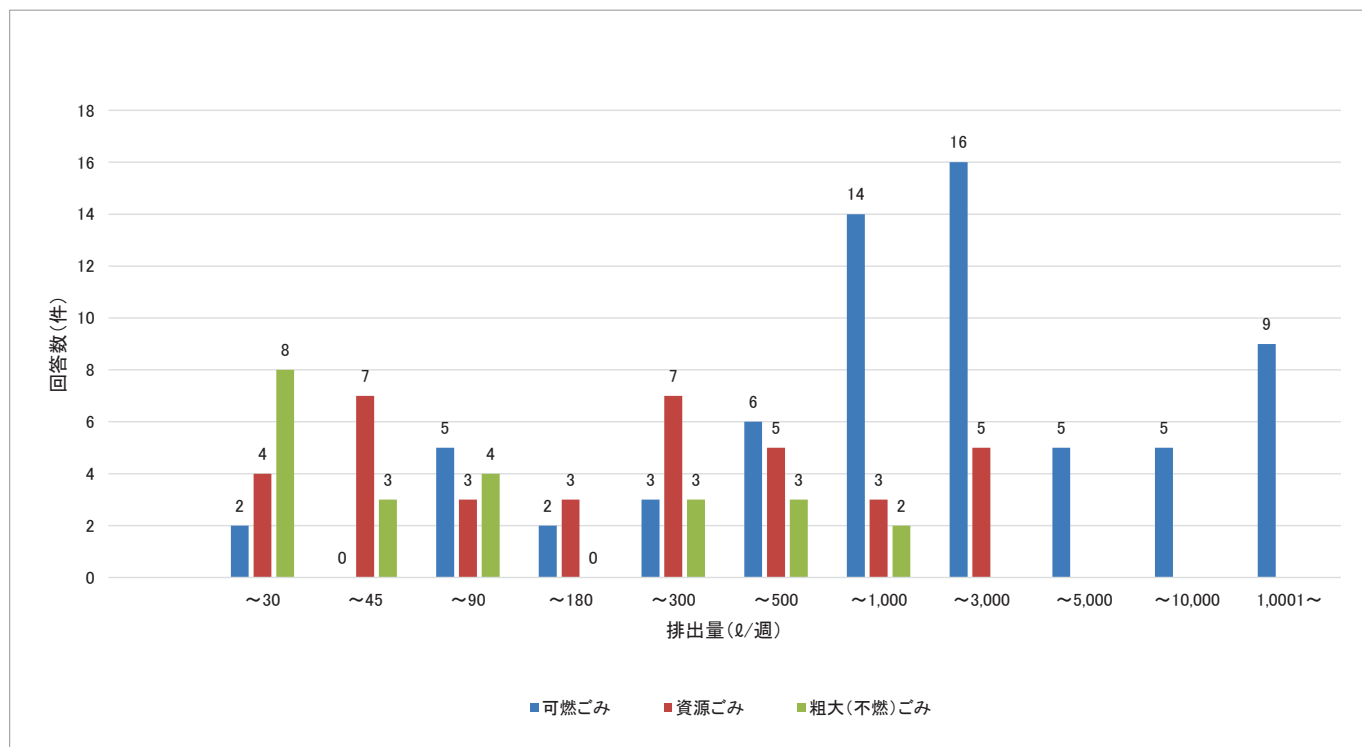
事業所アンケート② 事業系ごみについて

問5 (2) ごみの減量・資源化の取り組みのきっかけ（複数回答）



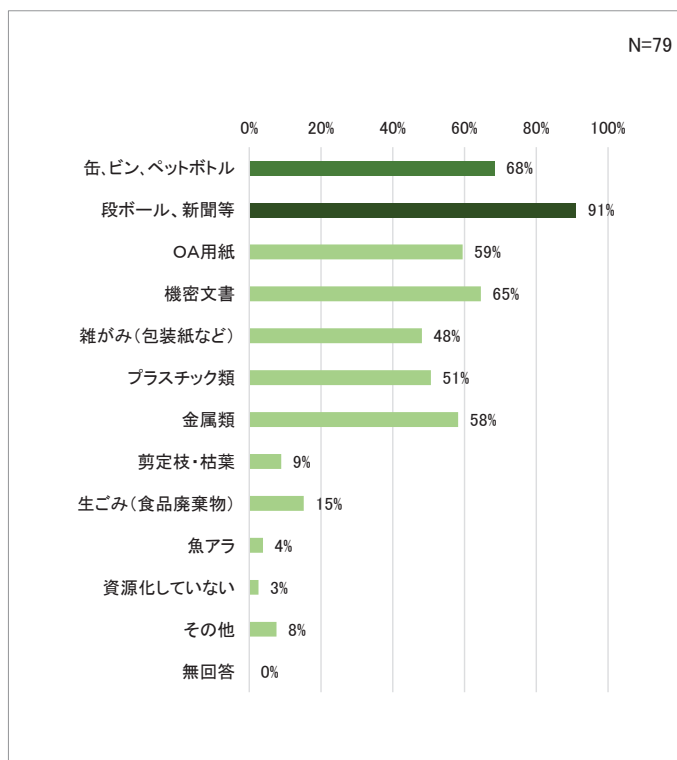
事業所アンケート② 事業系ごみについて

問6（1） 指定袋で1週間に出すごみの量

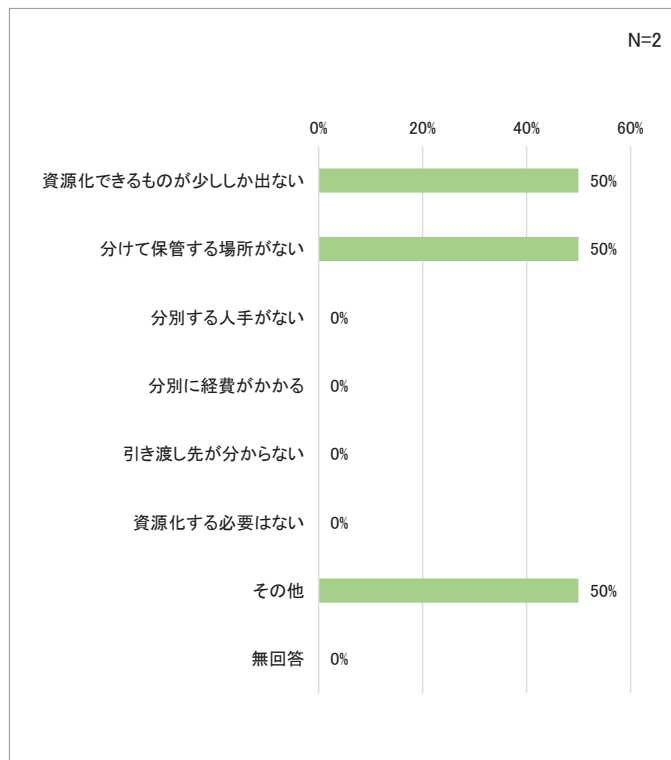


事業所アンケート② 事業系ごみについて

問6（2） 指定袋以外に分別・資源化しているもの（複数回答）



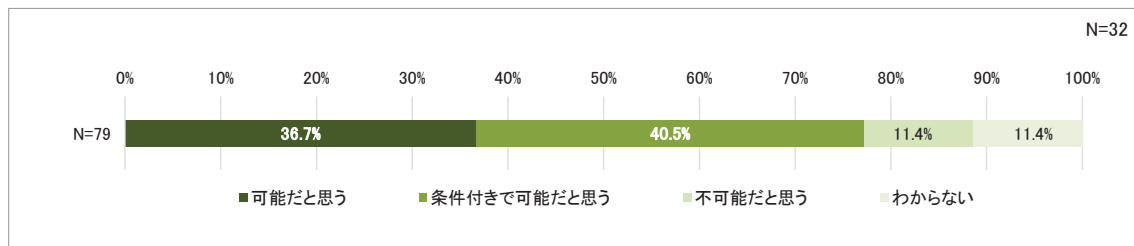
問6（2） 分別していない理由（複数回答）



事業所アンケート② 事業系ごみについて

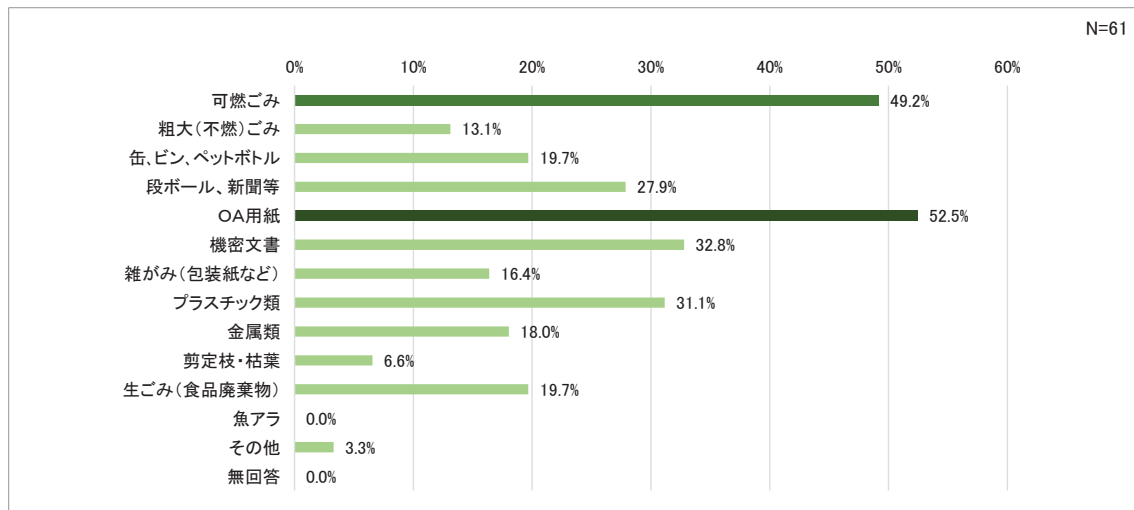
問6（3）

今後ごみを更に減量・資源化することは可能か（単一回答）



問6（3）

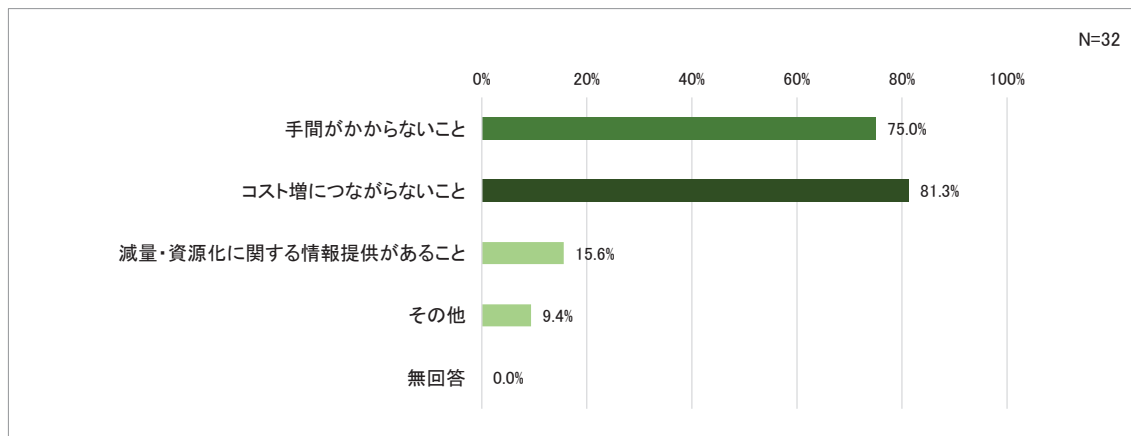
減量・資源化が可能なもの（複数回答）



事業所アンケート② 事業系ごみについて

問6（3）

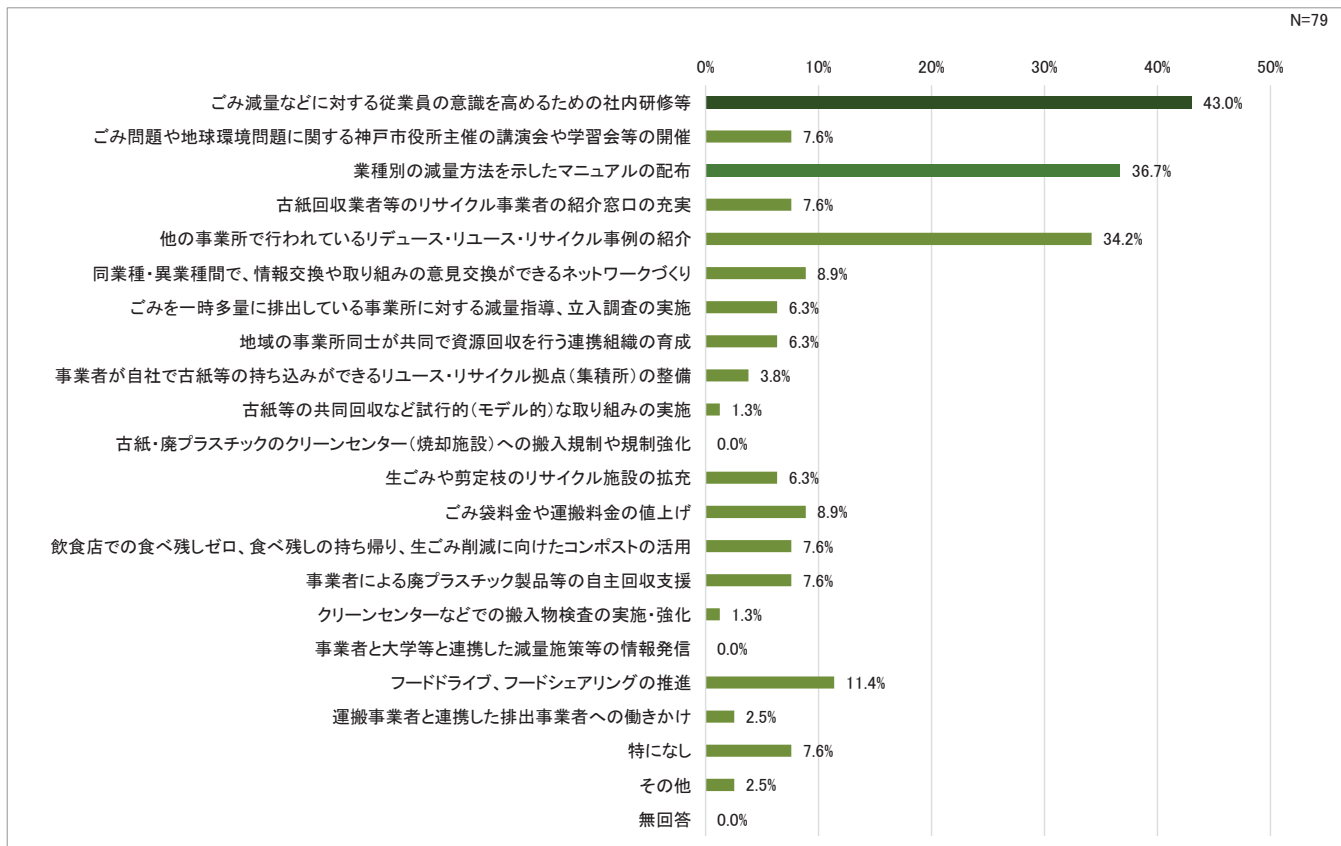
更に減量・資源化が可能な場合の条件（複数回答）



事業所アンケート② 事業系ごみについて

問 7

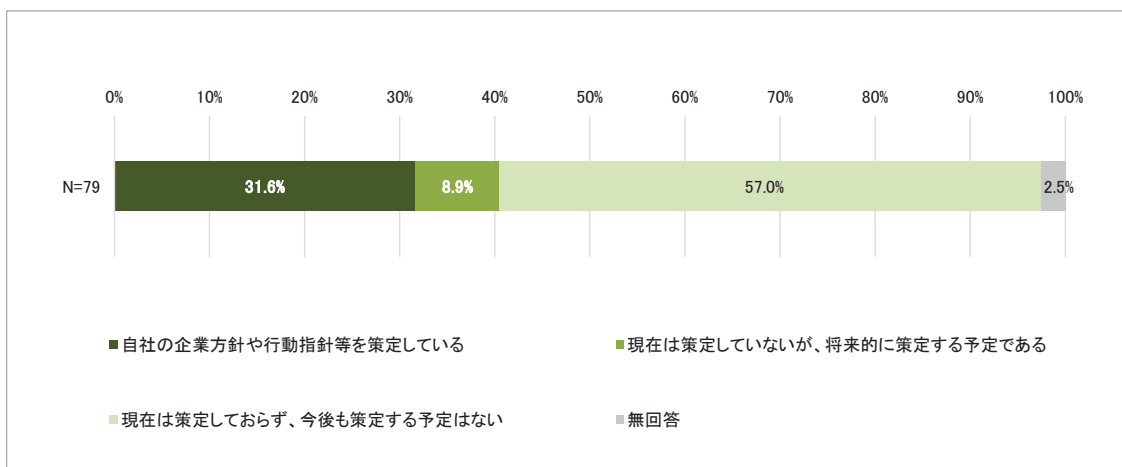
事業系ごみの減量・資源化の推進のために、今後どのような施策が大切だと思うか（3つまで回答）



事業所アンケート③ 生物多様性について

問 1

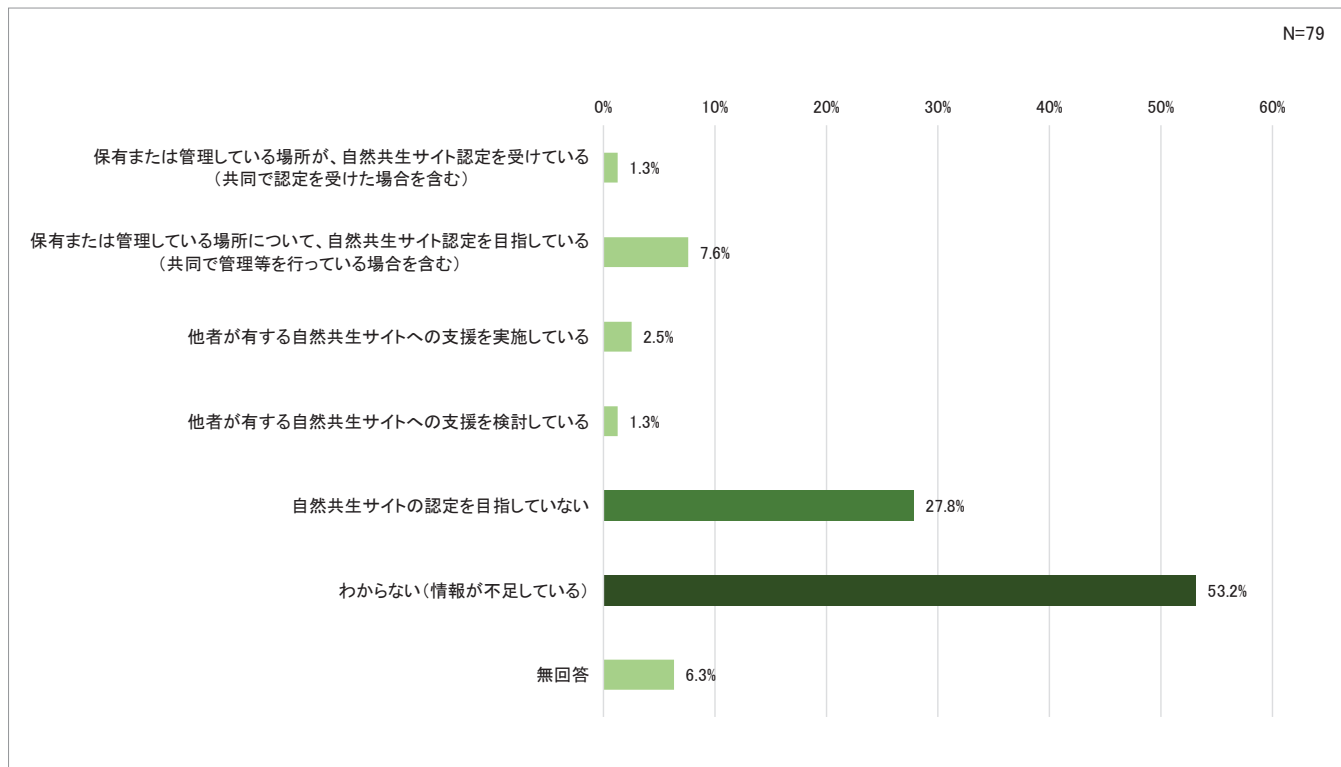
生物多様性の保全に関する企業指針や行動指針の作成状況（単一回答）



事業所アンケート③ 生物多様性について

問2（1）

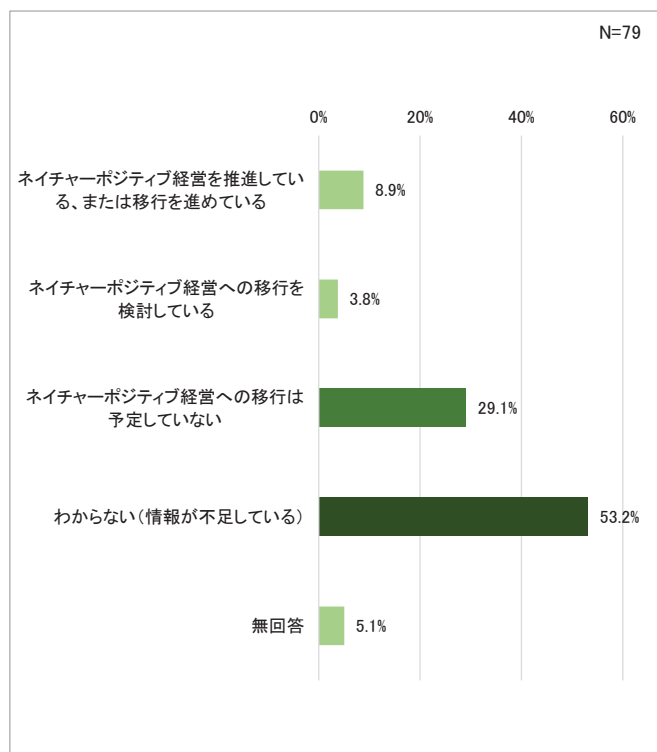
30by30目標の達成に向けた自然共生サイトの認定・支援状況（単一回答）



事業所アンケート③ 生物多様性について

問2（2）

ネイチャーポジティブ経営への移行状況（単一回答）



問3

生物多様性の保全に関する企業の取り組み（単一回答）

